

日 汉 对 照

587164

9342

7/9042

# 伤痕

[日]小林多喜二著

42

上海译文出版社

封面设计：陈锡奎

书号：9188·67

定价：0.45 元

9342

7/904

587164

日汉对照

# 伤 痕

[日]小林多喜二 著

杨幸雄 杨国华 译注

上海译文出版社

日 汉 对 照

伤 痕

〔日〕小林多喜二 著

杨幸雄 杨国华 译注

上海译文出版社出版

上海延安中路 967 号

新华书店上海发行所发行

上海新华印刷厂印刷

开本 787×960 1/32 印张 5.5 字数 87,000  
1980 年 8 月第 1 版 1980 年 8 月第 1 次印刷  
印数 1—26,000 册

书号: 9188·67 定价: 0.40 元

## 内 容 提 要

小林多喜二(1903—1933)是日本优秀的无产阶级作家和战士，出生在秋田县一个贫苦的农民家庭，1924年毕业于商业学校，1933年2月被日本反动当局逮捕，惨死狱中。著有《一九二八年三月十五日》、《蟹工船》、《在外地主》、《为党生活》等作品。

这里所收的几个短篇小说，从不同的侧面反映了生活在社会下层的日本人民的悲惨生活，作品充满了对被压迫人民的深切同情。读者从这些作品中可以看到当时日本的社会面貌。

## 目 录

不幸的人·····	2
腊 月·····	14
杀人凶狗·····	44
田口同志的伤感·····	58
爸爸要回来啦·····	96
信·····	104
伤 痕·····	116
母亲和妹妹的生活道路·····	124
失业货车·····	138
小健的作文·····	164

## のろ　　ひと 呪われた人

かれ　ちかごろな　　ひだり　むね　おもくち　あつ  
彼は近頃何んだか、左の胸が重苦しくあつ 圧せられ  
るよう 様にかん 感じたた。「どうしたんだろうらう」と云うて  
はた、時々仕事の手を休めて胸をさすったりら、深  
く呼吸こきゅうして見たりした。

かれ　じゅうごさい　とき　か　ざんばい　かいしゃ　かよ  
彼は十五歳の時から火山灰会社に通っていた。  
かれら　みなくち　てぬぐい　おけ　か　ざんばい　もうもう  
彼等は皆口を手拭で覆いながら、火山灰の朦々  
と立上って息が詰りつま そうなところ 所でいつも働いてい  
た。そして時々鼻をかむと火山灰の粉が交まじって出  
て来るのであった。その度毎に彼は肺に障さわらない

1. (圧せられる) 圧せ: サ变动词“压する”的未然形; られる: 助动词“られる”的连体形, 表示被动, “られる”一般接在上一段、下一段或カ变动词未然形后边, 但有时也接在某些サ变动词未然形(セ)后边。

2. (様に) 助动词“ようだ”的连用形, 接体言+の或活用词的连体形后, 这里表示比喻。△まるで春のように暖かい。/简直象春天一样温暖。

3. (た) 助动词“た”的终止形, 接动词、形容词、形容动词或助动词连用形后, 这里表示过去。△昨日、私は彼のうちへ行った。/昨天我到 he 家里去了。“た”接在ガ、ナ、バ、マ行五段动词连用形后边时, 变为“だ”。

4. (どうしたんだろう) 由“どう”、“し”、“た”、“ん”、“だろ”、“う”等六个词构成, 表示对某件事疑惑不解, 意为“怎么搞的(呢)?”、“怎么回事呢?”。ん: 形式名词“の”的音变, だろ: 助动词“だ”的未然形, う: 助动词“う”的终止形, だろう: 表示推测。

## 不幸の人

他近来总感到左胸仿佛被什么东西压着似的，郁闷难受。“怎么搞的呀？”他说着，不时放下手里的活儿，一会儿摸摸胸口，一会儿做做深呼吸。

他从十五岁起，就在火山灰公司工作。他们经常用手巾捂住嘴，在火山灰弥漫得令人窒息的地方干活。而且往往一擤鼻涕，火山灰粉末就会跟着带出来。每遇这种情况，他就担心会不会影响肺部。

---

5. (云う) “言う”的ウ音便形，等于促音便形“言っ”。“(いう”的“い”，汉字应为“言”。)

6. (ては) 接动词、形容词或助动词的连用形后，这里表示一个主体前后项动作的反复进行。△敬愛する周總理を思つては、感動の涙をとばす。/每当想起敬爱的周总理，总是感动得流下眼泪。“ては”接在ガ、ク、バ、マ行五段动词连用形后边时，变为“では”。

7. (たり) 接在活用词连用形后，以“…たり…たり”的形式，列举同类动作或状态。△本を読んだり、手紙を書いたりして日曜を過ごした。/看看书，写写信，就这样度过了星期天。“たり”接在拨音便形或が行イ音便形后边时，变为“だり”。

8. (ながら) 接动词连用形后，表示前后项动作同时进行。△新聞を読みながら食事をする。/边看报，边吃饭。

9. (そうな) 助动词“そうだ”的连体形，接动词或“れる(られる)”“せる(させる)”等助动词的连用形，以及形容词、形容动词、“たい”“ない”等助动词的词干后，表示说话人对某事经过观察而得到的印象。そうだ：接形容词“ない”“よい”后时，“ない”“よい”的词干后需加“さ”字，如：“なさそうだ”“よさそうだ”。△汽車が出そうだ。/火车要开了。

かしら<sup>1</sup>と、気遣うのであった。

ところが又、彼の胸がチクチクと痛み出し<sup>2</sup>、  
ゴホンゴホンという軽い咳さえ<sup>3</sup>交<sup>4</sup>ってき<sup>5</sup>た。「は  
て<sup>6</sup>なあ<sup>6</sup>……」と考えられる事は幾度もあった。彼  
はふと或事に思い到<sup>7</sup>った、その時彼はハッと驚き  
血の気を失<sup>8</sup>った。「……いやいやそんな事<sup>9</sup>があっ  
て耐<sup>10</sup>るものか<sup>10</sup>」と云うたが、然し、一度そう思っ  
て見ると胸の異状が一つ一つ思い当<sup>11</sup>る節<sup>11</sup>がある。  
それでも<sup>12</sup>恰も泉の涌くが如く<sup>12</sup>「若しや……」とい  
う不安が、ヒッシと<sup>13</sup>押寄せ<sup>13</sup>て来た。彼は其の度  
毎に無理な否定の言葉を絞り出して極めて危険な  
自分の位置を安心な域に置<sup>14</sup>こう<sup>14</sup>とした。又勉め  
てそんな事は思わないで、働こうともした。然し  
愈愈益益不安の念に襲<sup>15</sup>われる<sup>15</sup>のであった。

彼はある休日に、最寄の病院へ行<sup>16</sup>った。彼は痛

1. (かしら) 在句末(包括用“と”引出的小句子末)表示怀疑。△私にできるかしら。/我能行吗?
2. (出し) 动词“出す”的连用形, 接动词连用形后表示“开始”。△雨が降りだした。/开始下雨了。
3. (さえ) 接各种词后, 这里表示添加。△道に迷って、雨にさえ降られて、さんざんだったよ。/迷了路, 又遭到雨淋, 弄得狼狈不堪。
4. (き) “来る”的连用形, …てくる: 接动词连用形后, 表示“开始~起来”。△だんだん寒くなってきた。/逐渐冷起来了。
5. (はて) 迷惑不解或犹豫不决时发出的感叹声。△はて、どうしよう。/这, 怎么办呢?
6. (なあ) 接各种词后, 表示加强语气。△中華料理はうま

可是，这一次他的胸口竟然开始隐隐作痛起来，甚至带有“咯咯”的轻微咳嗽声。“这……？”他百般疑虑。突然，他联想到一件事。这时，他便吓得面无人色……“不，不，这不可能！”虽然这么说，但仔细一想，胸部的每一种异常情况，使人愈想愈感到是肺病的迹象。于是，那种“万一……”的不安心情便象泉水般地紧紧袭来。每当这种时候，他总是硬想出一些否定的理由，借以从心灵上摆脱自己极其危险的处境，并试图尽量不去想这类事情，专心致志地干活。然而，不安的心情却越发频繁地袭来。

在一个休息天，他去附近一家医院看病。他一

---

いなあ。/中国菜真好吃！

7.〔ものか〕接句末活用词的连体形后，表示强烈的反驳或断然否定。△世の中にお化けなんかがあつてたまるものか。/世上根本不可能有什么鬼！

8.〔節〕地方，点。△彼の話にははっきりしない節がある。/他的话里有含糊的地方。

9.〔それでも〕从前后关系来看，该词应为“それで”。

10.〔如く〕文言助动词“ごとし”的连用形，接活用词的连体形、活用词连体形+が或体言+の后面，表示比喻。△彼はこのことについて、てのひらを指すがごとくよく知っている。/他对这件事了如指掌。

11.〔ヒッシと〕由“ひしと”变化而来，但语气比“ひしと”强烈，意为“紧紧地”。

12.〔う〕助动词“う”的终止形，接五段动词、形容词、形容动词、部分助动词的未然形后，这里表示意志。△彼は川を泳いで渡ろうとしたが、流れが急で果たせなかった。/他想游到对岸去，可是水流太急，没能成功。

13.〔襲われる〕文言动词“襲う”的被动态“襲わる”的连体形，等于“襲われる”。

む胸を抑えながら色々な事を想った。「若しそう  
だったら……」「いやそんな事はない……」然し診  
察室から出て来た時の顔は、少しの血色もなく、  
唇はワナワナと震えていた。

「ああ……矢張りそうだったのか<sup>1</sup>なあ」と彼は  
今迄腫物の様にして置いた<sup>2</sup>、「若しや……」という  
最もいまましい言葉は「まさか……」という言葉  
を否定して、儼然たる「である」という断定的に変  
った。「ああ肺病、人に嫌われる肺病、俺はその恐  
しい病に罹ったんだ。……もう何も出来ないで始  
終青い顔をし<sup>3</sup>、ゴホンゴホンと咳をしては、膿の  
様な痰を吐く、それに時々……血が……血が……」  
彼は何も<sup>4</sup>見えない魔に追われた様に、ソワソワ  
して苦しそうに悶えた。

「おい君！ 風邪でも<sup>5</sup>引いたんだらう。なに一日  
くらい<sup>6</sup>寝ればすぐ全治っちまう<sup>7</sup>よ<sup>8</sup>」と何も知ら  
ない彼の友杉野は、これ以上慰安の言葉を使う  
ことは出来なかった。「杉野は何も知らないが、若  
し知ったらこの様に話したり<sup>9</sup>してくれないだろ

1. [か] 这里表示带有感叹情绪的自问语气。△そうか。どうしてもだめか。/原来如此！怎么搞都不行啊！△そうか？/是吗？

2. [腫物の様にして置いた] ……ておく；表示一直保持某种状态。△子供たちを捨てておくのはよくない。/对孩子们放任不管是不好的。

3. [青い顔をし] 意为“脸色苍白”。…顔をする；表示脸部的

边接着疼痛的胸口，一边左思右想：“倘若真是这样的话……”“不，不会有这种事……”可是，走出诊疗室的时候，只见他面无人色，双唇不停地颤抖着。

“唉……还真是这么回事儿啊！”他以前把它看作毒瘤的“万一……”这个最厌恶的词，如今已否定了“总不会……”这句话，而俨然变成了“是”这句斩钉截铁的话了。“唉！肺病，令人讨厌的肺病，我居然得了这种可怕的病……我将什么事都不能干了，永远脸色苍白，‘咯咯’地一阵咳嗽之后，吐出脓样的痰，甚至时常会伴有……血……血……”他仿佛被无形的魔鬼驱赶着似的，坐立不安，苦闷万分。

“喂，你感冒了吧？没关系，休息一两天就会好的。”对他的病情一无所知的朋友杉野，除了这几句话以外，再也说不出更好的话来安慰他了。“杉野什

表情。△彼女は困ったような顔をした。/她露出为难的情绪。

4.〔何も〕从前后关系来看，该词应为“何か”。

5.〔でも〕接体言后，这里表示从类似事物中举出一个例子。△天気がいいから，公園へでも遊びに行こうか。/天气很好，咱们到公园(或者其它什么地方)去玩吧。

6.〔くらい〕接体言、活用词连体形后，表示大致的程度。△ロンドンまで飛行機で片道いくらぐらいかかるのですか。/乘飞机去伦敦，单程需要多少钱？

7.〔ちまう〕“てしまう”的约音。接动词连用形后，表示动作的完了。△三日で書いてしまった。/三天就写完了。△みんな食べちまえ。/吃光算数。

8.〔よ〕表示加强语气。△旅行に行ったら，体には十分気をつけるんだよ。/出去旅行，要注意身体啊。

9.〔たり〕表示举出事例，暗示其它类似的事项。△教室で騒いだりしてはいけません。/不能在教室里吵啊闹的。

う。でも俺の病気は彼等に知らせね<sup>1</sup>ばならない  
 だろう。けれども俺は彼等の前で、言い得る<sup>2</sup>だけ<sup>3</sup>  
 の勇気があるだろうか<sup>4</sup>……ああとても云えない」  
 彼は非常に思い悩んだ。彼は病院が何んだか厭で  
 たまらなく、すぐ家へ帰ろうとした。彼はなるだ  
 け人の眼に入らない様に<sup>5</sup>少し俯向加減に<sup>6</sup>、こそ  
 こそと街の隅の方を選んで歩いた。彼は道々色々  
 の事を頭に浮べた。「医者が肺病だと言ったよ…  
 …」と家に帰って云う時に、年寄った親達の驚く  
 顔を想像して見た。その時彼は一種の復讐を感じ  
 た。「親父があんな所へやったからよ。家だって<sup>7</sup>  
 そんなに貧乏でないんでないか<sup>8</sup>。S(中学校を卒  
 業して、現に三菱に出ている)の家だってそんな  
 に良い暮らしをし<sup>9</sup>て居ないが、もう参拾円も取っ  
 ているんだ。ふん馬鹿嗅い。」そして口惜涙を流し  
 た。然し、この憂悶を打消すだけの一つの閃きが

1. (ね) 助动词“ぬ”的假定形，接活用词未然形后，表示否定。“ぬ”的终止形和连体形，有时用“ん”，尤其接助动词“ます”后，一般都采用“ません”的形式。△今すぐ行かねば間に合わんぞ。/不立刻去就赶不上啦！

2. (得る) 接动词连用形后表示“能够”，也可读作“うる”。△そんなことがありえるものか。/这种事绝不可能！

3. (だけ) 接体言、活用词连体形后，这里表示程度。△泳げるだけ泳ぐ。/能游多长就游多长。△彼には大学に受かるだけの实力がある。/考大学他是有把握的。

4. (か) 表示疑问。△何かご用ですか？/你有什么事吗？

么都不知道，但若知道的话，恐怕不会跟我这样说了。不过，我的病情还是应该告诉他们吧。然而，我能有足够的勇气在他们面前说出来吗？……哎，我怎么也说不出口啊！”他苦恼异常，不知为什么竟对医院感到讨厌透了，他想立刻回家。他微低着头，尽量不惹人注意，悄悄地尽找马路的偏僻处走。一路上，他的脑海里浮现出各种各样的想法。“医生说 是肺病……”他想象着自己回到家里说这句话时，年迈的双亲那副吃惊的神色。这时，他产生了一种复仇的心理。“这只能怪父亲让我到那种地方去干活。我们家难道说会有那么穷吗？S（中学毕业后，现在三菱公司工作）家的生活也不怎么好，可现在一个月已经能挣三十块钱了。哼，真划不来。”于是，他流下了忿恨的眼泪。然而，他头脑里又闪过了一个念头，足以打消这个郁闷：“可是也没

---

5. (様に) 表示目的。△遅れないように早く出かけたほうがいい。/还是早点去好，免得迟到。

6. (俯向加減に) 意为“微低着头”。かげん：在这里是接尾词，接动词连用形或表示状态的名词后，表示程度或倾向。△彼女はあおむきかげんに彼を見た。/她抬头朝他看了一眼。

7. (だって) 接名词后，表示例举某一极端的事项。△そんなことは、小学生だって知っているよ。/那种事连小学生都知道！

8. (か) 表示反驳或质问。△こんな待遇じゃ食っていけないじゃありませんか。/照这种待遇，叫人怎么过日子啊！△私のお願いじゃ聞いていただけないんですか。/我求你，你就不答应了？

9. (良い暮らしをし) 日子过得很好。

彼の頭に浮んだ。「——だが矢張仕方がないので<sup>1</sup>、  
 家もあの通りだもの<sup>2</sup>お母さんだって俺を高等科<sup>3</sup>  
 に上げよう<sup>4</sup>として、夜遅くまで賃仕事<sup>5</sup>をし、そ  
 れに朝早く起きて親父を仕事場に出してやる。又  
 親父もあの寒い所で働く人だ。——こうするの  
 も無理がない」と思った、その時家の生活難が浮ん  
 だ。「俺が若し働かなかったら、一日だって暮し  
 て行けない。それに俺は働かないでその上金を費  
 わねばならない。随って皆んな餓死の悲運に陥る  
 のだ。ああとても家へは帰られ<sup>6</sup>ない。どうしたら  
 よかろう。俺の病気は不治の病だ。金を借りるだ  
 け損だ……。」

彼はもう狂気にならんまで苦悶した<sup>7</sup>。彼はその  
 刹那チラリと「自殺」ということが閃いた。——「お  
 前は自ら死ななくては<sup>8</sup>、一家は途方に暮れる<sup>9</sup>、  
 今真ぐ<sup>10</sup>あの所で死ね」——彼はもう決心をした。  
 「そうだ、俺はどうせ薬も買えない。そうすれば死  
 ぬに定って居る。そうだ死のう、家の金を一文も

1. (ので) の: 形式名词。で: 助动词“だ”的连用形, 表示中顿。不要和表示原因的“ので”相混同。

2. (もの) 接活用词的终止形后, 表示带着某种情绪表述理由。△だって, 行きたいんだもの。/因为我想去呀!

3. (高等科) 高小。

4. (よう) 助动词“よう”的终止形, 接上一段, 下一段, カ变、サ变等动词及“れる(られる)”, “せる(させる)”等助动词的未然形后, 这里表示意志。△眠くなってしまったから, あし

有办法，家里就那么个情况。母亲为了让我上高小，她每天手工活一直做到深夜，第二天还得清早起来，照料父亲去上班。再说父亲又是在那么寒冷的地方工作。他们这样做，也有他们的道理。”这时，眼前浮现出家庭生活困难的情景。“我要是不干活，那就一天也活不下去，况且我不劳动，又要花钱。这就会使全家都陷入饿死的悲惨境地。唉，我简直不敢回家。怎么办呢？我的病是不治之症，借钱也是白借……”

他苦闷得快要发疯了，刹那间，闪过了“自杀”的念头：“要是你自己不死，一家人将陷入绝境，现在马上到那个地方去死了吧。”他已经下定了决心。“是啊，我反正连药也买不起，这就肯定会死。对，去死吧！又不需要花家里一分钱。”想到这里，泪水

---

た早く起きて勉強することにしよう。/想睡觉啦，明天早点起来用功吧。

5.〔賃仕事〕 手工副业。

6.〔られ〕 助动词“られる”的未然形，这里表示可能。△この飛行機は、約百人の旅客を乗せられるんです。/这架飞机可载旅客一百人左右。

7.〔狂気にならんまで苦悶した〕 苦闷到要发疯的程度。这里的“ん”系从文言助动词“む”变化而来，接活用词未然形后表示推测。△あわや悪人の手に捕らえられんとしたとき、一人の青年が現われた。/眼看就要被坏人抓住，幸亏遇上了一位年轻人。

8.〔ては〕 表示条件。△こんなに暑くてはなににもできません。/天气这么热，什么也干不了。

9.〔途方に暮れる〕 走投无路，无法可施。

10.〔真ぐ〕 “すぐ”的“す”，汉字应为“直ぐ”。

つか かわ ほん なみだ  
費わ<sup>つ</sup>ないで……」彼の<sup>かれ</sup>頬<sup>ほ</sup>からはとめどもなく涙<sup>なみだ</sup>が  
なが うれ はたら こんにち な い い  
流<sup>なが</sup>れた。「俺<sup>おれ</sup>は二十<sup>はたら</sup>の今日<sup>こんにち</sup>まで何<sup>な</sup>ん<sup>い</sup>で生<sup>い</sup>きて居<sup>い</sup>たろ  
う。こんな<sup>はや</sup>になる<sup>し</sup>んだ<sup>は</sup>ったら早<sup>はや</sup>く死<sup>し</sup>ねばよ<sup>し</sup>かっ  
た。」

かれ あし かいばん む しか おれ したい  
彼の<sup>かれ</sup>足<sup>あし</sup>は海<sup>かい</sup>岸<sup>ばん</sup>に向<sup>む</sup>いた。「然<sup>しか</sup>しこの俺<sup>おれ</sup>が死<sup>し</sup>体<sup>たい</sup>とな  
って、父<sup>ふ</sup>母<sup>ぼ</sup>の前<sup>まえ</sup>に出<sup>で</sup>た時<sup>とき</sup>……あ<sup>あ</sup>あその時<sup>とき</sup>父<sup>ちち</sup>はどん  
おも おも はは さだ きちがい  
な思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>を<sup>おも</sup>する<sup>す</sup>だ<sup>だ</sup>ろ<sup>ろ</sup>う。母<sup>はは</sup>は定<sup>さだ</sup>め<sup>め</sup>し氣<sup>き</sup>狂<sup>がい</sup>とな<sup>な</sup>る<sup>る</sup>だ<sup>だ</sup>ろ  
う。あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>濟<sup>す</sup>ま<sup>ま</sup>ない。」

かれ だんがい うえ た した うみ き がんとつとつ  
彼は<sup>かれ</sup>断<sup>だん</sup>崖<sup>がい</sup>の上<sup>うえ</sup>に立<sup>た</sup>った。下<sup>した</sup>は海<sup>うみ</sup>、奇<sup>き</sup>岩<sup>がん</sup>突<sup>とつ</sup>兀<sup>とつ</sup>とし  
うみ ああ じぶん いわ あたま わ おそ  
た海<sup>うみ</sup>、あ<sup>あ</sup>あ自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>はあ<sup>あ</sup>の岩<sup>いわ</sup>に頭<sup>あたま</sup>を割<sup>わ</sup>る……あ<sup>あ</sup>あ恐<sup>おそ</sup>ろ  
かれ なみだ おり たいよう あか  
しい、彼<sup>かれ</sup>はし<sup>し</sup>ば<sup>ば</sup>し涙<sup>なみだ</sup>にく<sup>く</sup>れた<sup>ら</sup>。折<sup>おり</sup>し<sup>し</sup>も太<sup>たい</sup>陽<sup>よう</sup>は赤<sup>あか</sup>く  
おお おお く ばんぶつ あか ただ  
大<sup>おお</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>って暮<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>よ<sup>よ</sup>うと<sup>と</sup>して、万<sup>ばん</sup>物<sup>ぶつ</sup>は赤<sup>あか</sup>く爛<sup>ただ</sup>れ、  
あお ああ かれ はんめん ものすこ も  
青<sup>あお</sup>ざ<sup>あ</sup>め<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>彼<sup>かれ</sup>の半<sup>はん</sup>面<sup>めん</sup>は物<sup>もの</sup>凄<sup>すこ</sup>く燃<sup>も</sup>え<sup>え</sup>た。

たいよう しず しか くれ もく うご  
——太<sup>たい</sup>陽<sup>よう</sup>は沈<sup>しず</sup>ん<sup>ん</sup>だ。然<sup>しか</sup>し彼<sup>かれ</sup>は黙<sup>もく</sup>とし<sup>し</sup>て<sup>て</sup>動<sup>うご</sup>かな  
し ほろ そろぜん く  
い。四<sup>し</sup>方<sup>ほう</sup>は蒼<sup>そう</sup>然<sup>ぜん</sup>とし<sup>し</sup>て暮<sup>く</sup>れた。

1. (しばし涙にくれた) 痛哭了好一阵子。

2. (黙として) 默然。

止不住地从他的双颊流了下来。“我为什么要活到二十岁呢？要是知道会落到今天这步田地，还不如早死了倒好。”

他向海边走去。“可是，倘若我的尸体被抬到父母面前时……唉，那时父亲会怎么想呢？母亲一定会发疯的。唉，太对不起他们了。”

他站在断崖上，下面是海，海边怪石嶙峋。“啊，我将在那怪石上摔得头破血流……唉，多可怕啊！”他痛哭了好一阵子。这时，落日又红又大，万物染得殷红斑斑。他那苍白的侧脸被映照得令人可怕。

太阳西沉了。可是他却默然不动。四周笼罩在一片苍茫的暮色之中。

## し 走 師 走

……<sup>しか</sup>然し！<sup>また</sup>又「<sup>しか</sup>然し」だ。<sup>し</sup>自分<sup>ぶん</sup>はさっきから<sup>なんど</sup>何度  
 この「<sup>しか</sup>然し」の<sup>まわり</sup>周<sup>まわ</sup>回<sup>こと</sup>をグルグル廻<sup>こと</sup>っていた事だろ  
 う。<sup>のが</sup>逃<sup>おも</sup>れようと思<sup>おり</sup>う<sup>なか</sup>檻<sup>し</sup>の中<sup>し</sup>の獅<sup>し</sup>子、それとそ<sup>く</sup>っ  
 り<sup>おな</sup>同<sup>ひな</sup>じだ<sup>ど</sup>った。そ<sup>し</sup>し<sup>ど</sup>空<sup>ど</sup>しい<sup>に</sup>努<sup>ど</sup>力<sup>り</sup>に<sup>し</sup>似<sup>ぶん</sup>た<sup>し</sup>努<sup>ぶん</sup>力<sup>ぶん</sup>を自<sup>ぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>  
 は一<sup>いつ</sup>生<sup>しょう</sup>懸<sup>けん</sup>命<sup>めい</sup>や<sup>い</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>し</sup>いた<sup>い</sup>た<sup>い</sup>の<sup>い</sup>だ。<sup>ゆき</sup>雪<sup>みち</sup>道<sup>みち</sup>は<sup>ぎゅん</sup>ギ<sup>ん</sup>ン<sup>ぎゅん</sup>ギ<sup>ん</sup>  
 ン<sup>ぎゅん</sup>な<sup>ぎゅん</sup>って、<sup>きび</sup>厳<sup>し</sup>しい<sup>ばつ</sup>寒<sup>お</sup>気<sup>お</sup>だ<sup>り</sup>った。大<sup>お</sup>通<sup>お</sup>り<sup>り</sup>の<sup>り</sup>両<sup>り</sup>側<sup>り</sup>に  
 は「<sup>せい</sup>歳<sup>お</sup>暮<sup>う</sup>大<sup>り</sup>売<sup>い</sup>出<sup>だ</sup>し」の<sup>た</sup>立<sup>て</sup>看<sup>かん</sup>板<sup>ばん</sup>や、<sup>へん</sup>変<sup>へん</sup>に<sup>かぜ</sup>バ<sup>か</sup>タ<sup>ぜ</sup>バ<sup>ぜ</sup>タ<sup>ぜ</sup>と<sup>かぜ</sup>風<sup>かぜ</sup>  
 に<sup>は</sup>あ<sup>た</sup>ふ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>て<sup>た</sup>い<sup>た</sup>る<sup>た</sup>旗<sup>はた</sup>な<sup>は</sup>ど<sup>は</sup>が<sup>は</sup>ズ<sup>は</sup>ウ<sup>は</sup>ズ<sup>は</sup>ウ<sup>は</sup>と<sup>は</sup>並<sup>なら</sup>んで<sup>た</sup>立<sup>た</sup>  
 て<sup>ら</sup>れ<sup>て</sup>い<sup>た</sup>た。往<sup>おう</sup>米<sup>らい</sup>の<sup>り</sup>上<sup>じょう</sup>に<sup>り</sup>つ<sup>り</sup>け<sup>り</sup>ら<sup>り</sup>れ<sup>り</sup>た<sup>り</sup>ア<sup>り</sup>ー<sup>り</sup>ク<sup>り</sup>燈<sup>とう</sup>が<sup>り</sup>  
 雪<sup>ゆき</sup>の<sup>み</sup>鋪<sup>ち</sup>道<sup>う</sup>の<sup>こ</sup>上<sup>じょう</sup>へ<sup>こ</sup>氷<sup>こ</sup>の<sup>さ</sup>よ<sup>さ</sup>う<sup>さ</sup>に<sup>ひ</sup>冴<sup>ひ</sup>え<sup>な</sup>切<sup>な</sup>った<sup>な</sup>光<sup>ひかり</sup>を<sup>な</sup>投<sup>な</sup>げ<sup>な</sup>  
 て<sup>い</sup>た。寒<sup>さむ</sup>さ<sup>さむ</sup>の<sup>さむ</sup>た<sup>さむ</sup>め<sup>さむ</sup>に<sup>さむ</sup>セ<sup>さむ</sup>カ<sup>さむ</sup>セ<sup>さむ</sup>カ<sup>さむ</sup>と<sup>さむ</sup>小<sup>こ</sup>刻<sup>さむ</sup>み<sup>さむ</sup>に<sup>さむ</sup>歩<sup>さむ</sup>い<sup>さむ</sup>て<sup>さむ</sup>行<sup>さむ</sup>  
 く<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>達<sup>たち</sup>——<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>は<sup>か</sup>買<sup>か</sup>物<sup>もの</sup>の<sup>つ</sup>包<sup>つ</sup>み<sup>つ</sup>を<sup>か</sup>も<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>て<sup>か</sup>帰<sup>か</sup>っ<sup>か</sup>て<sup>か</sup>ゆ<sup>か</sup>く<sup>か</sup>ら  
 しい<sup>かい</sup>会<sup>かい</sup>社<sup>しゃ</sup>員<sup>いん</sup>風<sup>ふう</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>を<sup>み</sup>見<sup>み</sup>る、<sup>ふ</sup>懐<sup>ふ</sup>手<sup>て</sup>を<sup>して</sup>背<sup>せ</sup>を<sup>丸</sup>  
 く<sup>い</sup>して<sup>い</sup>行<sup>い</sup>く<sup>い</sup>労<sup>ろう</sup>働<sup>どう</sup>者<sup>しや</sup>、<sup>そり</sup>櫃<sup>び</sup>を<sup>ひ</sup>引<sup>ひ</sup>いて<sup>ひ</sup>ゆ<sup>ひ</sup>く<sup>ひ</sup>店<sup>てん</sup>員<sup>いん</sup>、<sup>それ</sup>それ<sup>か</sup>か

1. (そし) 从前后文看，该词应为“そして”。
2. (ギョングン) 风的响声(或踩雪时发出的声音)。△雪道は風がギョングン(ピュンピュン)鳴って、厳しい寒さだった。/雪路上，北风呼啸，寒气逼人。
3. (など) 接体言，活用词连体形后，表示例示。…や…や…など：表示概括。△特に雨や雪などで見通しの悪いときには十分注意するように。/下雨下雪，能见度差的时候尤其

## 腊 月

……但是，又是“但是”！自刚才起，我真不知在这个“但是”的周围兜了多少圈子，活象那铁笼子里想要逃跑的狮子，拼命地作着徒然的挣扎。

雪路上，北风呼啸、寒气逼人。大路的两旁一块又一块地排列着“年底大减价”的广告牌和被风吹得变形的、噼啪乱响的旗子。吊在通道上边的弧光灯朝白雪覆盖的路面上投射着冰一样凛冽的光。由于寒冷，人们都急急忙忙地迈着小步疾走。——可以看到手里拿着一包包刚买来的东西、似乎是回家的公司职员打扮的人，也可以看见，两手插在怀里、弓着背走路的工人，拖着雪橇的店员，还有女人们，

要注意。

4.〔ズウズウと〕 一直向前。△ズウズウと進む。/一直向前走。

5.〔らしい〕接体言、动词、形容词、部分助动词的终止形、形容动词的词干后，表示推则。△彼は二、三日中に退院できるらしい。/看来，他两三天内就可以出院。

6.〔風〕 样子。△知らない風をする。/佯装不知。△こんな風に善くのだ。/这样写。

7.〔懐手をして〕 把手插在怀里。（日本和服的袖子很大，可把手抽回来插到怀里。）

8.〔背を丸くして〕 弓着背。

おんな ひとたち さい くる く めん  
ら女の人達、そしてその後から苦しい工面<sup>1</sup>のため  
いそ ひと み で き おおみそか よつか  
に急ぐ人を見ることが出来た。……大晦日に二日  
し わす まち わたし しか ほと ぼつこうしよう  
より<sup>2</sup>ない師走の街を、私は然し殆んど没交渉に、  
いくこ かんが ある  
郁子のことばかり<sup>3</sup>を考えて歩いていた。

ときわたし じ よん まえ い 上 ほどまえ  
この時私は自分の前を(そう云えば余程前から)  
い ひとり おんな き ぶ き ぶる  
行く一人の女に気付いた。着古してベタベタして  
き もの ほそ ひも おび  
いるらしい着物に細い紐でだらしなく帯をし<sup>4</sup>、こ  
さむ あか す あし  
の寒さに垢のついた素足をして<sup>5</sup>いた。そして垢が  
うるこ つ わか かみ あか  
鱗のように着いているのが分った。髪は赤ちゃけ  
よんじゆうぐらい おんな て  
てボサボサしている四十位<sup>6</sup>の女だった。手には  
なに つつ も かた  
何か包みを持っていた。肩をすぼめ、セカセカと  
あし ある わたし おな ほう い  
足ぶみをするように歩いていた。私と同じ方へ行  
しばらく わたしたち おおどお すて せま  
くらしかった。暫時して私達は大通りから少し狭  
とお まが おんな またお こう  
い通りへ曲った。するとその女はすぐ又折れて小  
じ はい み ふくろこうじ つきあた  
路へ入った。見ると袋小路になっている突当りに  
しちや さが わたし ちよつとた どま  
質屋ののれんが下っていた。(私は一寸立ち止  
おんな しちや まえ い げた ゆき はら  
ってみた。)女は質屋の前へ行くと下駄の雪を払  
もんきつ み あ おも き  
ったり、門札を見上げたりしていたが、思い切っ  
ふう と て  
たという風に戸に手をかけた。

じ じつ わたし おも  
ザラにある事実だ、私はフトそう思った。そう

1. (工面) 筹划钱款。△金を工面して来い。/你去想办法 解决钱的问题。

2. (より) 接体言、用言及部分助动词的连体形后、与否定词相呼应，表示否定其它。△このテレビもう修理に出すより

在这些人的后边是为了筹划钱款而奔走的人。还有两天就要过年了。我在这腊月的大街上走着，好象眼前这一切都与我无关，脑海里一心想着郁子的事。

这时，我发现一个女人在我前边走着（其实她早就走在我前边了）。她在那件穿旧了的、脏得象是粘在身上的衣服上，用一根细绳胡乱地缠着当腰带。这么冷的天还露着一双满是污垢的脚，那污垢象鱼鳞似地粘在脚上。红褐色的头发蓬乱不堪，看来这女人约莫有四十来岁。她手里拿着一个包裹，缩着肩，匆匆忙忙地踏着碎步往前赶路。看来她和我往同一个方向走的。过了一会儿，我们先后由大路拐进了一条小路，接着她马上又拐进另一条小路。我跟过去一看，那是条死胡同，胡同的尽头挂着当铺的门帘。（我停住脚步，观望了一下。）女人一到当铺门口，把木屐上的雪踩下来，又端详了一下当铺的牌子，终于下了决心似地伸手去开门。

“这种事是常见的，”我忽然这样想道。不错。

---

しかたないんじゃないかしら。/这架电视机，除了送去修理，恐怕没有别的办法了吧？

3. (ばかり) 接种种记后，这里表示限定范围。△いつまでも泣いてばかりいないで、ご飯を食べなさい。/别老是哭，快吃饭吧。

4. (帯をし) 当作腰带；束腰带。

5. (素足をして) 光着脚。△素足にくつをはく。/光着脚穿皮鞋。

だ。然し、だから！だからこそ<sup>1</sup>!!!……私は暗い  
気持にされた、が、この時私は郁子のことがすぐ  
考えられた。そして郁子の場合この事実はモウず  
っと前に通り越して来てしまったことである事を  
思った。

——私が遊びに行っていた時、次の間で母が何  
か一人でカタコト<sup>2</sup>云わせ<sup>3</sup>ているのをよく聞いた。  
そして暫時すると裏口からだまって出て行っ  
た。小さい弟などが腹が減ったと云い出すと郁子  
は私の手前ウロウロして、あやした。表で何か音  
でもすると、その度にその方をイライラして見た。  
母が策をかかえて帰ってくると、郁子は急に元氣  
づいて台所へ立って行った。

何時か郁子が初めて母に代って質屋へ行ったこ  
とを私に話した。(私には其時の郁子の気持を想  
像してみるさえ<sup>4</sup>苦しさを感<sup>5</sup>じる。)丁度其時前に  
一人の女が来ていたが、なんでも<sup>6</sup>その女は冬物を  
入れて引換えに夏物を出すのだった、がそれには  
少しばかり金目にして<sup>7</sup>足りなかった。女は困っ  
たように<sup>8</sup>一寸考えていたが、女は自分の髪を手で

1. (こそ) 接各種词后, 表示强调。△今度こそ、だいじょうぶですよ。/这一次, 可没问题啦。

2. (カタコト) 窸窣窸窣。(做事碰到东西时发出的轻微声响。)

可是，正因为这样，正因为这是常有的事……我的心情黯淡了下来。这时，我立刻想到了郁子的事。这在郁子已经是很久以前经历过的事了。

以前，我去郁子家玩的时候，常听到她母亲独自在隔壁房里“窸窸窣窣”地翻弄什么，然后就不声不响地从后门出去了。小弟弟一叫肚子饿，因为我在场，郁子就很狼狈地哄他。只要外面有什么声响，她就心神不安地往那边瞧。但等母亲挟着米箩一回来，郁子马上就提起精神来，站起来到厨房去了。

有一次郁子对我讲起她第一次替母亲去当铺的事（我甚至连想象一下郁子当时的心情都感到难过）。她说她走进当铺，前面已经有一个女的在那里了。那女人大概是送进冬衣，然后把夏衣换出来，可是她还差一点钱。女人为难地想了一会儿，把手

3.〔せ〕 助动词“せる”的连用形，接五段、サ变动词的未然形后，表示使役。△やっとのことで承知させました。/好不容易才使他答应了。

4.〔さえ〕 这里表示举出极端的例子，暗示其他。△今度の流感は、学校さえ休校するほどひどいものだ。/这次流行性感冒很厉害，连学校都停课了。

5.〔なんでも〕 并不十分清楚，△なんでも東京に住んでいるそうだ。/详细情况不太清楚，只听说住在东京。

6.〔金目にして〕 按价钱算。

7.〔ように〕 助动词“ようだ”的连用形，这里表示委婉的断定。△彼は何か心配事のあるような顔をしている。/看他的神色，好象有什么心事。

さが 探した。そして一本二、三十銭位しか<sup>1</sup>し<sup>2</sup>ないか  
 んざしを出した。番頭は勿論事務的に<sup>3</sup>、まだ!と  
 云った。女は自分の身体を探し出した。襦袢なし  
 に<sup>4</sup>ジカに肌へ着ている一枚の着物しかない。が女  
 は自分のしめている帯に気付いた。さすがにため  
 らって番頭と郁子の方を見た。それでもすぐグル  
 グルと帯を解いて台の上へ置いた。そして恥かし  
 そうに手が着物の前を抑えた。ようやく女の手  
 夏物が入った。その中には小さい女の子の着物が  
 あった。「私その時、でも私達はまだ幸福だ、と思  
 ったワ<sup>5</sup>……。」そう郁子が云った。然し今その「ま  
 だ」はとっくの昔の事であることが考えられた。

……これはずうと<sup>6</sup>前の事だった。(夫に死なれ<sup>7</sup>  
 てから郁子の母は山田という男と一緒になってい  
 た。)私が遊びに行っていた時、小さい弟の秀夫が  
 お義父さんとからかい合っていた。お義父さんは  
 長い煙管で軽く秀夫の額とか<sup>8</sup>頬とかを「ソレ、ソ  
 レ又……」とつかまれぬように突ついていた。子供

1. (しか)接体言、动词连体形、形容词及形容动词连用形后、与否定词相呼应，表示否定其他。△こんな話ができる友達はもう君しかない。/这些话，只有对你(这个朋友)说了。
2. (し) サ变动词“する”的未然形，这里意思是“(价)值”。△この万年筆は一本十円もする。/这支钢笔值十块钱。
3. (事務的に) 机械地，不带感情地。
4. (襦袢なしに) 未穿内衣。襦袢：贴身穿的和服，なし：没

伸到自己的头发里，找出了一根只值两三角钱的簪子。“不够！”掌柜的自然“照章办理”。于是女人就在自己身上找开了。她没有穿内衣，只有一件衣服贴肉套在身上。女人想到了自己身上系的带子。不过毕竟犹豫了一下。她瞧了掌柜和郁子一眼，可还是一圈一圈地解下了带子，把它放在柜台上，然后不好意思地用手捂住衣服的前襟，好不容易才拿到了夏季的衣服，其中还有一些女孩子的。“当时我想，比起她来，我们还算是幸福的呢……”郁子这样说。可是现在，“还算幸福的”这句话，已成为过去的事了。

这是很久以前的事了。(郁子的母亲死了丈夫以后，和一个姓山田的同居了。)有一次，我去郁子家玩。郁子的小弟弟秀夫正和他的继父闹着玩。继父用长长的烟袋轻轻地碰秀夫的脑门或脸颊，“啾，啾……”一边逗他又不让他抓住烟袋。后来孩子给惹

有。

5.〔ワ〕一般位于句末，表示主张，女子用语。△お客様はもうとっくにお帰りになったわよ。/客人早就走了。

6.〔ずっと〕等于“ずっと”。

7.〔れ〕助动词“れる”的连用形，接五段、サ变动词的未然形后，这里表示被动。△あの人も息子さんに先だたれてね，お気の毒に。/他也是先死了儿子，真可怜！

8.〔とか〕接体言，活用词终止形后，表示例示性的并列。△毎日掃除とか洗たくとかに追われています。/天天忙于搞清洁、洗衣服之类的事。

は終しまいにうるさいうるさいと払はらっていたが、やめ  
 なかった。「なんだきせる、煙管をつかめないのか？ソレ  
 ……ソレ……」義父よふは笑わらいながら、益々ますますしつこく  
 した。子供こどもはだんだん後あとざりいして行いった。でとう  
 とう障子しょうじのところまで行いったとき、「駄目だめエ——  
 だ」と半分泣はんぶんき声こゑになっなって、空からのお盆ぼんをふりあげ  
 た。と、ガチャンガチャンとうしろ後しょうじの障子にはめて  
 ある硝子ガラスにそれが当あたって毀こわれた。お義父とうさんの眼め  
 が急きゆうに変かわった。私わたしもハッとははとした。母ははは吃驚びつくりして台  
 所どころから出でてくると、無理矢理むりやりに秀夫ひでおを次つぎの間まへ引  
 きずって行いった。そして息いきがつけなく、ただ「ヒ  
 エ——ヒエ——」とひく息いきになるほどほどなぐりつけ  
 た。そして母ははは自分じぶんでワッと泣なき出だした。私わたしには  
 母ははの氣持きもちは分わかっていたが、あまりの事ことでウロウロ  
 した。郁子いくこは「母ははは何時いつもあんなだよ」と云いっ  
 た。「それでなくてもむとうと弟きもちの氣持きもちがひねくれるの  
 にねえ。」

1. (なんだ) 怎么, 怎么搞的。
2. (後ざり) 从前后文看, 该词应为“後しざり”、或“後ずさり”。
3. (障子) 日本的一种移门, 样子和我国的棊窗相仿。
4. (駄目エ——) 等于“駄目”。
5. (ガチャンガチャンと) 坚硬物体互相碰撞时发出的声音。现在一般用“ガチャンガチャンと”。
6. (ほど) 接体言、活用词连体形后, 举一事例, 表示动作

火了，终于说：“烦死了，烦死了。”用手把烟袋挡开。“怎么？烟袋也抓不住呀？这儿……这儿……”继父还不肯停手，他一边笑，一边更加起劲地逗个不停。孩子越来越往后退，一直退到移门那里，突然他哭泣似地叫了声“不行呀！”便举起一个空盘。不巧，盘子碰上了镶在移门上的玻璃，“哗啷”一声玻璃给砸碎了。继父立刻板起了面孔，连我也吓了一跳。母亲吃惊地从厨房跑来，硬把秀夫拉到隔壁房间，猛揍了孩子一顿，直打得孩子喘不过气，哭不出声。打完孩子，母亲自己也号啕大哭起来。我虽然理解郁子母亲的心情，但这太出乎我的意料了，弄得我手足无措。郁子对我说：“妈妈老是那样。”“即使不打他，他也是要闹别扭的，……。”

或状态的程度。△おこるのが気がひけるほど、しょんぼり帰って来たよ。/只见他回来时垂头丧气，以致我简直不敢训他了。

7.〔ても〕接动词、形容词、形容动词、部分助动词的连用形后，表示逆态连接。“ても”在ガ、ナ、バ、マ行五段动词后时，变为“でも”；接形容词连用形后时，则有时变为“っても”。△なぜあんなことをしちゃったのか、いくら考えてもわからないんだ。/为什么干出这种事来，我自己都不明白。

8.〔のに〕接括弧词连体形后，位于句末，表示不满、遗憾、后悔等情绪。△ああ、せっかく作りあげたのに。/哎，好不容易才做好的(可……)。

9.〔ねえ〕位于句末或句节末，这里表示征求对方同意或促使对方回答的语气。“ねえ”语气比“ね”强些。△山で台風にあったそうだが、たいへんだったろうねえ。/听说你在山里遇到了台风，真够呛的。

(山田とは暫時して分れてしまった。子供の事を考えれば、とても一緒では駄目だった。何時でもこの事でお互が不愉快な争いをした。そしてその度に皆子供に悪い感化を与えていた。それから郁子が私にこう云った事もあった。それは郁子が居ない時母に「自分の娘だったら、郁子の行李の中のものを質に入れたって<sup>1</sup>何とも云わないだろうなあ<sup>2</sup>……。」と義父が云ったって<sup>3</sup>。兎も角どんな事についても自然な自由な気持では行かない、同じ食卓に坐っても其処にどんな嫌な気持があったかを、自分はハッキリ想像出来た。それで自分は山田を出るについては、金の方では苦しくとも<sup>4</sup>、心から賛成だった。)

人間が生きて行くということが、どういう事であるかという事を本当に分っている人がいるだろうか? と郁子が二人で街を歩いていたとき、フト私に訊いた。自分は、そう無いかも知れない<sup>5</sup>、と答えた。その時郁子は女学校を三年で廃めて、青豌豆の手撰工場へ通っていた。自分にはその郁子のイライラした気持が分って苦しかった。(私は

1. (たって) 接体言、活用词(除形容动词及形容动词型助动词)的连用形后, 表示逆态连接。“たって”接活用词终止形后时, 变为“ったって”, 表示较强的逆态连接; 接ガ、ナ、バ、マ行五段动词连用形后时, 变为“だって”, △泣いたってしかた

(不久，郁子的母亲和山田分手了。为了孩子，她不能和他住在一起。母亲和山田经常为孩子的事争吵得很不愉快，而且每次都给孩子带来不好的影响。郁子曾经告诉过我这样一件事：说是有一次郁子不在家的时候，继父对母亲说：“如果郁子是我的亲生女儿，把她箱子里的东西送进当铺，她不会说什么的吧。”总之，不管什么事，只要有山田在，总感到拘束、不自然。我完全想象得到，他们坐在一张桌上吃饭时的那种不可言状的难堪心情。所以他们离开山田家，虽然经济上会带来困难，但我还是从心眼里赞成的。)

有一回，我和郁子在街上散步。她忽然问我：“有没有人真正懂得人活在世上究竟是怎么一回事的？”我回答她说：“也许不多吧。”那时，郁子已经由女子中学三年级退学，到精选青豌豆的工厂做工去了。我理解她那焦躁不安的心情，很替她难过。(我

がない。/哭也没用。

2. (なあ) 这里表示希望得到对方回答或同意的心情。男子用语。△今日はまたけっこうなお天気でございますなあ！/今天真是个好天气，您说呢？

3. (って) 位于句末，这里表示传闻。△今日は夕方から雨だって。/听说今天傍晚要下雨。

4. (とも) 接活用词终止形、形容词及形容词型助动词的连用形后，表示逆态连接。△たとえどんなことがあろうとも、逃げてはいけない。/不管出什么事都要坚持住。

5. (そう無いかも知れない) 也许没那么多。

自分の少ない収入から壹円なり<sup>1</sup>、五十銭なり持つて行ってやった。がそれが直ぐそのまま晩の米代になった。)

郁子達は殆んど一カ月もお湯へ行くことはなかった。それで母にも郁子にも皆んなに虱が涌いた。私が夜行くと電燈を低く下ろして、よく虱をとっていた。初めすぐ周章ててかくしたが、終いには私もその中に入って虱をとってやった。メリヤスのシャツの縫い目を開けると、粒に肥えた虱がピッタリ身体をすみの方につけていた。私は初めそれを見ると寒気がして背がゾツとした。それを指でつまんでも、妙にそのつまんでいるという事で気持が悪くすぐ火にくべた。するとプツンとはねて、なま臭い匂いがした。郁子や母は平気でそんな大きな奴を両方の拇指の爪でつぶした。何十匹もつぶすと爪が真赤になった。それを新聞紙にぬぐっては又つぶし始めた。そしてだんだん虱が見付からなくなると、皆んなで火の上にシャツをかざした。そしてじっと見ていると、熱くなって居たまらなくなつた虱が何処からともなく出て来た。そこをつかまえた。虱は前の晩いくら退治しても不思議に次の晩には又同じ位涌いた。秀夫

1. (なり) 接体言后, 这里表示从所并列的事项中选择一项。

时常从自己少得可怜的收入里，拿出一块、五角的给她，可这钱立刻成了她们当天晚上买米的钱。)

郁子一家人差不多经常一个月也不到澡堂去一次。所以母亲和郁子她们身上都生了虱子。有时候，我晚上去串门，常看见她们把电灯拉得低低的，在捉虱子。起初，她们看见我来了，就立刻慌慌张张地把衣服藏起来。可是后来，我也参加她们的队伍，帮着捉虱子了。一翻开棉毛衫的缝口，只见肥大滚圆的虱子把身体紧紧地贴在衣角里。我第一次看见这种情景的时候，只觉得身上打了一阵寒噤。我对用手指捏住它这件事情觉得怪不舒服，就赶紧把它往火里一扔，噼啪一爆，发出一股腥臭味。郁子和她的母亲是满不在乎的，她们用两个大拇指的指甲把“这种家伙”挤碎。几十个挤下来，指甲也染红了。她们把血擦在报纸上，又开始挤。等找不到了，大家就把棉毛衫拿到火上烘。仔细一看，热得藏不住的虱子不知从什么地方又钻了出来。于是再捉……但奇怪的是，不管当晚怎么捉，第二天晚上居然还会生出那么多虱子。秀夫由于身上生满了虱

---

△何か困ったことがあったら、お父さんなり、お母さんなりに、すぐ相談しなさい。/有什么困难，要马上找爸爸(或是)妈妈商量。

2. (居たまら) 从前E. 看，该词应为“居たたまら”。

3. (何処からともなく) 不知从哪儿。

などはあんまり虱が湧いたため顔色が青ざめていた。そして始終かゆいために身体をゆすっていた。

その頃質屋へは毎日と云っていい程行った。自分も郁子について行ってやったことがあったが、その晩必要なだけの金にならない時、私は自分のものもソッと質に入れてやった。秀夫が授業料が滞っているので<sup>1</sup>学校を時々休んだ。私はそれを知ると家へ帰って、自分の本を古本屋へ売って、払ってやった。

——こんな色々なことが、然し何んになろう<sup>2</sup>、私は時々そう考えた。が私は知っていた、自分には悲しい答が待っているという事を。腐っている柿はだまって放って置いて落せばいい。そうだが、それが自分に出来たら!

郁子の母が山田と一緒になる前に、五人の子供のうち小さい方の三人を他所へ呉れてあった。私はその時の母を今でもハッキリ知っている。それはお通夜の晩で、次の間では坊さんがお経を上げていた。そして片っ方<sup>4</sup>では子供を呉れる相談だった。夫を亡くして気持が極度に張り切っているところへ、それは刺戟があまりに強過ぎた。母は

1. (ので) 接活用詞連体形后、表示原因。△人手が足りな

子，脸色都变青黄了，他浑身发痒，老是蹭来蹭去。

那一阵子可以说每天都要上当铺。有时我也陪郁子一道去。要是凑不齐当晚必需的几个钱，我就悄悄地把东西也送去当掉。秀夫因交不起学费，常常不上学。我知道了，就回家把自己的书卖给旧书店，替他交学费。

“可是这一切的一切，究竟有什么用呢？”我常常这样想。但是我知道，只有一个可悲的回答在等着我：腐烂的柿子，始终别去管它，随它掉落。是的，只有这样。可是我怎么忍心这么作呢！

郁子的母亲和山田同居之前，把五个孩子中三个小的送了人。母亲当时的情形我现在还记得很清楚。这是在她刚死了丈夫，守灵的那天晚上。隔壁房间里和尚在念经，可是这边屋子里却在商量送孩子的事。在刚死了丈夫，心情本来就极度悲痛的时候，那刺激实在太大了。母亲用她从未有过的口

---

いので、とても忙しい。/人手不够，忙得不可开交。

2. (何んになるう) 有什么用呢？

3. (お経を上げて) 念经。

4. (片っ方) 等于“片方(かたほう)”。意为“一方”，“单方面”。

——何時もの母の何処にも見出されないような<sup>1</sup>  
調子で、反り身になって「いや、誰がなんと云っ  
てもくれない」と叫んだ。そこには小さい子供が  
四人も並んで寝ていた。親類の者はその子供達を  
指さして、じゃ勝手にしたらいい、と云った。

「あとからなあ……いいか？」それでも母はただ  
同じ事を繰り返していた。私は郁子と並んで坊さ  
んの後へ坐っていた。が、その声が次の間から響  
いてくると、郁子は私の方を不安そうに見た。私  
は落付きなくその度に何度も次の間に立ったりし  
た。そして、お通夜の晩だのに<sup>3</sup>なア、と思うと痛  
ましい気がした。

郁子が豆撰から帰ってきても母の姿は時々見え  
なかった。母は何時も自分の呉れてやった子供の  
家の前を幾度も通ってみなければ安心出来なかつ  
た。丁度家の前へ行った時、いい塩梅に子供が出  
て居ると、母は子供をつかまえて色々のことを聞  
いた。「腹が減っていないか?」「お母さんに叱られ  
なかったか?」「寒くはないか?」そしてその内一つ  
でも母の気になるような事があると、母は子供を  
抱き上げて頬でも額でもかまわず頬ずりをして、  
身をもがいた。そしてそこが終ると今度は次の子供

1. (ような) 助动词“ようだ”的连体形, 这里表示同等关系。

气，仰着身子大声叫道：“不，不管谁说什么，一个孩子也不给人！”她的身旁并排睡着四个很小的孩子。亲戚指着这些孩子说：“那就随你便吧！”

“往后啊……懂吗？”有的亲戚这么劝他说，可母亲只是重复着那句话。我和郁子并排坐在和尚的身后。可是一听见从隔壁房里传出母亲的叫喊声，郁子就不安地瞧着我。我也沉不住气，几次三番向隔壁房间跑去。“这还是守灵的晚上呢！”我这么想着，心里很替她们难过。

后来，郁子从选豆工厂回来的时候，常常看不见母亲。她母亲不管什么时候，要是不到领走她孩子的那几家门前去兜几圈，就不放心。在别人门口走的时候，如果正好碰到孩子在外边玩，她就抓住孩子问个没完：“肚子饿不饿？”“有没有被妈妈骂？”“冷不冷？”这中间，只要有一条答案不对母亲的心思，她就把孩子抱起来，不管腮帮，脑门，一个劲地亲个没完，心疼极了。走完了这家，再走到下一

---

△次のような場合には、すぐ係員に御連絡ください。/如遇下列情况，请马上和工作人员联系。

2. (なあ) 位于句节末，这里表示促使对方理解的语气。△そこで、おじいさんはなあ、東京へ出てきたんだよ。/因此，你爷爷呢，就到东京来了。

3. (のに) 有时接在助动词“だ”的终止形后边。见P.23注8。

4. (でも) 表示举一极端事项，暗示其他。△子供でも三十分で行っちゃうよ。/即使是小孩，三十分钟也可到了。

のところへ行った……。私もこの事は知っていた。  
けれどもそんな気持ちを何時までも続けたら身体に  
悪い、と思った。それで自分はその事を母に云っ  
た。母は淋しくただ笑っていた。

一人の女の子は一度酌婦をした事のある女の  
所へ呉れてあった。彼女が母の所へ遊びに来た時  
(その時私も居た。)母に「今度ねえ、又別なお父  
さんが来たの。真黒い顔をしているのヨ。」と云っ  
た。郁子が「真黒い顔って何?」ときくと、「煙突掃  
除の男!」と云った。「そのお父さんねえ、私をミヨ  
ミヨ<sup>①</sup>って云うから<sup>②</sup>返事をしてやらないの。初め  
のお父さんはいいワ……。」女の子はそう云った。  
その女は何時も家を空けた。他で酒を飲んだり  
賭博を打ったりした。子供はそれで腹を空かして  
よく母の所へ来た。山田が居た頃、それでも母は  
その手前で飯を食べらして<sup>③</sup>やる事が出来なか  
った。色々<sup>④</sup>にすかして学校へやった。それから山  
田が外へ出ると、母はアンパンを買って、ワザワ  
ザ学校まで持って行ってやった。

誰もかま<sup>⑤</sup>って呉れる者が<sup>⑥</sup>ないので、子供が一人

1.〔ねえ〕 位于句节末，表示调整，△それでも，あの人  
ねえ，地方じゃちょっとは知られているのよ，/不过，这个人  
哪，在地方上还是有点小名气的呢。

2.〔の〕 位于句末，表示断定，△そうそう，ちょっとお聞

个孩子那儿。我也知道这件事情，但我觉得要是这种心情一直继续下去，对她的身体健康是有影响的。所以我把这意思对母亲说了，她只是凄然一笑。

一个女孩给了个曾经干过女招待的人。有一次，那孩子回到自己母亲的家来玩(那时我也在场)，她对母亲说：“这回啊，又来了另外一个爸爸，是个黑脸。”郁子问她：“那黑脸是干什么的呢？”她说：“是打扫烟囱的！”还说：“那个爸爸象叫狗猫似地喊我的名字，我不理他。——还是头一个爸爸好……”那家的女人常常不在家，经常在外边酗酒、赌钱。这样，孩子肚子饿了就时常到母亲家来。可是母亲在和山田同居的时候，不敢当着他的面给孩子吃饭，只好想方设法把孩子哄到学校去，等山田一出门，母亲就买了豆沙面包，特意给她送到学校去。

那家的邻居有时告诉母亲一些话，例如那孩子

きしたいことがあるの。/对了，我有一件事想问你一下。

3. (って) 这里表示提示。△君が承諾したって、ほんとうか? /你答应了，这是真的吗?

4. (ミヨミヨ) 日本人唤家猫家狗之类的动物时，通常将其名字连呼两遍。

5. (って) 这里表示动作的内容。△ドイツ語を教えてください。/有一次他来，要我教他德语。

6. (から) 接活用词终止形后，表示原因、理由。△今夜はもう遅いから、おやすみなさい。/今天已经晚了，睡觉吧。

7. (食べらして) 相当于“食べさせて”。

マントにくる包ねまって寝ねている、ことというきんような<sup>1</sup>事ことを近  
所じよのひと人が母ははに話はなしたりした。母はははとうとう引取ひきとろ  
うとした。が、その女おんなは暗あんに、じゃいま今いままでの養育よういく  
費ひを出だして買かいたい<sup>2</sup>、ことというい事をい云い出した。そ  
こで母ははは泣な寝入なりをしななければなららななかった。そ  
の女おんなは子こ供どもを「まがまがりりなりなりにも」大おほきくして、何処どこ  
かへ売うり飛とばす積つもりららししかかった。私わたしが行いっていた  
とき、台所だいどころでその女おんなの子こが秀夫ひでおともちやあそお玩具遊もびあそをし  
ていいながら、「鴨お緑うり江よつて節ふし」<sup>3</sup>を唄うたっていたのを聞き  
た。それが僅わずかやっ八ちつの子こ供どもだだった。そして如い何かに  
も大おとな人ひとらしい<sup>4</sup>こうたなかたれた唄うたい方かただおわった。終おわりに「チ  
ョーおオい、チョーおオい、チョーおオいナッ、チョおイ、  
チョおイッ」と云いった。「あいあいないんいだいのい」<sup>5</sup>郁子いくとは眼め  
を伏ふせて私わたしに云いった。私わたしは何なにんいとも云いえきない気き持もち  
にはさはれた。母ははの気き持もちも考かんがええらられた。

男おとこの子こは仕合しあせあな所ところへ行いっていた。が体からだが弱よわか  
ったので、その方ほうで母ははは終始しゆうし心しん配ぱいしていた。丁度ちやうど  
流り行ゆう性せい感かん冒ぼうが流は行やった時とき、一い度ちど男おとこの子こがそれそれにか  
かかった。母はははそれそれを知しって、ももうううじじいと家うちに居い  
ここがで出で来きななかかった。何なん度ども外そとへ出でた。が自じ分ぶんが  
訪たずねいて行いっては、<sup>7</sup>とおもううちはい思しって家しかへ入はる。然しかし矢張やはり

1. (ような) 助动词“ようだ”的连体形，这里表示例示。△君  
のような人は少ないね。/象你这样的人很少。

因为没人照料，只好一个人裹着斗篷睡觉。母亲听到这种情形，就准备把孩子要回来。可是那女人暗示说，假如那样，得赔出到现在为止的养育费。母亲虽然舍不得孩子，也只得罢休。看来，那女人是打算好歹把这孩子养大，然后把她卖到什么地方去。

我去郁子家时，曾听到那女孩有一次和秀夫在厨房里一边玩玩具，一边嘴里唱着“鸭绿江小调”。才八岁的孩子，唱得简直象大人一样老练。唱到最后，还加上一段花腔。郁子不好意思地眼睛瞧着下边对我说：“你瞧，真不象话！”我也产生了一种不可名状的感情，我想母亲的心情是可以理解的。

男孩去的地方还算幸运，不过他的体质比较弱，所以母亲一直很担心。流行性感冒流行的时候，正好那孩子也患了感冒。母亲闻知后，在家呆不住了，几次三番往外跑。但是一想到上那家去不好，就进了屋。可是进到屋里又跑了出去。这样，在那家

---

2. (たい) 助动词“たい”的终止形，接动词、部分助动词的连用形后，表示愿望。△スキーにもスケートにも行きたいんだけど、ひまがないわ。/滑雪、溜冰我都想去，可惜没有时间。

3. (鴨緑江節) 一九二〇年前后，在日本流行的歌曲之一，来源于鸭绿江筏子工之歌。

4. (らしい) 这里表示类似。△いかにも気が合ったらしく、話していた。/他们谈得十分投机。

5. (ああなんだの) 就是那种样子。

6. (じいと) 等于“じっと”。

7. (ては) 言外有“不好”的意思。

出て行く。そしてその家の前を何度も何度も行ったり来たりして戻ってきた。

あと一人の女の子は鍛冶屋へ行っていた。これも苦しい家だった。その女房は活動写真の町廻りの時、旗持ちに雇われたり、神社や寺のお布施の米の畚負いをしたりした、そして子供を連れて行く時もあった。母は何時かそんな事をして歩いていたのを街で見たことがあった。母は人の後からそれを見て、たまらなくなつて、急いで家へ帰つて来た。その子は一番母になつた。たまに母が遊びに行つて帰る時なぞ、よく後を追つた。

……母はこれ等の子供の所へ行く度に飴玉とかパンとかを買つて行ってやつた。それにあまりボロ切れの足袋をはいていたりするのを見ると、自分でソツと買つて行つた。——家の暮しの苦しさ、其処へ子供達のこと、母がどの位の気持の惨めさの中に居たか、思つてみるさへ自分は苦しさを感ずる。そして、この母が感冒で二カ月も病床にいたことを考える。(私はこの時三カ月位の予定で東京へ行つていた。今度工場で新たに買入れる機械の講習のためだった。その時の郁子からの手紙に「もう風だって愛想<sup>2</sup>をつかして私達から逃げて行きます。……」と書いてあった。)だから

人家门口来来回回地不知走了多少趟，才回家来。

另一个女孩给了一家铁匠铺，这也是个穷苦的人家。电影院作流动宣传时，那家的女人常被雇去扛大旗，或是替神社庙宇扛那装在箩筐里的恩赐米的米谷之类的东西。她有时候把孩子也一块儿带去。有一次，母亲看见了她们在街上行走的那番情景。她是躲在别人身后看的。母亲实在看不下去了，赶紧跑回家来。那孩子与母亲最亲暱，偶然母亲到她那里去玩，回来时，孩子总跟在她后边不放。

母亲去看这三个孩子的时候，常常给他们带一些糖果，面包之类的东西。有时看见孩子穿的分趾袜破得太不象话，就偷偷地给他们买双新的。母亲家里的景况本来就不好，再加上这些孩子们的事，她的心境是多么惨痛啊，一想起这些，我心里就觉得难过。近来，母亲因重感冒，在家躺了两个月。（当时我在东京，预定呆三个月左右，是为了学习使用这次工厂要新买进的机器。那时，郁子在给我的信上说：“现在连虱子都讨厌我们，从我们这儿逃走了……”）正因为如此，在这里，我不得不面对这样

---

1.〔町廻り〕 剧场或剧团组织一些人在街头进行的巡回宣传。

2.〔愛想〕 亦可读作“あいそう”。

こそ！ 自分<sup>じぶん</sup>はここで、郁子<sup>いくこ</sup>が豆撰工場<sup>とうせんこうじょう</sup>からの帰り<sup>かえ</sup>  
淫売<sup>いんばい</sup>をした事実<sup>じじつ</sup>に打ち<sup>うち</sup>当らなければならぬ！

然し<sup>しか</sup>、私<sup>わたし</sup>にとって、私<sup>わたし</sup>がこの心一杯<sup>こころいっぱい</sup>に愛<sup>あい</sup>してい  
た郁子<sup>いくこ</sup>がこんな事<sup>こと</sup>をしてくれた、と<sup>おも</sup>って、その  
自分<sup>じぶん</sup>にはあまりに強<sup>つよ</sup>過ぎる打撃<sup>だげき</sup>のため「許<sup>ゆる</sup>すか<sup>か</sup>」  
「許<sup>ゆる</sup>さぬか<sup>か</sup>」という事<sup>こと</sup>ばかりから一向<sup>ひとむ</sup>き<sup>き</sup>になった。  
この二<sup>ふた</sup>つの間<sup>あいだ</sup>を時計<sup>とけい</sup>の振子<sup>よりこ</sup>のように自分<sup>じぶん</sup>の心<sup>こころ</sup>は動<sup>うご</sup>  
いた。——郁子<sup>いくこ</sup>はあんなに自分<sup>じぶん</sup>を愛<sup>あい</sup>していた、所<sup>ところ</sup>  
が愛<sup>あい</sup>していたのに……！ その外<sup>ほか</sup>なかつた。

「じゃ矢張り腐<sup>くさ</sup>れた柿<sup>かき</sup>だったのか？」

然し<sup>しか</sup>その前<sup>まえ</sup>に(確<sup>たし</sup>かにその前<sup>まえ</sup>に)私<sup>わたし</sup>はこの惨<sup>みじ</sup>めな  
生活<sup>せいかつ</sup>の事実<sup>じじつ</sup>を見<sup>み</sup>なかつたのだ。

「人間<sup>ひと</sup>が生きてゆく事<sup>こと</sup>がどんなことであるか分<sup>わか</sup>  
っている人<sup>ひと</sup>がそうあるだろうか？」

そう郁子<sup>いくこ</sup>が私<sup>わたし</sup>にイライラして言<sup>い</sup>ったことがハッ  
キリ来<sup>き</sup>た。ああ私<sup>わたし</sup>も分<sup>わか</sup>らなかつたではないか！

「生きてゆくことがどんなことを……」そして  
「生きてゆくが<sup>い</sup>ためには……。」私<sup>わたし</sup>は郁子<sup>いくこ</sup>に對<sup>たい</sup>して  
恥<sup>はず</sup>かしさを感じ<sup>かん</sup>じた。郁子<sup>いくこ</sup>の享<sup>う</sup>けなければならな  
かつた苦し<sup>くる</sup>さ<sup>たい</sup>に對<sup>たい</sup>して、自分<sup>じぶん</sup>の態<sup>たい</sup>度<sup>ど</sup>を思<sup>おも</sup>って、済<sup>す</sup>  
まなさを感じ<sup>かん</sup>じた。

今晚<sup>こんばん</sup>郁子<sup>いくこ</sup>は五日<sup>いつか</sup>の拘留<sup>こうりゅう</sup>から出<sup>で</sup>て来<sup>き</sup>ている筈<sup>はず</sup>だっ

一种事实：郁子从选豆工厂放工回家时，出卖了肉体！……

我想：我全心爱恋着的郁子居然会作出这种事来！它给我的打击太大了。“原谅她？”还是“不原谅她？”我的心象一座钟的钟摆，在这两者之间摇摆着。“郁子是那样地爱我，可是她却……”我尽想着这件事，弄得自己心神不宁。

“难道说，她终究是个烂柿子吗？”

可是在考虑这事以前（确实是在考虑这事以前），原来我并没有去注意她这种悲惨生活的现实。

突然，“真正知道人活下去是怎么一回事的人多吗？”这句郁子心神不宁地向我提出的问话，使我清醒了过来。可不是吗？原来我也不知道！

只有弄清了“活在世上究竟是怎么回事……”才谈得上“为了活下去……”，我想到这儿，觉得没脸去见郁子了。想到自己对于她不得不忍受的痛苦心情太缺乏体谅，真是太对不起她了。

今天晚上郁子该从被关押了五天的拘留所里出

---

1. (か) 位于句节末，表示并列，并要求从中选择某一项。  
△軌跡は円になるか，楕円になるか，双曲線になるかを証明せよ。/证明其轨迹是圆、椭圆还是双曲线。

2. (一向き) 专心致志，不顾一切。

3. (が) 表示连体格，△愛するがゆえに。/正是为了爱。

た。救すくわれない程ほどいた痛いたんでいる郁いくこ子の氣持きもちを私わたしがし  
っかり抱だいてやるべき<sup>1</sup>である、と思おもう、そして自じ  
分ぶん達たち二人ふたりは何なにがあろうと<sup>2</sup>不ふ幸こうでないことかんがを考かんが  
えた。

この時とき突とつ然ぜん角かく巻まきを着きた女おんながワザとつきあたっ  
た。ひょいと顔かほをあげたとき、意い味みありげ<sup>3</sup>な眼めで  
私わたしを見みて、

「兄にいさん、ハイカラさんの所ところへ行いかないか<sup>4</sup>？」と  
言いった。

私わたしはハッとあやとした。が私わたしは歩あゆみを止とめなかつた。  
一ちよつと寸い行いってから振ふり返かえってみると、その女おんなは他の  
男おとこに今いまと同おなじ事ことをしてわたしいた。私わたしはその瞬しゆんかん間おんなその女  
が連つれてゆいく家いえの事ことがチラッと頭あたまに浮うかんだ。  
そして其そこ処おこで起おこることがつぎすぐ次いにかおきた。郁いくこ子の顔かほ  
がそこへチラチラした。私わたしはたあたままらなくなあたまって頭  
を振ふった。

私わたしは人ひと通とほりの少すくない通とおりの方ほうへよけて入はいった。  
「生活せいかつする」この言ことば葉はが今いま私わたしには新あたらしい意い味みを持も  
ってやまって来かんたのいを感いじた。そしてその意い外がいさに  
私わたしは驚おどろいた。

1. (べき) 助动词“べし”的连体形，接动词、部分助动词的终止形后，这里表示应当。△こんなことがないように、今後は十分に注意するべきだね。/今后要多加注意才好，免得再发生这样的事。

来了。我想我应该去把她那颗满是创伤的心紧紧地抱在怀里。我想，不论发生什么事，只要我们俩还在一块，就不能算不幸。

我边想边走，突然，一个披着大围巾的女人故意撞了我一下，我一抬头，只见她好象是有意地瞟着我说：

“小哥，不上摩登小姐那儿去吗？”

我吓了一跳，但我没有停下脚步。当我走了一段路，回头看时，只见那女人又在跟另一个男的说着同样的话。刹那间，我脑海里浮现出那女人带人去她家的场面，随之又想到将在那里发生的事情，接着是郁子的脸在那里闪现……我无法忍受了，拼命地摇晃着头。

然后，我避到了一个行人稀少的马路上。

此时，“生活”这个字眼仿佛正带上新的含义向我走来。它和我以前想象的是多么不同，这使我惊讶不已。

---

2. (と) 接活用词终止形后，这里表示逆态连接。△僕が何と言おうと、君たちの知ったことじゃないよ。/我说什么，你们不用知道。

3. (げ) 接尾词。接动词连用形、形容词及形容动词词干后，表示样子。△彼はうれしげに笑った。/他高兴地笑了。

4. (か) 这里表示提议。△この日曜日、先生のお宅に遊びに行ってみようじゃないか。/这个星期天，到老师家里去玩玩怎么样？

……<sup>いくこ</sup>郁子<sup>いえ</sup>の家<sup>まえ</sup>の前<sup>き</sup>に来たとき、<sup>わたし</sup>私は<sup>きゆう</sup>急に<sup>じ</sup>自分<sup>ぶん</sup>の  
<sup>むね</sup>胸<sup>う</sup>がドキ打つ<sup>おぼ</sup>の<sup>おぼ</sup>を覚えた。

---

1. (ドキ打つ) 等于“ドキドキ打つ”。

……当我走到郁子的家门口时，只觉得自己的心噗腾噗腾地跳个不停。

## ひと ころ いぬ 人を殺す犬

右手に十勝岳<sup>1</sup>が安すッ、ぽいペンキ画の富士山のように、青空にクッキリ見えた。其処は高地だったので、反対の左手一帯は丁度大きな風呂敷を皺にして広げたように、その起伏がズウと遠くまで見られた。その一つの皺の底を線が縫<sup>2</sup>って、こっちに向ってだんだん上って来ている。釧路<sup>3</sup>の方へ続いている鉄道だった。十勝川<sup>4</sup>も見える。子供が玩具にしたあとの針金<sup>5</sup>のようだった。が所々だけまぶゆく<sup>6</sup>ギラギラと光っていた。——「真夏」の「真昼」だった。遠慮のない大陸的なヤケに熱い太陽で、その辺から今にもポツポツと火が出そうに思われた。それで、その高地を崩していた土方は、まるで熱いお湯から飛び出してきたように汗まみれ<sup>7</sup>になり、フラフラになっていた。皆の眼はのぼせて、トロンとして、腐<sup>8</sup>った鯁のように赤く、よどんでいた。

1. (十勝岳) 北海道中部的活火山，海拔二〇七七公尺。

2. (縫って) 曲折地穿过。

## 杀人凶狗

蔚蓝的天空中，可以清楚地看到右边的十胜岳，犹如一幅整脚的富士山油漆画。由于那儿是一块高地，因此与它相反的左边一带，人们能看到它的起伏，宛如一块弄皱后打开了的大包袱布，一直伸展到很远很远的地方。沿着一条皱纹，慢慢地向这边爬上来的一条线，是通往钏路的铁路。还可以看到十胜河，象孩子玩弄过的铁丝一样，只有几处令人耀眼地闪闪发光。此刻正是盛夏的中午。大陆性的酷暑，加以烈日的无情照射，这一带如今也象快要忽忽地冒出火来似的。因此，开挖高地的土木工人，简直象刚从热水澡堂里出来一样，浑身冒汗、摇摇晃晃。大伙儿双目无神，上了火，象腐烂的鲑鱼一样，充满了血丝，浑沌不清。

---

3.〔钏路〕北海道东岸位于钏路河河口的港口城市。

4.〔十胜川〕发源于十胜岳，注入太平洋，长约一九五公里。

5.〔だけ〕这里表示限定范围，△彼だけは別だ。（唯有）他除外。

6.〔まぶゆく〕等于“まぶしく（まぶしい）”、“まばゆく（まばゆい）”。

7.〔汗まみれ〕满脸是汗；浑身是汗。

ぼうがしら ひとり はし い  
棒頭<sup>1</sup>が一人走って行った。

ひとり あと はし い  
もう一人がその後から走って行った。

ひやくにんちか ど かに さゆ<sup>2</sup> に  
百人近くの土方が急にどよめいた。「逃げたな

あ!

なに ばか やらう うま には  
「何してる<sup>2</sup>! 馬鹿野郎、馬の骨!

ぼうがしら さつき だれ ひと  
棒頭は殺気だった。誰かが向うでなぐられた。

じか にく う おと  
ポクン<sup>3</sup>! 直接に肉が打たれる音がした。

ときおやぶん うま に さんにん ぼうがしら  
この時親分が馬でやってきた。二、三人の棒頭  
にピストルを渡すと、すぐ逃亡者を追いかけるよ

い  
うに<sup>4</sup>云った。

ばか こと  
「馬鹿な事をしたもんだ<sup>5</sup>。」

だれ またいぬ よろこ  
誰だろう? すぐつかまる。そしたら<sup>6</sup>又犬が喜

ぶ!

がんか せんろ おもちや さやくしや のぼ  
眼下の線路を玩具のような客車が上りになって  
いるこっちへ上ってくるのが見えた。疲れきった  
ようなバシュバシュという音がきこえる。時々寒  
い朝の呼気のような白い煙を円くはきながら。

\* \* \*

く がた どうこうやら いっ ぼうがしら  
その暮れ方、土工夫等は何時ものように、棒頭  
に守られながら現場から帰ってきた。脊<sup>7</sup>から受け  
る夕日に、鶴尖やスコップをかついでいる姿が前

1. (棒頭) 工头。

2. (何してる) 等于“何している”。てる: “ている”的约音。

忽然，一个工头飞快地奔过去。

另一个人跟在他后边也飞奔过去。

近百个土木工人立刻喧闹起来：“有人逃跑啦！”

“干什么？混蛋！贱骨头！”

工头杀气腾腾地骂道。在那边有人挨了揍。

啪！——响起了直接打在肉体上的声音。

这时，把头骑着马来了。他把手枪递给二、三个工头，叫他们马上去追逃跑的工人。

“何苦做这种傻事！”

他是谁呢？马上就会被抓回来。这下，狗又要高兴了！

可以看到下边的铁路上，玩具似的客车正在往这上边爬，并能听见它发出疲惫不堪似的“噗嗤噗嗤”的声音。还不时吐出象寒冷的清晨哈气那样的白色烟圈……

\* \* \*

那天傍晚，土木工人们与往常一样，被工头押着从工地回来。夕阳照在脊背上，把扛着洋镐和铁

3.〔ボクン〕用棍棒之类，击打人体时发出的声音。

4.〔ように〕这里表示命令，△もっと大きな声で返事をするように，/回答的时候，声音请再大一点儿。

5.〔もんだ〕等于“ものだ”，接活用词连体形后，表示感叹，△月日がたつのは早いもんだ，/日子过得真快！△惜しいことをしたもんだ，/这太可惜了！

6.〔そしたら〕等于“そうしたら”。

7.〔脊〕从前后文看，该词应为“背”。

ほう なが かげ ちやうどはんば やま  
の方に長く影をひいた。丁度飯場へつく山を一つ  
まわ とき うしろ うす はずめ おと こと つ  
廻りかけた<sup>1</sup>時、後から馬の蹄の音が聞えた。捕か  
まった、皆そう思い、立ち止まって振り返ってみ  
た。源吉<sup>げんきち</sup>だった。

源吉<sup>げんきち</sup>はズブ濡れの身体<sup>からだ</sup>をすっかりロープで縛ら  
れていた。そしてその網<sup>つな</sup>の端<sup>はし</sup>が棒頭<sup>ぼうがしら</sup>の乗<sup>の</sup>っている  
馬<sup>うま</sup>につながれていた。馬<sup>うま</sup>が少し早<sup>はや</sup>くなると(早<sup>はや</sup>  
するのだ)逃亡者<sup>とうぼうしや</sup>はでんぐり返<sup>かえ</sup>って、そのまま石<sup>いし</sup>  
ころだらけ<sup>やまみち</sup>の山途<sup>こ</sup>を引きずられた。半纏<sup>はんてん</sup>が破れ  
て、額<sup>ひたい</sup>や頬<sup>ほ</sup>から血<sup>ち</sup>が出ていた。その血<sup>ち</sup>が土<sup>つち</sup>にまみ  
れて、どす黒<sup>くろ</sup>くなっている。

皆<sup>みな</sup>は何<sup>な</sup>んにも云<sup>い</sup>わないで、又<sup>また</sup>歩<sup>ある</sup>き出<sup>だ</sup>した。

(体<sup>からだ</sup>を悪<sup>わる</sup>くしていた源吉<sup>げんきち</sup>は死<sup>し</sup>ぬ前<sup>まえ</sup>にどうしても、  
あおもりのこ にはおや いちど あ  
青森<sup>あおもり</sup>に残<sup>のこ</sup>してきた母親<sup>ははおや</sup>に一度<sup>いちど</sup>会<sup>あ</sup>いたいとよくそ  
う云<sup>い</sup>っていた。二十三<sup>にじゅうさん</sup>だった。源吉<sup>げんきち</sup>が、二日<sup>ふつか</sup>前<sup>まえ</sup>の  
あめ にご うご ま なが と から  
雨<sup>あめ</sup>ですっかり濁<sup>にご</sup>って、渦<sup>うご</sup>を巻<sup>ま</sup>いて流<sup>なが</sup>れていた十勝<sup>とから</sup>  
かわ いたいちまい と こと  
川<sup>かわ</sup>に、板<sup>いたいちまい</sup>一枚<sup>と</sup>もって飛<sup>と</sup>びこんだ、という事<sup>こと</sup>はあと  
み わか  
で皆<sup>みな</sup>んなに分<sup>わか</sup>った。)

\* \* \*

めし す ぼうがしら みな あまち よ  
飯<sup>めし</sup>が済<sup>す</sup>むと、棒頭<sup>ぼうがしら</sup>が皆<sup>みな</sup>を空地<sup>あまち</sup>に呼<sup>よ</sup>んだ。  
また  
又<sup>また</sup>だ!

1. [廻りかけた] 刚要绕过。かけ：动词“かける”的连用形。

锹的人们的身形在前边的地上留下长长的影子。当他们拐过去工棚途中的一座山头的时候，听到后边传来了马蹄声。“被抓住了！”大家都这么想，停住了脚步回头看。被抓回来的原来是源吉。

源吉湿淋淋的身体，被绳子捆得紧紧的，绳子的一头拴在工头骑的马头上。马跑得稍微快一些（那是工头故意加快的），逃亡者就仰面朝天，在那满布石砾的山路上被拖过去，小褂破了，脑门、脸颊都出血了。血和泥土粘在一起，成了黑糊糊的颜色。

大家什么也没说，又往前走了。

（源吉在这里把身体搞坏了，他常说，想在临死之前看一眼留在青森的母亲。他才二十三岁。后来大家才知道，他抱着一块木板，就跳进了被两天前雨水弄得混浊了的、打着旋涡流着的十胜河里。）

\* \* \*

开过了饭，工头喊大家上空地集合。

又来那一套了！

---

接动词连用形后，表示动作刚开始。△手紙を書きかけたところへ、彼がやって来た。△刚开始写信，他来了。

2.〔だらけ〕接尾词。意为“尽是”。△血だらけの顔をしている。△满脸是血。

3.〔青森〕日本本州东北的一个县名。

「俺<sup>おら</sup>行<sup>い</sup>きたくねえや<sup>や</sup>……」皆<sup>みな</sup>んなそ<sup>い</sup>う云<sup>い</sup>った。

空地<sup>あきち</sup>へ行<sup>い</sup>くと、親<sup>おや</sup>分<sup>ぶん</sup>や棒<sup>ぼう</sup>頭<sup>がしら</sup>達<sup>たち</sup>がいた。源<sup>げん</sup>吉<sup>きち</sup>は縛<sup>しば</sup>られたま<sup>ま</sup>、空地<sup>あきち</sup>の中央<sup>ちゆうおう</sup>に打<sup>う</sup>ちぶせ<sup>せ</sup>にな<sup>な</sup>って<sup>い</sup>いた。親<sup>おや</sup>分<sup>ぶん</sup>は犬<sup>いぬ</sup>の脊<sup>せ</sup>をな<sup>な</sup>でな<sup>な</sup>が<sup>ら</sup>、何<sup>なに</sup>か大<sup>おほ</sup>声<sup>こゑ</sup>で話<sup>はな</sup>して<sup>い</sup>た。

「集<sup>あつ</sup>ま<sup>ま</sup>ったか？」大<sup>たい</sup>将<sup>しよう</sup>がき<sup>き</sup>いた。

「全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>だ<sup>な</sup>あ？」そ<sup>そ</sup>う棒<sup>ぼう</sup>頭<sup>がしら</sup>が皆<sup>みな</sup>に云<sup>い</sup>うと、

「全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>で<sup>す</sup>。」と、大<sup>たい</sup>将<sup>しよう</sup>に答<sup>こた</sup>えた。

「よオし<sup>し</sup>、初<sup>はじ</sup>め<sup>め</sup>るぞ<sup>ぞ</sup>。さあ皆<sup>みな</sup>んな見<sup>み</sup>て<sup>ろ</sup>、ど<sup>ど</sup>んな事<sup>こと</sup>にな<sup>な</sup>るか！」

親<sup>おや</sup>分<sup>ぶん</sup>は浴<sup>ゆ</sup>衣<sup>い</sup>の裾<sup>すそ</sup>をま<sup>ま</sup>くり上<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>ると源<sup>げん</sup>吉<sup>きち</sup>を蹴<sup>け</sup>った。「立<sup>た</sup>て！」

逃<sup>とう</sup>亡<sup>ぼう</sup>者<sup>しや</sup>はヨ<sup>よ</sup>ロ<sup>ろ</sup>ヨ<sup>よ</sup>ロに立<sup>た</sup>ち上<sup>あ</sup>った。

「立<sup>た</sup>てるか、ウ<sup>う</sup>ム<sup>む</sup>？」そ<sup>そ</sup>う云<sup>い</sup>って、いき<sup>い</sup>なり横<sup>よこ</sup>ッ<sup>つ</sup>面<sup>めん</sup>を拳<sup>つら</sup>固<sup>げんこ</sup>でな<sup>な</sup>ぐりつ<sup>つ</sup>け<sup>た</sup>。逃<sup>とう</sup>亡<sup>ぼう</sup>者<sup>しや</sup>はま<sup>ま</sup>るで芝<sup>しば</sup>居<sup>い</sup>の型<sup>かた</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>く</sup>りにフ<sup>ふ</sup>ラ<sup>ら</sup>フ<sup>ら</sup>ッ<sup>つ</sup>と<sup>し</sup>た。頭<sup>あたま</sup>がガ<sup>ま</sup>ッ<sup>え</sup>ク<sup>り</sup>前<sup>まえ</sup>にさ<sup>さ</sup>が<sup>が</sup>った。そ<sup>そ</sup>して唾<sup>つば</sup>を<sup>を</sup>は<sup>は</sup>いた。血<sup>ち</sup>が口<sup>くち</sup>から流<sup>なが</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>き</sup>た。彼<sup>かれ</sup>は二<sup>に</sup>、三<sup>さん</sup>度<sup>ど</sup>血<sup>ち</sup>の唾<sup>つば</sup>を<sup>を</sup>は<sup>は</sup>いた。

「馬<sup>ば</sup>鹿<sup>か</sup>、見<sup>み</sup>ろ<sup>い</sup>ッ<sup>っ</sup>！」

1. (俺<sup>おら</sup>) “俺<sup>おら</sup>は”的约音。

2. (行<sup>い</sup>きたくねえや) 可不想去，ねえ：“不<sup>ない</sup>”的约音、や：位于句末，接活用词终止形或命令形后，表示缓和的语气。  
△まあそんなことはどうでもいいや、/那些事嘛，随便怎么都

“俺可不想去……”大伙儿都这么说。

来到了空地上，把头和工头们都在那儿了。源吉被捆着，趴在空地的中央。把头一边摸着狗的脊背，一边大声地说着话。

“都来了吗？”把头问道。

“都来齐啦？”工头这样问大家一句，然后就回复把头：“人都齐了。”

“好，开始吧。喂，你们瞧着，就演好戏了！”

把头撩起和服的下摆，踢了源吉一脚：“站起来！”

逃亡者摇摇晃晃地站了起来。

“你还站得起来哪，嗯？”把头说着，冷不防朝他的脸颊就是一拳。逃亡者简直象演戏似的，轻飘飘失去了主心骨，脑袋一下就低垂到胸前；吐了一口唾沫，血从嘴边流了出来，接着又吐了二、三口带血的唾沫。

**“混蛋，给你点厉害看看！”**

行啊。

3.〔打ちぶせ〕 等于“うつぶせ”。

4.〔脊〕 见P.47注7。

5.〔よおし〕 等于“よし”。

6.〔ぞ〕 位于句末，表示强调自己的主张。男子用语。△きつとやり遂げてみせるぞ。/我一定要搞成功！

7.〔見てろ〕 等于“見ている”。てろ：“ている”的约音。

8.〔ウム〕 咄。

9.〔いっ〕 等于“い”。位于句末，表示轻蔑的语气。男子用语。△かってにしろいっ！/滚你便！

おやぐん われ したげ ほう  
親分の胸がハダけて、胸毛がでた。それから棒  
がしら  
頭に。

「やるんだぜ<sup>1</sup>！」と合図をした。

ひとり とうぼうしや と  
一人が逃亡者のローブを解いてやった。すると  
ほうがしら おとな せい ほど と さ いぬ げんきち ほう  
棒頭がその大人の脊<sup>2</sup>程もある土佐犬<sup>3</sup>を源吉の方  
へむけた。犬はグウグウと腹の方でうなっていた  
が、四肢が見ているうちに、力がこもってゆくのが  
わか  
分った。

「そらッ！」と云った。

ほうがしら と さ いぬ はな  
棒頭が土佐犬を離した。

いぬ は た まえあし しり ほう  
犬は歯をむき出して、前足をのぼすと、尻の方  
を高くあげて……源吉は身体をふるわしていた  
が、ハッとして立ちすくんでしまった。瞬間シー  
ンと<sup>4</sup>なった。誰の息づかいも聞えない。

と さ いぬ かけ と げんきち  
土佐犬はウオッと叫ぶと飛びあがった。源吉は  
なに さげ て む めくら まえ て だ  
何やら叫ぶと手を振った。盲目が前に手を出して  
まさぐるような恰好をした。犬は一と飛びに源吉  
に食いついた。源吉と犬はもつれあって、二、三  
かいつちら うえ いぬ はな くら  
回土の上をのたうった。犬が離れた。口のまわり  
ち つ いぬ おやぐん  
に血が附いていた。そして犬は親分のまわりを、  
からだ げんかい げんきち  
身体をはねらしながら二、三回まわった。源吉は  
だお ちよつと あいだ うご  
倒れたまま一寸の間ピクッピクッと動いていた。  
た あが と さ いぬ は  
がフラフラと立ち上った。と土佐犬は吠えもせず

把头袒开胸脯，露出胸毛，接着就冲着工头发号施令：

“动手吧！”

一个人就解开逃亡者的绳索。于是工头就把那身长赶得上大人高的土佐狗朝着源吉，那狗肚子里咕咕地直叫，它的四条腿，眼看就憋足了劲头。

“去！”

工头把土佐狗放了出去。

那狗呲着牙，前脚一扑，屁股一撅……源吉浑身颤抖，吓得呆若木鸡。刹时间，死寂无声。人们连大气儿也不敢出。

土佐狗咆哮着扑了上去。源吉悲鸣了一下，挥着手，好比瞎子把手伸到前方摸索似的。狗一下子就咬住了源吉。源吉和狗滚成一团，在地上翻滚了二、三回。狗离开了，它的嘴边沾着血。然后，它绕着把头周围跳着转了二、三圈。源吉倒在地上，抽动了几下，就晃晃悠悠地站起来了。土佐狗

---

1.〔ぜ〕 位于句末，表示强调。男子用语。△それでは、後のことを願ひぜ。/那么，以后就拜托你啦。

2.〔脊〕 见P.47注7。

3.〔土佐犬〕 土佐狗和英国狗交配产生的一种大狗。土佐：日本四国高知县旧地名。

4.〔シーンと〕 寂静。等于“しんと”。

5.〔ピクッピクッと〕 抽动。

と飛びかかった。源吉はひとたまりもなくはね飛ばされて、空地を区切っている塀に投げつけられた。犬はまたせまった！源吉は犬の方に向き直った。そして塀に脊<sup>1</sup>をもたせ、脊<sup>2</sup>中でずって立ち上った。皆んな思わず其の方を見た。こっちに向けた顔はすっかり血だらけで分らなかった。その血が顎から咽喉を伝って、すっかりムキ出しにされて、せわしくあえいでいる胸を流れるのが分った。立ち上ると源吉は腕で顔をぬぐった、犬の方を見定めようとすゝようだった。犬は勝ち誇ったように一吠え吠えと、瞬間、源吉は分けの分らないことを口早に云ったか、と思うと<sup>3</sup>、

「怖かない！ オッ母ッ！」と叫んだ。

そしてグルッと<sup>4</sup>身体を廻すと、猫がするように塀をもがいて上るような恰好をした。犬がその後から喰らいついた。

\* \* \*

その晩棒頭が一人附添って土方二人が源吉の死骸をかついで山へ行った。穴をほってうずめた。月夜で十勝岳が昼よりもハッキリ見えた。穴の中にスコップで土をなげ入れると、下で箱にあたる音が不気味に聞えた<sup>5</sup>。

1、2、〔台〕 見P.47注7。

吠也不吠一下就扑上去了。源吉被轻而易举地摔到空地尽头的墙边。狗又逼上去了！源吉转过身朝着狗，背靠着墙，往上蹭着站了起来。大伙儿不由得朝那方向看了一眼，只见他满脸血肉模糊，鲜血顺着下巴流过咽喉，滴到裸露的、急促地喘着气的胸口上。源吉站了起来，用胳膊擦了擦脸，仿佛要瞄准了狗的方位。那狗象是夸耀胜利似地狂吠了一阵。刹那间，源吉很快地不知说了句什么，接着就大叫：

“吓死我啦！妈妈呀！”

然后他一下子转过身去，做出猫要挣扎着爬墙的姿势，狗从后边咬住了他。

\* \* \*

那天夜晚，一个工头押着两个土木工人，把源吉的尸体抬到山上去，挖了窟窿埋掉了。

在月光的照耀下，十胜岳比白天看得还清楚。用铁锹往窟窿里填土，土碰在下面箱子上，发出令人毛骨悚然的声音。

---

3. (…か、と思うと) 刚一…就；以为…却…。△稻妻が走ったかと思うと、雷が鳴った。/电光一闪，紧接着响起了隆隆的雷声。△雨が降ったかと思うとすぐやんだ。/雨刚一一下就停了。

4. (ゲルッと) 形容迅速转身的样子。

5. (不気味に聞えた) 听来令人可怕。

かえ ひとり ちようぼうかしう しょうべん とき  
帰りに一人が、丁度棒頭の<sup>1</sup>小便をしていた時、  
なかま たら いつ いぬ ころ  
仲間に「だが、俺<sup>ア</sup>なあキツト何時かあの犬を殺  
してやるよ……」と云った。

---

1. (の) 表示主格。相当于“が”。

回来的时候，一个人趁工头停在后头小便，对伙伴说：“不过，俺总有一天一定要把那狗给宰了！”

どうし たぐち かんしょう  
同志田口の感傷

（誰でも<sup>だれ</sup>ひよいと口笛<sup>くちふえ</sup>を吹いていることがあるものだ<sup>ものだ</sup>。それが何んのうた<sup>うた</sup>かもしらずに。——そして吹いていながら、アこれはあの歌<sup>うた</sup>だった、と気付く。そういう歌<sup>うた</sup>はきまって忘れていた、然し何時<sup>いつ</sup>までも不思議<sup>ふしぎ</sup>に心の気付<sup>きづ</sup>かれない隅<sup>すみ</sup>っこに残っている「追憶<sup>ついおく</sup>」を伴<sup>ともな</sup>っている。と田口<sup>たぐち</sup>がいう。歌と追憶<sup>ついおく</sup>が何かの関聯<sup>かんれん</sup>を持っていることもあり、——そうでなく、ある歌<sup>うた</sup>は不思議<sup>ふしぎ</sup>にそれと少しのかかわりのない場面<sup>ばめん</sup>をもってくることもある。

せめて淡雪<sup>あわゆき</sup>とけぬ間に……

田口<sup>たぐち</sup>はこの歌<sup>うた</sup>をきいたり、フト口笛<sup>くちふえ</sup>で吹いたりすると、——春<sup>はる</sup>さきの冷たい岬<sup>つめ</sup>の鉄道線路<sup>みきと てつどうせんろ</sup>を、日が暮<sup>く</sup>れてから、ねむい体<sup>からだ</sup>を姉<sup>あね</sup>に寄りかからせて歩いているのを思い出<sup>おも</sup>すというのだ。そういえば、彼は蒲団<sup>ふとん</sup>を敷<sup>し</sup>きながら、それをうたっていたようだった。

十位<sup>とおぐらい</sup>の時<sup>とき</sup>だよ、——田口<sup>たぐち</sup>がそういって、枕<sup>まくら</sup>もとに灰皿<sup>はいざら</sup>を引き寄せると、蒲団<sup>ふとん</sup>に腹<sup>はら</sup>ばいになった。) 姉<sup>あね</sup>は「女学校<sup>じょがっこう</sup>」に通<sup>かよ</sup>っていた。自分<sup>じぶん</sup>の家<sup>うち</sup>から

## 田口同志的伤感

（田口说：“谁都会有无意中吹起口哨来的情况，甚至还不知道吹的是什么曲子。而且，吹着吹着才想起原来是那个曲子。那种曲子一定是忘记了，但它却一直奇怪地跟遗留在心灵深处的回忆伴随在一起。”有这样的情况；有些歌曲与回忆具有某种联系；有些歌曲则并非如此，它很奇怪地会带来与其本身毫不相干的场而。

“至少，在浅雪融化之前……”

田口说，他一听到这支歌曲，或者用口哨一吹这个曲子，就会想起初春的夜晚，拖着疲倦的身子，紧依着姐姐走在寒冷的海角那铁路线上的情景。由他这么一说，我才注意到他是刚才边铺被子，边哼这个曲子的。“那时才十岁左右哪……”田口说着把烟灰缸拖到枕头边，就俯躺在被子上。）

姐姐在女子中学读书。按我家的情况，姐姐是

---

1. (でも) 接不定词后，意为“(无论)…都…”。△だれでもいい，すぐ来てくれ。/谁都行，马上来一下。

2. (ものだ) 这里表示一般情况，△酒を飲むと顔が赤くなるものだ。/一般说来，喝了酒就会脸红。

では<sup>1</sup>トチモそれ<sup>どころ</sup>所ではなかった<sup>2</sup>が、ある人が金を  
少し出して<sup>すて</sup>いてくれた。然しそれだとしても<sup>くる</sup>、苦  
しい中<sup>なか</sup>を<sup>かよ</sup>通っていたので——秋<sup>あき</sup>になって、雑穀<sup>ざつこく</sup>の  
出廻<sup>でまわり</sup>期になると、姉<sup>あね</sup>は、学校<sup>がっこう</sup>を<sup>かえ</sup>帰るなり<sup>4</sup>、輸出<sup>ゆしゅつ</sup>青  
豌豆<sup>えんどう</sup>の「手撰<sup>しゆせん</sup>工場<sup>こうじやう</sup>」へ<sup>い</sup>行った。丁度<sup>ちやうど</sup>夜業<sup>やぎやう</sup>の方<sup>ほう</sup>へまわ  
るわけである。

工場<sup>こうじやう</sup>は大抵<sup>たいてい</sup>港<sup>みなと</sup>町<sup>まち</sup>の倉庫<sup>そうく</sup>の二階<sup>に</sup>になっていた。そ  
の日暮<sup>ひぐら</sup>しの「出面<sup>でめん</sup>取<sup>とり</sup>」<sup>5</sup>の女房<sup>にようぼう</sup>たちが、小学校<sup>しょうがっこう</sup>にも通  
えない女<sup>おんな</sup>の子<sup>こ</sup>を連れて<sup>つ</sup>働<sup>はたら</sup>きに<sup>き</sup>来ていた。——小便<sup>しょうべん</sup>  
にも立た<sup>た</sup>ないで<sup>6</sup>一日<sup>いちにち</sup>中<sup>じゆうちゆう</sup>働<sup>はたら</sup>くと、ようやく七、八  
十銭<sup>じゅうせん</sup>になった。然しそれ<sup>しか</sup>も熟練<sup>じゆくれん</sup>した人<sup>ひと</sup>のことで、  
五六十銭<sup>ごじゅうせん</sup>が精々<sup>せいせい</sup>だった。——八時<sup>はちじ</sup>、九時<sup>くじ</sup>まで夜業<sup>やぎやう</sup>  
を<sup>い</sup>すると一円<sup>いちえん</sup>になった。夜業<sup>やぎやう</sup>の帰<sup>かえ</sup>りに、雑穀<sup>ざつこく</sup>がう  
ず高<sup>たか</sup>くか<sup>さ</sup>さなっている倉庫<sup>そうく</sup>の隅<sup>すみ</sup>で、淫売<sup>いんばい</sup>をしなけ  
ればならない女<sup>おんな</sup>もいた。

姉<sup>あね</sup>は四時<sup>よじ</sup>ごろから九時<sup>くじ</sup>まで働<sup>はたら</sup>いて、四五<sup>しご</sup>十銭<sup>じゅうせん</sup>稼<sup>かせ</sup>  
いできた。姉<sup>あね</sup>のよう<sup>おんな</sup>な女<sup>おんな</sup>で、そうい<sup>い</sup>うところへ行  
っているものは一人<sup>ひとり</sup>もな<sup>な</sup>かった。然し姉<sup>あね</sup>は嫌<sup>しか</sup>な顔<sup>あね</sup>  
を見<sup>み</sup>せな<sup>い</sup>かった。楽<sup>らく</sup>をして<sup>がっこう</sup>学校<sup>い</sup>へ行<sup>ひと</sup>ける人<sup>ひと</sup>とは違  
うんだから、と<sup>い</sup>っていた。

家<sup>いえ</sup>の近所<sup>きんじよ</sup>に「火山灰<sup>かざんばい</sup>社<sup>しゃ</sup>」<sup>7</sup>があ<sup>あ</sup>った。その工場<sup>こうじやう</sup>裏<sup>うら</sup>

1. 【では】接体言或体言+助詞「は」、表示条件、△今からではもう遅い。/現在已經晚了。

无法上学的，但有人接济了我们一点。即使如此，姐姐也还是在困苦中求学。因此，一到秋天杂粮上市的季节，姐姐放学回来就到出口青豌豆的手工选豆工场去劳动。这段时间，她正好赶上上夜班。

工场一般在沿江马路仓库的二楼。那些临时工的妻子，带着上不起小学的女孩来劳动。连厕所也不上，整整劳动一天，才挣得七、八角钱。但这还是熟练工人，一般人充其量不过五、六角钱。要是加夜班，做到八、九点钟，就可挣到一元钱。也有女工在夜班结束后，不得不在杂粮堆得很高的仓库角落里卖淫。

姐姐从四点左右劳动到九点，可挣四、五角钱。象姐姐一样到那种地方去劳动的女孩子，可以说一个也没有。可是姐姐并没有显露不高兴的神色。她曾经说，她和那些能无忧无虑地上学去的人不一样。

我家附近有家“火山灰公司”。我们经常提着铅

---

2.〔それ所ではなかった〕 根本谈不上那(这)些。△家は貧乏でとてもそれどころではなかった。/家里很穷，根本谈不上这些。

3.〔それだとしても〕 即使如此。

4.〔なり〕 这里表示前项动作紧接着发生，△部屋の中へ一歩踏みこむなり，ガンと一発なぐられた。/一踏进房门，就被猛击了一下。

5.〔出面取〕 打短工的人；临时工，出面：一天的工钱，亦可读作“でづら”。

6.〔小便にも立たないで〕 连厕所都不上。

7.〔火山灰社〕 从前后文看，该词应为“火山灰会社”。

へバケツを持って行って、捨ててある石炭カスの  
山の中から「コークス」を拾った。——冬になると、  
木炭の代りになるのである。それを、胴にたくさ  
ん穴をあけたバケツに入れて、ストーヴ<sup>1</sup>にした。

紫色の炎を立てて燃えた。煙突など勿論つけな  
いので家申けぶった。鼻穴がキンキンと<sup>2</sup>痛んだ。  
父は煙のために眼のふちをただれさせていた。そ  
れでも寒いよりは凌ぎよかった。——誰にも拾わ  
れないうちにといので、姉は人より早く起きて  
出掛けて行った。帰ってくると、姉の頭は石炭カ  
スの灰で真白になっていた。——自分もそういう  
姉にひかれて<sup>3</sup>コークスを拾いに行ったことがあ  
った。

その年は小樽<sup>4</sup>の近海が五年振り<sup>5</sup>の鯨の大漁で  
賑わった。——北海道は鯨が大漁か、不漁かで、  
見ちがえるほど景気と人気がちがう。「鯨の沖上  
げ<sup>6</sup>」で、番背負い<sup>7</sup>をすると、女でも一日二三円に  
なった。「鯨さき<sup>8</sup>」の技術を覚えていると、もっと  
金になった<sup>9</sup>。それに、いくら人手があっても足り

1. (ストーヴ) 等于“ストーブ”。
2. (キンキンと) 形容耳朵、鼻孔阵阵发痛的样子。
3. (姉にひかれて) 这句有两种解释：(1)被姐姐拖曳着；(2)受姐姐的影响，从文章的前后关系来看，这里属第二种意思。

桶，到那工厂后边去，从废弃的煤碴堆中拾焦炭回来。一到冬天，它便代替木炭使用。焦炭放在四周打了很多洞的铅桶里，就成了炉子啦。焦炭燃烧时产生紫色的火焰。不用说，没有装烟囱之类的东西，因此弄得家里烟雾腾腾，熏得鼻孔阵阵作痛。父亲被烟熏得眼角也烂了，但这总比挨冻好受些。听人说，要趁没有人拣的时候去较好，因此，姐姐出去比别人都早。待她回到家里，满头是一片雪白的煤碴灰。我也曾在这样一位姐姐的影响下，去拣过焦炭。

那一年，小樽近海获得了五年来从未有过的鲱鱼大丰收，港口热闹非凡。在北海道，鲱鱼丰收还是歉收，市面及风气就大不相同。装卸鲱鱼，只要一背上鱼篓，即使是女的，一天也能挣二、三元钱。倘若有剖鱼技术的，那挣的钱就更多了。而且，人

4.〔小樽〕北海道西部的港口城市。

5.〔振り〕接尾词。接时间名词后，表示时间的经过。△十二年ぶりで北京に行った。/隔十二年去了北京。

6.〔沖上げ〕把鱼从渔船卸到舢板，然后再卸到陆地上的活儿。

7.〔畚背負い〕背鱼篓卸鱼的活儿(或人)。亦可读作“もっこぜおい”。

8.〔さき〕“割く”的连用形，和“鱈”构成复合名词，意为“剖鲱鱼”。△魚の腹を割く。/剖开鱼肚皮。

9.〔金になった〕可以得到不少钱。△この硯は金になる。/这个砚台可卖不少钱。△この仕事は金にならない。/干这活挣不了多少钱。

ないのだ。何<sup>なに</sup>しろ「棹<sup>わく</sup>」に入<sup>はい</sup>った何<sup>なん</sup>千石<sup>せんごく</sup>、何<sup>なん</sup>万石<sup>まんごく</sup>の  
鯨<sup>にしん</sup>を二<sup>に</sup>三日<sup>さんびち</sup>のうちに陸<sup>りく</sup>揚げ<sup>あげ</sup>して始<sup>し</sup>末<sup>まつ</sup>しなければな  
らないのだった。

——けれども、姉<sup>あね</sup>はそれには行<sup>い</sup>くといわ<sup>い</sup>ないの  
だ。

「一日<sup>いちにち</sup>二<sup>えん</sup>円<sup>えん</sup>にもなると<sup>な</sup>。何<sup>なん</sup>んぼ助<sup>すけ</sup>け<sup>け</sup>になるか<sup>か</sup>?!」  
母<sup>はは</sup>は何<sup>なん</sup>度もそれ<sup>それ</sup>をい<sup>い</sup>った。

「んだども<sup>だ</sup>……嫌<sup>いや</sup>だ<sup>な</sup>ア! ……だ<sup>だ</sup>って……。」

こ<sup>な</sup>んなこと<sup>こと</sup>の無<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った姉<sup>あね</sup>だ<sup>だ</sup>った。

「日<sup>にち</sup>曜<sup>よう</sup>一<sup>いち</sup>日<sup>にち</sup>行<sup>い</sup>って<sup>も</sup>、一<sup>いっ</sup>月<sup>げつ</sup>の分<sup>ぶん</sup>が<sup>で</sup>出<sup>で</sup>る<sup>ん</sup>だ<sup>よ</sup>

……。」

「日<sup>にち</sup>曜<sup>よう</sup>だ<sup>か</sup>ら<sup>さ</sup>……。」

姉<sup>あね</sup>は<sup>い</sup>い<sup>に</sup>く<sup>そ</sup>う<sup>に</sup>い<sup>い</sup>た。

「日<sup>にち</sup>曜<sup>よう</sup>だ<sup>か</sup>ら<sup>?</sup>」

「……。」——姉<sup>あね</sup>は<sup>だ</sup>ま<sup>ま</sup>って<sup>は</sup>母<sup>はは</sup>を<sup>み</sup>て<sup>い</sup>た。——

「市<sup>し</sup>の<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>が<sup>み</sup>皆<sup>みな</sup>見<sup>けん</sup>物<sup>ぶつ</sup>に<sup>く</sup>る<sup>で</sup>し<sup>よ</sup>う。……それ<sup>に</sup>

……。」

が、そ<sup>こ</sup>で<sup>こ</sup>で<sup>こと</sup>言<sup>つ</sup>葉<sup>ま</sup>が<sup>ふ</sup>躓<sup>ず</sup>いた。

「それ<sup>に</sup>……ね、お<sup>とも</sup>友<sup>だ</sup>ち<sup>が</sup>、学<sup>が</sup>校<sup>てい</sup>の……!」

母<sup>はは</sup>は<sup>そ</sup>う<sup>い</sup>わ<sup>れ</sup>て、思<sup>おも</sup>わ<sup>ず</sup>姉<sup>あね</sup>の<sup>かお</sup>顔<sup>み</sup>を<sup>み</sup>た。

「……!」

姉<sup>あね</sup>が<sup>も</sup>つ<sup>こ</sup>背<sup>せ</sup>負<sup>お</sup>い<sup>に</sup>行<sup>い</sup>く<sup>の</sup>を、と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>嫌<sup>いや</sup>が<sup>っ</sup>た<sup>の</sup>は、

不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>で<sup>な</sup>か<sup>っ</sup>た<sup>か</sup>も<sup>し</sup>知<sup>し</sup>れ<sup>な</sup>い。——姉<sup>あね</sup>に<sup>は</sup>あ<sup>れ</sup>

手再多也不嫌多。因为，必须在二、三天内，把装进“筐子”的成千上万担的鲑鱼卸完、处理好。

但是，姐姐就是没说要到那儿去。

“一天能挣两元钱呐！真不知可帮家里多少忙啊。”母亲几次三番这么说。

“话虽然这么说，可是……我不愿意……因为……”姐姐从来没有这样回绝过。

“即使星期天去一天，也能挣得一个月的钱呢！……”

“就是因为是星期天嘛……”姐姐难以启口似地说。

“就是因为是星期天？”

“……”姐姐一声不响地瞅着母亲。——后来，她吞吞吐吐地说：“市区里的人都要出来玩儿……再说……”然而，话到这儿塞住了。

“再说……是不是？学校里的那些朋友……！”

母亲被姐姐那么一说，不由得看了姐姐一眼。

“……！”

姐姐之所以不愿意去干背鱼篓的活儿，也许并不奇怪。别看姐姐那个样子，她的“虚荣心”可强

1. (ど) 方言，这里相当于“ぞ”，表示强调。

2. (何んほ助けになるか) 帮助可大啦！

3. (んだども) 方言，相当于“そうだけれども”。

4. (さ) 位于句节末，表示强调。△英語で手紙が書けるかい？もちろん書けるさ。/能用英语写信吗？当然能。

で<sup>ずいぶん</sup>「見栄<sup>みえ</sup>」があった。普通<sup>ふつう</sup>いう見栄<sup>みえ</sup>といえるか、どうか<sup>し</sup>知らないが、姉は自分の家が「場末<sup>ばすえ</sup>」にあって、汚<sup>きたな</sup>いので、決して女学校の友達<sup>けい</sup>を連れてくることをしなかった。——風<sup>かぜ</sup>が少し強<sup>すこ</sup>いと家<sup>つよ</sup>がユキユキ<sup>い</sup>揺れた。それで家の後<sup>い</sup>に「さきり<sup>うしろ</sup>」をつっかえていた。天井板<sup>てんじょういた</sup>もなく、梁<sup>はり</sup>がムキ出し<sup>だ</sup>で雨<sup>あめ</sup>が漏<sup>も</sup>った。湿地<sup>しつち</sup>で床<sup>ゆか</sup>が低<sup>ひく</sup>いので、雨<sup>あめ</sup>が降<sup>ふ</sup>ると畳<sup>たたみ</sup>が足<sup>あし</sup>にねばった。そして、ゴボッ、ゴボッと<sup>した</sup>下<sup>おと</sup>で音がした。羽目板<sup>はめいた</sup>に張<sup>は</sup>ってある帆布<sup>はのの</sup>の切れや、むしろ<sup>あめ</sup>が雨<sup>ゆき</sup>や雪<sup>しろ</sup>で白<sup>さわ</sup>ちゃけて、触<sup>さわ</sup>るとボロボロになった。

春<sup>はる</sup>になると、海<sup>うみ</sup>に近いこの場末<sup>らか</sup>に市<sup>ばすえ</sup>の人<sup>し</sup>が散歩<sup>ひと</sup>にやってくる。そのなか<sup>さんぽ</sup>に学校<sup>がっこう</sup>友達<sup>ともだち</sup>でも見<sup>み</sup>付<sup>つ</sup>けると、姉<sup>あね</sup>は家<sup>いえ</sup>のなか<sup>かく</sup>に隠<sup>かく</sup>れて、もう出<sup>で</sup>なかった。——こんな<sup>いちめん</sup>一面<sup>し</sup>を持っている。

大漁<sup>たいりよう</sup>だとなれば、小樽<sup>おたる</sup>の会社<sup>かいしゃ</sup>員<sup>いん</sup>とか学生<sup>がくせい</sup>とか、そういう風<sup>ふう</sup>の人<sup>ひと</sup>達<sup>たち</sup>が、日曜<sup>にちよう</sup>を使<sup>つか</sup>って、「練場<sup>にしんば</sup>見物<sup>けんぶつ</sup>」にやってくるのは分<sup>わか</sup>りきっている。——かすり<sup>かすり</sup>の「刺子<sup>さしこ</sup>」<sup>き</sup>を着<sup>き</sup>て、キャハン<sup>キャハン</sup>をつ<sup>つ</sup>け、頬<sup>ほお</sup>かぶり<sup>かぶり</sup>をして、畚<sup>もっこ</sup>を背<sup>せ</sup>負<sup>お</sup>っているところをその人<sup>ひと</sup>達<sup>たち</sup>に見<sup>み</sup>ら

1. (あれで) 别看那副样子。△彼はあれで教授なんだ。/别看他这副样子，他还是个教授呢!

2. (か、どうか) 是否。△そんなこと、言ったかどうか覚えていないな。/是否说过那些话，我可记不得啦。

了。我不知道能否把它叫作一般所谓的虚荣心。姐姐因为自己的家处在偏僻的近郊，且又肮脏，所以从来不带女子中学的同学到家里来玩。我们家的房子风稍微大一点，就会摇摇晃晃，因此在屋后撑着“支柱”。这间屋没有天花板，可以直接看到屋梁，一下雨，屋顶就漏雨。由于土地潮湿、地板又低，一下雨，铺席就会粘脚，发出“嘎巴嘎巴”的声音。贴在板壁上的帆布片和席子，因雨雪的渗透而变得发白了，一碰就纷纷剥落下来。

春天一到，市区里的人们就要到这近海的郊外来散步。如果发现其中有学校里的朋友，姐姐就躲进家里再也不出来了。——她就是有这种脾气。

不言而喻，鲱鱼获得大丰收的时节，小樽的职员啦，学生啦，诸如此类的人们就会利用星期天来参观鲱鱼场。让这些人看见身穿白底花纹的厚衣服，脚扎绑腿，手巾包着脸颊，背着鱼篓的那副神

---

3.〔ユキユキ〕 咯吱咯吱；吱嘎吱嘎。房子摇晃时发出的声音。

4.〔さきり〕 支柱之类的东西。

5.〔ムキ出し〕 显露，暴露。

6.〔畳〕 榻榻米。稻草垫上覆以蔺席面子的厚席。日本式房间地板上都铺有这种厚席。

7.〔ゴボッ、ゴボッと〕 在烂泥地里行走时发出的声音。

8.〔かすり〕 一种碎白点花纹的布。白底带黑色或藏青色花纹的叫“白がすり”，藏青底带白色花纹的叫“紺がすり”。

9.〔刺子〕 把多层布纳在一起制成的衣服。

れる。これは姉におよそ堪えられなかったことだろう。

然し結局は出掛けることになった。——姉はジッと薄い唇をかんでいた。私もその日は後からついて行った。

\* \* \*

海岸まで突き出ている禿山が、熊碓村を小樽から区切っていた。

その崩れそうな崖下のデコボコ道を廻ると、ゆるやかに弯曲している濱の漁村が一眼に見えるところへ出る。家はすぐ後までせまっている山際に沿って、まばらに向う岬まで続いている。その海と山際の狭い間をレールが二条走っている<sup>1</sup>。村の人たちは鉄道を歩く道にしていた。それで汽車は始終汽笛をならしながら、家のひさしのすぐ前を通った。——向う岬の曲がりには、白い煙がポツと立ったかと思うと、煙は山際に沿って、すべるように家々の間を、こっちへ一散に走ってくる。村の中央をすぎると、急にガタガタと響きが聞えてくる……。

ふだんは辺鄙な漁村だった。——しかし海一帯は鯨が群来たために、真白に濁っていた。たくさんかもめの鷗が海面をすれすれに輪をなして赤子のよう

态，这对姐姐来说恐怕是不能忍受的。

然而，姐姐最终还是去了。她紧紧地咬着薄嘴唇。那天，我也跟在姐姐后面去了。

\* \* \*

一直延伸到海岸的秃山，把熊碓村和小樽分割了开来。

绕过那险恶的悬崖下的崎岖道路，就可以一眼望见海滨微微弯曲的渔村。房子沿着紧靠它背后的山麓，稀稀拉拉地伸展到前面的海角。两条钢轨穿过这海与山麓之间的狭小空间。村里人都把铁路当做走道。因此，火车总是一边拉响汽笛，一边从屋檐边开过。——前面海角的拐角处，倏地升起一缕白烟。白烟沿着山麓，滑雪似地穿过家家户户，一溜烟向这边飞驰而来。一过村子中心，立刻就能听到“嘎嗒嘎嗒”的响声。

平时是偏僻的渔村，但是，由于大群鲑鱼的来临，沿海一带混浊得发白，大量海鸥贴着海面盘旋，发出象婴孩哭泣似的啼叫声，洋面上挤满了使

---

1. (レールが二条走っている) 铺着两条钢轨。

な泣き声をたてて飛んでいる。「建網」の船や「刺網」の小舟で沖が賑わっていた。濱には赤や白の長い「流し旗」<sup>1</sup>が何本も立てられていた。大漁旗である。

日曜日で、しかも朝からの天気なので、小樽ばかりでなく札幌<sup>2</sup>からもひどい人出だった。小樽築港駅や朝里駅へとまるどの列車も満員だった。この辺で見られない市の人たちは、停車場から濱まで続いた。——それに半年以上閉じこめられていた北海道の長い冬から、始めて明るい外光を浴びることの出来るころと、それが丁度一緒だった。

姉は畚を背負いながら、手拭を深くかぶって、誰にも分らないようにしていた。自分はその近所で遊んでいた。——一緒に働いていた女たちは、市から綺麗な人がくると、その方ばかり見ている。着物や髪形のことを何時までもいっていた、けれども姉はつとめて見ない風だった。

サンパンには行きと返りの「歩板」を二枚渡して畚に鯀を入れて片方を渡って陸揚げし、別な「歩み」を渡って、船へ帰ってきた。輪のようにそれを繰かえして働いていた。夕暮で鯀をすくい上げる度に、新鮮な鱗の銀色が光った。

肩に双眼鏡をかけた海軍服の子供を連れて、立

用“建网”和“刺网”的大小渔船；海滨上插了很多红白相间的飘带旗，这是渔业丰收旗。

这天是星期天，再加上一早就天气晴朗，因此，不仅从小樽，而且连札幌也来了很多人。抵达小樽筑港站和朝里站的任何一次列车，都挤满了旅客。这一带难得看见的市区里的人们，从车站到海滨络绎不绝。而且，这时恰恰又是人们在北海道熬过半年多漫长的冬天之后，开始能够沐浴到明媚的户外阳光的时刻。

姐姐背着鱼篓，从头到脸严严实实地包着手巾，使谁都认不出来。我就在姐姐工作场所附近玩儿。每当城里有漂亮的女人来到时，跟姐姐一起劳动的妇女们就尽往那边看，没完没了地议论她们的衣服和发型。但是，姐姐竭力不去看她们。

舢板上搭了往返两块“跳板”。鲑鱼装进鱼篓后，人们由一块跳板将鱼卸到岸上，从另一块跳板回到船上。

人们象车轮似地反复进行着这样的劳动。每当用“小捞网”捞起鲑鱼时，鲑鱼的鱼鳞闪耀着银光。

一对穿着阔绰的夫妇，带着肩挂双筒望远镜，

---

1. (流し旗) 一种飘带旗。

2. (札幌) 位于北海道的西部，是北海道的首府。

3. (手拭を深くかぶって) 用手巾把头包起来(尽量不露出脸部)。“手拭”类似细纱布。

ば ふうよ づ けんぶつ こ とも なか  
派な夫婦連れが見物していた。子供は中にいて、  
ははおや て じ ぶん おとこ こ  
母親の手にもたれていた。——自分はその男の子  
の見た事もない洋服に眼をひかれた。双眼鏡もめ  
ずらしかつたのだ。で、自分でも知らずに、その  
そば よ い わたし こ こ じ ぶん ちかづ  
側に寄って行った。——男の子は自分の近付いて  
い き づ ふたり の 眼 が あ 合 った とき、男の  
子はフイに肩をひそめた。そして母親の手をひっ  
ぽ たら しい。ははおや し つ こ う じ ほう み  
母親は脊背負いの方を見ていたが、  
「ええ何に？」という風に——自分の方へ視線を持  
つてきた。わたし なに わる き もら  
私は何か悪いことでもしたような気持  
になって、後ずさりした。

「こっちへお出で！」

とつぜん うしろ せ あね かお  
突然、後から背をこずかれた。姉がきつい顔を  
して立っていた。——

わたし あね どうぐ け すな うえ  
私はおとなしく姉の道具の置いてある砂の上に  
すわ みよ ざび  
坐った。妙に淋しかった。

そこ ひと た  
其処にもたくさん人が立っていた。

み せ もの ぶに おもしろ  
「見世物みたいに<sup>1</sup>ね……何が面白いんだか

……」

あね ひく あね ひと  
姉が低くいった。——姉はしかしその人たちの  
ほう かお あ  
方へ顔は上げられなかった。

わたし すわ かしら わか おとこ ねんな なら た  
私の坐ったすぐ後には若い男と女が並んで立っ  
て いる ら しか つ た。め と ふじいろ き もの  
眼の横ずみ<sup>2</sup>から藤色の着物の

身穿海军服的孩子来这儿游览。那孩子拉着他母亲的手，站在中间。我被那男孩身上从未见过的西服吸引住了，对那双筒望远镜也感到稀奇，于是，就不知不觉地靠近了他们——那男孩发觉我正在靠近他。当我们两人的目光相遇时，那男孩突然皱了皱眉头，于是仿佛拉了拉他母亲的手。他母亲正在观看那边背鱼篓的活儿，这下却象在问他：“哎，什么？”然后，把视线投向我这边。我好象做了什么坏事似地，往后退了。

“到这儿来！”

突然，姐姐从背后戳了我一下，她带着严峻的脸色站在那里。

我顺从地坐到姐姐放着工具的沙滩上，心里感到分外寂寞。

那里也站着很多人。

“好象看戏似的……，啥事儿那么有趣？”姐姐轻声说。可是她不敢抬起头来看那些人。

在我背后不远，好象并肩站着一对青年男女。斜眼望去，只见女的那身淡紫色和服的下摆，雪白

---

1. (みたいに) 助动词“みたいだ”的连用形。接体言、活用词终止形、形容动词词干后。这里表示比喻。△このいすに腰かけると、小学生時代に苦返ったみたいだなあ。/坐在这把椅子上，仿佛回到了小学时代。

2. (眼の横ずみ) 眼角。

すそと、<sup>よじ め</sup>汚れ目のない<sup>しろなご に さ/さん</sup>白足袋、二三寸もありそう  
な<sup>あつ ぞうり ぢりめ</sup>厚い草履、折目のきっちりした<sup>あかがわ</sup>ズボンと赤皮の  
<sup>くつ</sup>靴<sup>み</sup>が見えていた。——ステッキがしきりなしに<sup>うご</sup>  
<sup>わたし</sup>動いた。私はそれを頭を向けずに<sup>あたま た</sup>盗見<sup>ぬすみ</sup>していた。

「よく働くのね<sup>はたら</sup>、女の方で」とか「君も一つ<sup>おんな かに</sup>眷を  
<sup>せ お</sup>背負ってみたらどうだい<sup>かっとう</sup>、あんな恰好をして」と  
か、「どうぞ、そういう<sup>おんな</sup>貴方から……」——そんな  
ことをいって、それから<sup>ふたり</sup>二人で笑った。<sup>わら</sup>

その二人は矢張り<sup>ふたり</sup>畚背負いの人たちの眼をひい  
ていた。前を通るとき、どの<sup>まへ とお</sup>出面<sup>で めん</sup>もキット私の頭  
<sup>わたし あたま</sup>越しに視線を投げて行った。

<sup>あね</sup>姉だけはそうでなかった。

しばらくして、二人が帰って行った。私は坐っ  
たままで、<sup>すな</sup>砂を踏む音がだんだん遠のいて行くの  
を聞いていた。——それからホッとして振りかえ  
ってみた。自分はその時、前にたった一度しか見  
たことのない「活動写真」を思い出した。——その  
<sup>はじ</sup>始めて見た<sup>み</sup>写真に出た美しい女、そんなものの他  
<sup>み</sup>で見たことのないような女に思われた。——それ  
が向う角に見えなくなったとき、私はあきらめて  
<sup>ふ</sup>振りかえるのをやめた。と、<sup>あね</sup>姉の視線と打ち当っ、<sup>し せん う あた</sup>

1. (汚れ目のない) 没有弄脏的痕迹。意思是说：刚穿上去不久；新的。

的分趾袜子，足有两、三寸厚的草屐，以及男的那条毕挺的裤子和棕色皮鞋，不停地挥动着的手杖。我没有转过脸去，偷偷地看着他们。

“虽然是些女的，可真会劳动。”“你也打扮成那个样子，去背一篓试试，怎么样？”“请吧，这么说，你先试试……”说着，他们俩就大笑起来。

这两人也引起了背鱼篓的人们的注意。当他们从我们面前经过的时候，那些临时工谁都要将视线越过我的头顶，朝他们投以一瞥。

只有姐姐却不这样。

不久，这两个人回去了。我依然坐在那里，听着踏在沙滩上渐渐向远处走去的声音，然后才放心地回头看他们。这时，我想起以前唯一看到过的一次电影。我觉得，她就是我第一次看到的电影里的美丽女郎，除此之外，就再也没有看见过这样的女人。直到他们消失在拐角以后，我才恋恋不舍地回过头来。不料，正好与姐姐打了个照面。原来，姐

2. (折目のきっちりした) 直译：(裤脚管的)折缝又平又直。

3. (赤皮の靴) 棕色皮鞋。

4. (しきりなしに) 等「ひっきりなしに」。

5. (ね) 这里表示感叹。△あら、ちょっと見せて、いい柄だわね。/哟，给我看看，多好看的花样啊！

6. (一つ) 这里是“稍微”的意思。△ひとつ聞いてください。/请稍微听一听。

7. (い) 这里表示亲热的语气。△ほんとかい？/真的吗？

8. (出面) 即“出面取”。

た。姉も見ていたのだ！——私は、鱗のついたか  
すりの刺子さしこを着て、鞋わらじをはいた姉を見た。それは  
「男」のように見えた。——すると、何故か急に姉  
がイヤになった。

\* \* \*

屋ごろまで、自分は他処へ遊びに行った。帰っ  
てくると、畚背負いの人たちが皆一かたまりに坐  
って「黄粉きなたをつけた握り飯にぎめし」をたべていた。それは  
鍊にしんの「沖揚げ」にはつきものの昼飯ごるめしだった。自分も  
姉のを分けてもらった。

「あのね、矢張り学校のお友達が来てたよ……  
綺麗にしてね、恥かしかつたので、下ばかり見て  
いたら、いいあんばいに、知らないで行ってしま  
った……。」

自分は飯を頬ばりながら黙だまって聞いていた。

「こんなところなんてねえ！……」

と、黄粉きなたの握り飯にぎめしを恥かしそうにかざし  
てみせた。

「でも、仕方がないわ……。」

——そういつて、何時もの癖くせだったが、下唇したくちびる  
をかんだ。

\* \* \*

私にも仕事しごとがあった。——夕モで畚へ鍊にしんを入れ

姐也在看他们呢！我看到的是一身沾满鱼鳞的白底花纹厚衣服，脚穿草鞋的姐姐，看上去她就象个男子，不知为什么我忽然讨厌起姐姐来了。

\* \* \*

我到别处去一直玩到中午。回来时，背鱼篓的人们围成了一堆，坐在那里正在吃沾着黄豆粉的饭团，这是卸鲱鱼时附带供应的中饭。我也从姐姐那儿分一点来吃。

“哎，学校的同学毕竟来了……打扮得漂漂亮亮的。我觉得不好意思，只管低头朝下看，幸亏她没发觉就走过去了……。”

我一边吃饭，一边静静地听着。

“象这种地方啊！……”说着，姐姐害臊似地把“黄豆粉饭团”举到眼前。

“不过，没有办法啊……”她习惯地咬紧了下唇。

\* \* \*

我也有工作做了。用“小捞网”把鲱鱼装到鱼篓

- 
1. (鞋) 草鞋。
  2. (黄粉) 黄豆炒熟后磨成的粉。
  3. (来てた) “来ていた”的约音。
  4. (なんて) 接体言、活用词终止形后，表示轻视。△あんな人なんて！/象他那种人利！
  5. (かざしてみせた) 举到眼前。

るとき、サンパンから鯉いしがよく海へ落ちた。それを  
長い竹竿たけざおで拾い上げるのである。一日それをや  
っていると、二三十匹にさんじゅうびになった。

昼過ぎひるすから、又人出またごとでが多くなつた。着飾きかざつた市  
の女達おんなたちがあち、こちに立たつて見物けんぶつしていた。

「あの女おんななかなかいいぞ<sup>1</sup>。」

——会社員かいしがいんらしい二三人にさんの若い男わかおとこだった。

「ひなにもまれなる<sup>2</sup>か？」

別な方べつほうが笑わらつて

「どれだ。どれだ？」と訊たづねていた。

「あれさ。」

始めはじめのがいった——

「今来いまきた、あの三番目さんばんめ……。」

自分じぶんは何気なにげなくその方ほうを見た。——三番目さんばんめは姉あね

だった。

姉あねにもそれが分わかつていたらしかった。顔かほを赤あかく

して伏ふせていた。

「オイ、止とそう！」

一人ひとりがいった。——

「可哀相かわいそうによ……。」

「イヤ、かえつて光榮こうえいに思おもつてるさ。」

二人ふたりが先さきに歩あるき出だした。

「もう一回いつかい。」

里去的时候，鲑鱼常常要从舢板上落到海里去。我的工作就是用长竹竿把它们捞上来。一天总可以捞二、三十条。

一过中午，游人又多起来了。城里那些花枝招展的女人，东一堆西一堆地站着观看我们劳动。

“那个女的挺不错！”

这是两、三个公司职员模样的男青年。

“是‘乡村美女’吗？”

另一个笑了笑问道：“哪个？哪个？”

“就是那一个。”开头那个人说，“现在来了，那第三个……”

我无意中朝他们所指的方向看去，原来第三个人是我姐姐。

姐姐似乎也有些知道了，她羞得面红耳赤地低下了头。

“喂，算了吧！”其中一个人说。

“真可怜……”

“不，她倒以为是光荣呢！”

两个人先走开了。

“再来一次。”

---

1. (ぞ) 强调自己的判断，△あっ，少し味がおかしいぞ。  
/呀，味道有点儿不对！

2. (ひなにもまれなる) 出自熟语“ひなにはまれなる美人”，意思是：乡下竟有如此美人。

ほかのものはそういって、姉が帰りに前を通るのを待っていた。畚を背負った姉は耳まで赤くしていた。姉が通って行くと、  
「春だ。春だ。」

そんなことをいって皆のあとを追って行った。速くへ行ってから振りかえっていた。——行ってしまおうと、姉は初めて顔をあげた。そしてその方をチラッと見送った。自分はそれを見ると、子供ながら<sup>1</sup>何んとなく変な気持になった。

姉は空の畚の肩帯を片方だけ外して、列から抜けてきた。

「ももが痛くなった。——足が上らないの。少し休ましてもらおうわ。」

陸揚場は線路を越した向う側になっており、サンパンからはかなりの勾配だった。畚背負いは肩を折りまげ、一列にならんで、エッサ、エッサ<sup>2</sup>と反動をつけて、そこを上って行った。——姉は顔の汗を袖でぬぐったらしく、上気した頬に鯀のウロコが刻んだ銀紙のようにくっついていた。

「あねちゃ<sup>3</sup>、めんこい<sup>4</sup>から少し入れてけるど<sup>5</sup>。」  
タモで畚に鯀を入れる漁夫が、三杯たっぷり入

1. (ながら) 这里表示逆态连接, △まだ学生でありながら,

另一个人说着就等待姐姐回来时再经过他面前。背着鱼篓，姐姐脸一直红到耳根。当她走过他的面前之后，他就“春天到啦！春天到啦！”地说着便跟那伙人走了。走到远处，还回过头来往这儿瞧。待他们走了之后，姐姐才抬起头来，朝那儿瞅了一眼。看到这种情景，尽管我是个孩子，心里也觉得有说不出的滋味。

姐姐只解下一边的空篓背带，从队伍中跑了出来。

“我的大腿真疼……连脚也抬不起来，让我休息一会儿吧。”

卸鱼场在铁路对面。从舢板到那儿，有一个相当大的坡度。背鱼篓的人们弯着腰，排成一队，利用反作用力，“哎哟哎哟”地哼着往那儿爬上去。姐姐好象用袖管擦过脸上的汗水，只见那鲱鱼鱼鳞好比细碎的锡纸，粘在她绯红的脸颊上。

“姑娘，你真可爱，给你少装一点吧。”

用“小捞网”把鲱鱼装进鱼篓里去的渔夫，一般

---

このさまは何だ、/还是个学生，这成什么样子！

2. (エッサエッサ) 哎哟哎哟。

3. (あねちゃ) 方言，相当于“ねえちゃん”，这里指“姑娘”。

4. (めんこい) 方言，相当于“かわいらしい”。

5. (けるど) 方言，相当于“やるぞ”。

れるところ<sup>1</sup>を、若い女には軽く二杯半ぐらいにし  
た。

「ホラ<sup>2</sup>。」

と、<sup>もつと しり お た</sup>って、<sup>お</sup>の尻を押して立たしてくれた。

<sup>で めん かかあ</sup>出面の<sup>わか</sup>嬢たちはそれが分ると<sup>おこ</sup>ブンブン怒った。

「この<sup>すけべいや ろう</sup>助平野郎！」

<sup>ぎよふ</sup>漁夫はあか<sup>くろ</sup>黒い<sup>かお</sup>顔を<sup>おも</sup>思い<sup>き</sup>切り<sup>わら</sup>笑った。

「しな<sup>ばば</sup>び婆ア、何<sup>なに</sup>ば<sup>まえ</sup>いう！ お前<sup>わ</sup>だって若げえど  
きあ<sup>た</sup>ったべよ<sup>4</sup>。」

——<sup>あね</sup>姉はそんなので<sup>たす</sup>助かっていた。それでも<sup>や</sup>矢  
張<sup>は</sup>り<sup>こた</sup>堪えた。

「お前、何<sup>まえ</sup>処<sup>どこ</sup>のね<sup>にしんばき</sup>っちゃ<sup>あ</sup>だ。——<sup>あそ</sup>鯉<sup>い</sup>場<sup>あそ</sup>切り<sup>い</sup>上げ  
たら<sup>あそ</sup>遊<sup>い</sup>び<sup>い</sup>に行く<sup>い</sup>ど。」

<sup>にしん い</sup>鯉<sup>うしろ</sup>を入れながら、<sup>じようだん</sup>後<sup>あね</sup>から<sup>あね</sup>そんな<sup>あね</sup>冗談<sup>あね</sup>を<sup>あね</sup>きく<sup>あね</sup>。姉  
<sup>しか</sup>は<sup>な</sup>然<sup>おんな</sup>し<sup>おんな</sup>それ<sup>おんな</sup>に<sup>おんな</sup>何<sup>おんな</sup>ん<sup>おんな</sup>と<sup>おんな</sup>か<sup>おんな</sup>い<sup>おんな</sup>え<sup>おんな</sup>る<sup>おんな</sup>女<sup>おんな</sup>で<sup>おんな</sup>な<sup>おんな</sup>か<sup>おんな</sup>つ<sup>おんな</sup>た。

「<sup>とこ</sup>床<sup>し</sup>ば<sup>ま</sup>敷<sup>ま</sup>いて<sup>ま</sup>待<sup>ま</sup>って<sup>ま</sup>る<sup>ま</sup>よ。」

<sup>とし</sup>同<sup>おんな</sup>じ<sup>くろ</sup>年<sup>かえ</sup>の<sup>かえ</sup>女<sup>かえ</sup>で<sup>かえ</sup>そ<sup>かえ</sup>ん<sup>かえ</sup>な<sup>かえ</sup>口<sup>かえ</sup>を<sup>かえ</sup>返<sup>かえ</sup>す<sup>かえ</sup>の<sup>かえ</sup>も<sup>かえ</sup>い<sup>かえ</sup>た。

\* \* \*

<sup>わたし</sup>私<sup>ひ</sup>は<sup>ひ</sup>そ<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>日<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>う<sup>ひ</sup>と<sup>ひ</sup>う<sup>ひ</sup>喧<sup>けん</sup>嘩<sup>か</sup>を<sup>けんか</sup>し<sup>けんか</sup>て<sup>けんか</sup>し<sup>けんか</sup>ま<sup>けんか</sup>つ<sup>けんか</sup>た。

——<sup>にしんびろ</sup>「<sup>なかま</sup>鯉<sup>みな</sup>拾<sup>ひ</sup>い<sup>やとい</sup>」<sup>こども</sup>を<sup>こども</sup>し<sup>こども</sup>て<sup>こども</sup>い<sup>こども</sup>る<sup>こども</sup>仲<sup>な</sup>間<sup>ま</sup>は<sup>な</sup>皆<sup>みな</sup>「<sup>にち</sup>日<sup>り</sup>雇<sup>い</sup>」<sup>こども</sup>の<sup>こども</sup>子<sup>こども</sup>供<sup>ども</sup>  
<sup>つめ</sup>たち<sup>みず</sup>で<sup>な</sup>、<sup>はら</sup>ま<sup>き</sup>だ<sup>もの</sup>冷<sup>な</sup>たい<sup>な</sup>水<sup>な</sup>の<sup>な</sup>中<sup>な</sup>に<sup>な</sup>、<sup>はら</sup>腹<sup>な</sup>ま<sup>き</sup>で<sup>もの</sup>着<sup>な</sup>物<sup>な</sup>を<sup>な</sup>ま<sup>き</sup>く<sup>もの</sup>

1. (ところ) 場合。△一年かかるところを、半年でやってしまつた。/一般情况需要一年时间，结果仅用了半年就搞完了。

要装足三网，对年轻女子，他就浅浅地装两网半。

“嘿。”渔夫托起鱼篓的底部帮她站起来。

临时工婆娘们知道了之后，就怒气冲冲地说：

“你这个色鬼！”

渔夫听了，那片黝黑的脸笑开了。

“臭老太婆，噜嗦些什么！你不也有过年轻的时候嘛！”

姐姐就这样得到了一些帮助。但即便如此，仍然是很吃力的。

“姑娘，你住在哪里？鲑鱼场工作结束之后，我上你那儿去玩。”

渔夫一边装鱼，一边开着玩笑。然而姐姐对此却无可奈何。

“我铺好了床等你呀！”

在同样年龄的女孩子当中，也有人会用这样的口气回答。

\* \* \*

那一天，我终于跟别人打架了。

捞鲑鱼的伙伴都是“临时工”的孩子。我们把衣

---

2. (ホラ) 迅速提醒对方注意时发出的声音：“嘿！”。

3. (ば) 方言，相当于“を”。

4. (若げえどきあったべよ) 方言，相当于“若いときがあったらろう”。

5. (ねっちゃん) 方言，相当于“ねえちゃん”。

6. (冗談をきく) 开玩笑。

って入って、竹竿で海に落ちた鯨を引き寄せ  
のである。喧嘩をした相手はしかしこの仲間ではな  
かった。

もう仕事が終わるところだった。——洋装した女の  
子が、この仲間のところへ来て、言葉をかけた<sup>1</sup>。  
自分は真赤にマゴついてしまった。そんな人と話  
をしたことなど今までになかったからだ。

「それはただで貰えるの<sup>2</sup>？」

女の子はそういっている。

自分は口でどうしてもいえず、頭でうなずいて  
みせた。女の子は私の下げていた鯨を、蹲んで指  
先で触ってみた。自分は息づまるようにむずかか  
った<sup>3</sup>。

「一匹やるゲア<sup>4</sup>? ……」

思い切っていった。いってしまってから真赤に  
なった。——女の子は嬉しそうだった。が、自分  
の差出した鯨に、手を出すような、ひっ込めるよ  
うな、あやふやな恰好をした。

「馬鹿! そんなものおよし<sup>5</sup>」

その女の子の兄らしかった。——「拾いものなん  
だぜ。——汚ない!」

1. (言葉をかけた) 搭汕。

服卷到腹部，在还冰冷的海水里，用竹竿把落到海里的鲱鱼拨过来。不过，跟我打架的人不是这些伙伴。

事情发生在工作快结束的时候。一个穿着西式服装的女孩子来到我们这儿跟我搭讪。我脸涨得通红，不知所措。因为我从来没有跟这样的人说过话。

“这鱼不花钱就可以拿回去吗？”那女孩子问道。

我怎么也说不出话来，只是点头示意。那女孩子蹲下来，用手指掀我提着的鲱鱼。我紧张得连气都透不过来似的。

“给你一条吧……”

我鼓起勇气说。话一说完，就羞得面红耳赤。

女孩子似乎很高兴。但是，对于我递给她们的鲱鱼，她想伸手来拿，又不敢拿，显出犹豫不决的样子。

“傻瓜！别拿这种东西！”

瞧那模样，好象是女孩子的哥哥。

“那是捡来的，脏死了！”

---

2.〔の〕表示疑问。△お夕飯まだできてないの？/晚饭还没做好吗？

3.〔むずかかった〕从前后文看，该词应为“むずがゆかった”。

4.〔やるゲア〕方言，相当于“やろうか”。

5.〔およし〕よし：五段动词“よす”的连用形，“お+动词连用形”表示命令。

女の子の脇をひいて連れて行った。

自分は間の悪い<sup>1</sup>気持にかっとした。鯰に縄を通した鯰を差出したままの手を、どうしていいか分からなかった。——私はいきなりその男の子の後にせまっていた。それは自分でも分からなかった。男の子の横頬と肩にかけて、つぶれた鯰の白子がべったりと飛散して——手元に鯰の抜けた鯰がもんどりを打った<sup>2</sup>。

私は男の子を後から、その鯰で横なぐりに殴りつけていたのだ。私は息をけわしく吸った。

「やれ<sup>3</sup>！ やれ!!」

仲間が後から私に声をかけてくれた。——男の子はワアッと泣きだすと逃げ出した。女の子は石ころの上を走れず、手をひきずられて、——それも泣きだした。

女の子はおびやかされたように、何度も後を見た。私は女の子のおびえた、ゆがんだ泣き顔をみると、フイにハッとした。

「何をしたの？ ……馬鹿だよ、お前は！ ……」

戻ってくると、姉がそう言って頭を小突いた。が、その時の姉が妙になつかしかった。気がゆるむと、涙がせり上ってきた。

自分は甘えるように、姉に身体をもたせながら、

他曳起女孩子的胳膊就走。

我一时感到难堪，火冒三丈，那只将绳子串着的鲑鱼递过去的手，一时不知如何是好。连自己也不知为什么，我突然追到那男孩后边，用那条鲑鱼，从后面横打过去，打得那男孩从脸颊直到肩膀满是碎鱼白，我手里拎着的那条鲑鱼也打了个转，自己则气势汹汹地喘着粗气。

“打！打！”伙伴们从后边给我鼓气。

男孩哇哇地哭着逃走了。女孩子在石子路上跑不快，被她哥哥牵着跑。她也哭起来了。

女孩子象受到什么威胁似地频频往回看，我一看到她那张惊骇而哭歪了的脸，猛地清醒过来。

“干了些什么啦？……你呀，真是……”

我一回来，姐姐插了我的脑袋这么说。可这时，我对姐姐感到格外亲切。待我平静下来，就眼泪盈眶了。

我撒骄似地偎依在姐姐身边，用姐姐满是鱼鳞

---

1. (問の悪い) 难堪；不好意思。

2. (もんどりを打った) 断了个筋斗。

3. (やれ) 五段动词“やる”的命令形，这里是“打”的意思。

うろこ たくさん なまぐさ かわ まえか け  
鱗の沢山ついた生臭い姉の前掛けで眼をこすった

……。

\* \* \*

し こと おわ  
仕事が終わってからも、姉はみんなに顔をみられ  
るのがはず恥かしいとって、暗くらくならないかえうちは帰  
らなかった。

けんぶつにん たくさん A しや すこ Oは  
見物人を沢山のせた汽車は、少し上りになって  
いるので、パッシュパッシュと音をさして、岬の  
かげを廻まわって行いった。向う岬をまわる時に、もう  
いちど その明あかるい窓まどをもった列車れつしやのくねりが見え  
た。——沖おきに出ている船ふねには火ひがともった。それ  
が暗くらい海面かいめんに映はえて、長ながく尾おをひいた。線路せんろは海  
岸がんから高たかくコンクリートで築きずき上あげられていた。  
それで沖おきに出ている船ふねでしている話声はなしごえの切れ切れ  
や<sup>1</sup>、水みずを掻かく音おとが直すぐ間近まぢかに聞きえた。コンクリー  
トの裾すそを波なみがヒタ、ヒタと洗あっていた。——春はるさ  
きの冷つめたい夜風よかぜが吹ふいていた。

じ ぶん つか  
自分は疲れた、ねむい身体を姉に半ばもたれさ  
せて、線路道せんろみちを帰かえった。私わたしは不機嫌ふきげんにだまってい  
た。——沖おきの暗くらい空そらでごめ<sup>2</sup>がフイに赤子あかこの声こえを  
出だした。それがもの淋さびしかった。

と ちゆう きよじよう おとこ やみ  
途中で漁場りやうじやうの男おとこたちとすれちがった。闇やみをすか  
して、

的腥臭的围裙擦眼泪……

即使一天劳动结束以后，姐姐还是认为让人家看见是丢脸的，因此不到天黑，就不肯回家。

满载着游客的火车，正在上小坡，所以发出“呼哧呼哧”的声音，绕海角的阴影面驶去。当它绕过最远处的海角的时候，可以再一次看到那一长列窗子明净的列车。出海的船上点着灯火，灯光映照在漆黑的海面上，拖着长长的尾巴。铁路高于海岸，是用混凝土筑成的。因此，出海船上时断时续的讲话声和划水声，听来仿佛就在眼前。海浪啪哒啪哒地冲刷着混凝土的底脚，空中劲吹着春寒料峭的夜风。

我把疲劳、困倦的身体半靠着姐姐，沿铁路线回去。我一言不发，情绪很坏。海鸥在黑魃魃的海洋上空突然发出婴孩般的啼叫声，更使人感到寂寞。

归途中，遇上迎面而来的渔场的渔民们。“哟，美人儿！”他们从黑暗中往往用这类话搭讪着擦

---

1.〔や〕 这里表示列举。△海や山は人で埋まっているよ。  
/海上、山上尽是游人。

2.〔ごめ〕 从前后文看，该词应为“かもめ”。

「よオッ、別嬪さん！」

と、言葉をかけて行った。

姉はその度に私の手を握った。……姉も疲れていた。が、思い出したように、時々市の綺麗な女のことをいった。が、自分たちにもいい時がくる。だまって一生懸命働いていればいいんだ。そんなことをいった。——姉は何時でもそう考えていたのだ。それがあったから、姉はムキになって働いていたらしかった。

姉は終いに黙り込んでしまった。——すると、枕木の上を歩いている歩調の合った二人の足音だけが耳につき出した。が、私は時々枕木につまずいて、身体をのめらした。ねむっていたのだ。その度に姉の身体で引きずられた。

熊碓村と小樽とを区切っている岬をまわると冷たい風が急に真正面から吹きつけた。が、すぐ眼下の下一帯に、小樽の電燈がキラキラと見えた。

——私はホッとした。何かしら嬉しかった。

「姉ちゃ、綺麗だ！……」

思わずそういった。

が、姉はただ頭をあげたようだった。——何んだか泣いているように私には思われてならなかった<sup>1</sup>……。

肩而过。

每逢这种时候，姐姐总是紧握着我的手。……姐姐也累了。但她好象回想起来似地，不时谈起市区里的漂亮女人。还这样说：“不过，我们的好日子也会来的，只要一声不响地埋头苦干就行了。”姐姐一直是这么想的。大概是因为有了这个想法，姐姐才拼命干活的。

姐姐到后来沉默不语了。于是，耳朵里只听得两个人走在枕木上步调一致的脚步声。我时常被枕木绊得身体差点儿往前扑倒。原来，我睡着了。每当这种时刻，我总是被姐姐拖曳着回去。

一绕过熊碓村和小樽交界处的海角，寒风骤然迎面吹来。但是已能看见小樽的灯火在眼下闪烁。我松了口气，不知为什么，心里有说不出的高兴。

“姐姐，真好看！……”

我情不自禁地说。

可是，姐姐似乎只是抬了抬头。不知怎么的，我总觉得她好象在哭。

---

1. (思われてならなかった) 非常想念；总觉得。△彼が思われてならない。/很想念他。△彼がまだ生きているように思われてならない。/我总觉得他还活着。

\* \* \*

（「これだけの事なんだ。」——田口が終りにそういった。——「しかしおかしいもんだ、この日の事だけが妙にひっかかっているんだ。」

田口の口のあたりがゆがんだ。

「せめて淡雪とは？」

私がそれを聞くと

「分らない。——キットそのころでも流行っていたのが、こう……何んか……。」

——この日私は田口とは随分「久し振り」で会ったのだ。田口は「四・一六事件<sup>1</sup>」で、四カ月「別荘<sup>2</sup>」にいた。そして懲役二カ年、五カ年の執行猶予の肩書きをもって出てきた。身体工合が悪いので、私のところにしばらくいることにしている。

田口の姉さんは随分苦しんで女学校を出ると、富良野の小学校へ赴任して行った。そこから月結の殆んどを家へ送ってきた。そういうことが如何にも「姉らしい<sup>3</sup>」と田口はいつている。弟おもい<sup>4</sup>の姉さんだった。小学校に通っていたころ、吹雪の朝などは、姉さんが何時でも先に立って、風をさけてやり、雪道を作ってやりながら登校した。

——そのことは田口もよくいつていた。

姉さんからの仕送りで、田口は中学校を出、医

\* \* \*

“就是这么点儿事情。”——末了，田口这样说。  
“可是，怪得很，这一天的事，却一直萦绕在我的心头。”田口咧了咧嘴说。

“那跟‘至少在浅雪融化之前’有什么关系呢？”  
经我一问，他就说：“不清楚。——一定是当时流行的歌曲吧。可这个……怎么说呢……”

这一天，我跟田口真可说是“久别重逢”。田口因“四·一六事件”，在“别墅”里呆了四个月。后来带了徒刑两年，缓刑五年的“头衔”出来了。由于身体不好，他准备在我这儿呆一段时间。

田口的姐姐历尽艰辛，从女子中学毕业后，就到富良野的小学校去工作。她从那儿把绝大部分的工资寄回家里。田口说她姐姐做事就是这样。田口还经常讲起她这位姐姐很关心弟弟。他上小学的时候，碰到风雪天的早晨，姐姐总是站在前头，给弟弟挡风，踏出一条雪路送弟弟上学。

田口是靠姐姐资助的钱才从中学毕业，进入医

1. (四·一六事件) 指一九二九年四月十六日，日本全国规模的逮捕日本共产党人事件。

2. (别墅) 别墅，这里暗喻监狱。

3. (らしい) 表示同某一事物所具有的属性相称。△それでこそ、あなたらしいわ。/这样才象你。△スポーツマンらしい、さっぱりしているところが気に入ったわ。/我喜欢他那种运动员所特有的豪爽性格。

4. (弟おもい) 关心弟弟。

がくせんもんがっこう はい 学専門学校に入れたのである。勿論今では田口は  
い がく 医学をそっちのけにしてしまっている。——然し  
びんぼう なか 貧乏の中ばかりで育ってきた姉さんの考えでは、  
い しや いちばん かね お医者さんが一番「お金になる」からというので田  
ぐち がっこう い 口をその学校に入れたのだった。

この可哀相な姉さんに、そこである恋愛問題が  
おこ 起った。が極めてそれが不幸に終った。相手は大  
がく で し ねし むすこ 学を出た地主の息子だったそうである。——それ  
すこ き へん から少し気が変になった<sup>1</sup>というような話を、私は  
どこ へん 何処からか聞いていた。そしてその翌年かにあの  
ぶ き み そらち がわ ん 無気味な空知川に身を投げた。死体はとうとう上  
らなかつた。

田口と私とは随分親しくしている。が、姉さん  
た ぐち わたし ずいぶんした の死のことについては、ちっとも話さないの  
し はな である。今日のような話はまったくめずらしいこと  
きよう はなし である。——何処か姉さんという人は淋しいところ  
どこ わえ びと きび のある人らしい。が、そういうわけで、詳しいこ  
ひと くわ とは少しも知らない。自分も彼の気持を考え、訊  
すて し じぶん かれ きもち かんが たず ねないことにしている。

しか 然し、もうじき練のとれる春だ。——田口は姉  
にしん ほる た ぐち わえ さんのことを想っているのではないだろうか<sup>2</sup>。)

1. (気が変になった) 変成精神病。

科专门学校的。当然，现在田口已把医学丢在一边了。但是按照在贫困中长大的姐姐的想法，医生挣钱最多，因此才把田口送到那个学校里去的。

这位可怜的姐姐在那儿谈起恋爱来了，可是结局极为不幸。听说对方是大学毕业生、地主的儿子。后来，我不知从哪里听说她的神经有点不正常了。而且就在那第二年吧，她就投身到可怕的空知河里去了。尸体始终没有打捞上来。

田口与我十分亲近，可是关于他姐姐的死，他却闭口不谈。象今天这样的谈话，简直是绝无仅有的。田口的姐姐这样的人，总觉得是个孤独的人。不过，由于上述原因，详细情况我却一点也不知道。考虑到他的心情，我就不打算问他了。

然而，马上又是捕鲱鱼的春天了。莫非田口又在怀念他的姐姐了呢？)

---

2. (ではないだろうか) 表示虽不肯定，但有较强的倾向性。  
△彼ではないだろうか。/莫非是他？

## ちち かえ 父 帰 る

おつと とよた ま けいむ しよ はい しちほつ げつ  
夫が豊多摩<sup>1</sup>刑務所に入ってから、七八カ月ほど  
して赤ん坊<sup>あか ぼう うま</sup>が生まれた。それでお産の間だけお君<sup>きみ</sup>は  
メリヤス工場<sup>こうじよう やす</sup>を休まなければならなかった。工場  
では刑務所<sup>けいむ しよ はい</sup>に入っていた男の女房<sup>おとこ にようぼう いちぢち はや</sup>を一日も早く  
首<sup>くび</sup>にしたかった<sup>2</sup>ので、それがこの上もなくいい機  
会<sup>かい</sup>だった。——それでお君は首<sup>くび</sup>になって<sup>3</sup>しまっ  
た。

お君<sup>きみ</sup>は監獄<sup>かんごく</sup>の中<sup>なか</sup>にいる夫<sup>おつと</sup>に、赤ん坊<sup>あか ぼう</sup>を見せてや  
るために、久し振り<sup>ひさ ぶ</sup>で面会<sup>めんかい</sup>に出掛<sup>でか</sup>けて行<sup>い</sup>った。夫  
は顔<sup>かお</sup>は少し白<sup>しろ</sup>くなっていたが大変元氣<sup>たいへんげんき</sup>だった。お  
君<sup>きみ</sup>の首<sup>くび</sup>になったのを聞<sup>き</sup>くと、編笠<sup>あみがさ</sup>をテーブル<sup>た</sup>に叩  
きつけて怒<sup>おこ</sup>った。それでも胸<sup>むね</sup>につけてある番号<sup>ばんごう</sup>の  
きれをいじりながら、自分<sup>じぶん</sup>の子供<sup>こども</sup>を眼<sup>め</sup>を細<sup>ほそ</sup>くして<sup>4</sup>  
見<sup>み</sup>ていた。そして半分<sup>はんぶん</sup>テレながら、赤ん坊<sup>あか ぼう</sup>の頬<sup>ほ</sup>べ  
たを突<sup>つ</sup>ついたりして、大き<sup>おほ</sup>きな声<sup>こゑ</sup>を出<sup>だ</sup>して笑<sup>わら</sup>った。  
帰<sup>かえ</sup>り際<sup>ぎわ</sup>に、

「これで俺<sup>われ</sup>も安心<sup>あんしん</sup>した。俺<sup>われ</sup>の後<sup>あと</sup>取り<sup>と</sup>が出来<sup>でき</sup>たのだ

1. (豊多摩) 東京一地名。

## 爸爸要回来啦

丈夫被关进丰多摩监狱，大约过了七、八个月的光景，阿君生了一个孩子。生产期间，她不得不向针织厂告假。厂方早就存心想把这个丈夫被关进监狱的女工快点开除，现在抓着这个再好不过的机会，就把阿君开除了。

为了把孩子送给狱中的丈夫瞧瞧，阿君就到好久没有去过的监狱里去探望他。丈夫的脸色多少变白了些，可精神倒非常好。他听到阿君被开除了，气得把斗笠往桌上猛击了一下，但是，他还是一边用手抚弄着胸前佩带的号布，一边眯缝着眼睛瞧着自己的孩子，还怪不好意思地用手指捅捅孩子的脸蛋，放声大笑了一通。

临分手的时候，他说：

“这一来我也就放心了。总算有了后代，我也就

---

2.〔首にしたかった〕想解雇。

3.〔首になって〕被解雇；失业。

4.〔眼を細くして〕眯缝着眼睛(表示心情愉快)。

5.〔際〕时候。表示一个动作即将发生。

から、卑怯な真似まで<sup>い きより まね</sup>して此処を出たいなど考<sup>かんが</sup>えなくてもよくなったからなア！」

と云<sup>い</sup>った。それから間<sup>ま</sup>をおいて何<sup>なにげ</sup>気ないふうにな<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>、

「——そうすればお前<sup>まえ</sup>の役目<sup>やくめ</sup>も大<sup>おお</sup>きくなるワケだ……」

と云<sup>い</sup>った。

お君<sup>きみ</sup>は涙<sup>なみだ</sup>が一杯<sup>いつぱい</sup>に溢<sup>あふ</sup>れてくるのを感じながら、ジッところえてうなずいて見<sup>み</sup>せた。——赤<sup>あか</sup>ん坊<sup>ぼう</sup>は何<sup>なに</sup>も知<sup>し</sup>らずに、くびれた手<sup>て</sup>足<sup>あし</sup>をバタバタさせながら、あーあ、あーあ、あ、……と声<sup>こゑ</sup>を立てて<sup>た</sup>いた。

「うまい乳<sup>ちち</sup>を一杯<sup>いつぱい</sup>のませ<sup>ま</sup>せて、ウンと丈<sup>じょうよ</sup>夫<sup>そだ</sup>に育<sup>そだ</sup>ててくれ！ ……、首<sup>くび</sup>を切<sup>き</sup>られたんじゃ<sup>ちち</sup>うまい乳<sup>ちち</sup>も出<sup>で</sup>ないか。」

お君<sup>きみ</sup>は刑<sup>けいむ</sup>務<sup>む</sup>所<sup>しょ</sup>からの帰<sup>かえ</sup>りに、何<sup>なんど</sup>度<sup>なんど</sup>も何<sup>かんが</sup>度<sup>かんが</sup>も考<sup>かんが</sup>えた——うまい乳<sup>ちち</sup>が出<sup>で</sup>なかつたら、よろしい！ 彼<sup>あいつ</sup>奴<sup>やつ</sup>らに対<sup>たい</sup>する「憎<sup>ぞうお</sup>悪<sup>あく</sup>」でこの赤<sup>あか</sup>ん坊<sup>ぼう</sup>を育<sup>そだ</sup>て上<sup>あ</sup>げてやるんだ、と。

お君<sup>きみ</sup>が首<sup>くび</sup>にな<sup>な</sup>ったとい<sup>い</sup>うので、メ<sup>こうじよう</sup>リヤス工<sup>こうじよう</sup>場<sup>じやう</sup>の若<sup>わか</sup>い職<sup>しよつこう</sup>工<sup>こう</sup>た<sup>た</sup>ちは寄<sup>より</sup>々<sup>より</sup>協<sup>きやうぎ</sup>議<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>いた。お君<sup>きみ</sup>の夫<sup>おつと</sup>が<sup>が</sup>この工<sup>こうじよう</sup>場<sup>じやう</sup>から抜<sup>ぬ</sup>か<sup>か</sup>れて行<sup>い</sup>って<sup>て</sup>から、工<sup>こうじようしゆ</sup>場<sup>じやう</sup>主<sup>しゆ</sup>は恐<sup>こわ</sup>いもの<sup>もの</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>な<sup>な</sup>ったので、勝<sup>かつて</sup>手<sup>て</sup>な<sup>な</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>を職<sup>しよつこう</sup>工<sup>こう</sup>達<sup>だ</sup>

不必考虑用卑鄙的手段从这儿出去之类的事情啦！”

说完了，过了一会儿，他又不经意似地笑着说：“可是这么一来，你的担子就很重罗……”

阿君感到热泪满眶盈盈欲滴，她拼命忍住眼泪，点了点头。孩子什么也不懂，只管舒展着胖乎乎的手臂腿儿，连伸带踢，发出“啊——啊、啊——啊，啊……”的声音。

“用香甜的奶汁把他喂得饱饱的，养得壮壮实实的！……可是被工厂开除了，不就出不了香甜的奶汁了嘛！”

从监狱回来的途中，阿君反复思忖着：“要是出不了香甜的奶汁，那么好吧，那就用对这帮家伙的憎恨，来把这个孩子养大！”

听到阿君被开除，针织厂的青年工人们经常碰头商量对策。自从阿君的丈夫从这个工厂被抓走以后，工厂老板就谁也不怕了。他企图随心所欲地把

---

1.〔まで〕接体言、活用词连体形后、或位于句节末、这里表示举一极端事项暗示其他。△そんなことをすると、子供にまで笑われますよ。/干这种事情，连小孩都会笑你的。

2.〔くびれた手足〕胖乎乎的手脚。

3.〔声を立てて〕叫出声音。

4.〔んじゃ〕同“のでは”。

に押しつけようとしていた。首切り、それはもはやお君一人のことではなかった。——お君は面会に行った婦りに、皆の集まっている所へ行って、夫に会って来たことを話した。

赤ん坊の顔を見て、「後取りが出来た。これで俺も安心だ」と云った所に話がゆくと、皆は息をのんだ。誰かがソッと側の方を向いて、鼻をかんだ。ある者は何か云おうとしたが、唇がふるえて云えなかった。皆は一言も云わなかった。——然し皆の胸の中には、固い固い決意が結ばれて行った。

\* \* \*

メリヤス工場では又々首切りがあるらしかった。何処を見ても、仕事がなく、食えない人がウヨウヨしていた。お君はストライキの準備を進めながら、暇を見ては仕事を探して歩いた。この頃では赤ん坊の腹が不気味にふくれて、手と足と顎が細ってゆき、泣いてばかりいた。——お君は気が気でなかった。——何事であろうと、赤子を死なしてはならないと思った。

資本家は不景気の責任を労働者に転嫁して、首切りをやる。それを安全にやるために、われわれの前衛を\*\*\*\*\*。——今になって見ると、お君にはこのことがよく分った。メ

一些措施强加到工人头上。开除工人，已不仅是对阿君一个人的事了。阿君从监狱回来，到大伙儿集合的地方，把和丈夫见面的情况讲给大伙儿听了。

当她讲到丈夫看着孩子的脸，说“总算有了后代，这一来我也就放心了”那句话的时候，大家都屏住了气息。有的悄悄地侧过脸去，擤着鼻涕。有一个想说点什么，可是嘴唇颤抖得说不出话来。大伙儿谁也没说什么，可是都坚定地下了决心。

\* \* \*

看样子针织厂又要裁人了。到处都徘徊着没有工作、没有饭吃的人们。阿君一边进行罢工的准备，一边抽空出去找工作。近来，孩子的肚子肿胀得叫人瞧着难受，手脚和下巴都越来越瘦削，成天价哭，弄得阿君心神不宁。——她想，不管怎样，也要把孩子的生命保住。

资本家为把市场萧条所引起的损失，转嫁在工人头上，就裁减人员。为了顺利地采取这项措施，他们就\* \* \* \* \*我们的先锋队。——这个道理，现在看来阿君完全明白了。针织厂搞的也是

---

1. (暇を見ては) 一有空(就); 抽空。

リヤス工場とうじょうでもその手てをやっていたのだ。今夫いまおつとが  
帰かえって来きてくれたら!

職業しよくぎ紹介所しょうかいじよの帰かえりだった。お君きみはフト電柱でんちゆうに  
「共産党きやうさんとうの公判こうはんが始はじまるぞ。ストライキとデモで我われ  
等らの前衛ぜんえいを奪だつカンセよ!」と書かかれているピラを見み  
た。ストライキとデモで……お君きみは口くちの中なかでくり  
かえして見みた……我等われらの前衛ぜんえいを奪だつカンセよ——日  
本中ほんじゆうの工場かうじょうがみんなその為ためにストライキを起おこした  
ら、そうだ、その通とおりだと思おもった。お君きみは不意ふいに  
走はしり出だした。何なにかジッとしていられない気持きもちにな  
ったのだ。皆みなの所ところへ行いかなければならぬと思おもっ  
た。

「さ、坊ぼうや、お父とうちゃんかが帰かえってくるんだよ、お  
父おとちゃんが!

お君きみは背せ中なかの子供こどもをゆすり上げ上げ、炎天えんてんの下した  
を走はしった。

这一手。要是丈夫现在能回来就好了！

从职业介绍所回来的时候，阿君无意中看到了电线杆上的传单，上面写着：“公审共产党即将开始。用罢工和示威的手段来夺回咱们的先锋吧！”“用罢工和示威……”阿君嘴里念叨着“夺回咱们的先锋……”于是她想：“全日本的工厂要是都为此而举行罢工……对！完全正确！”她突然撒腿跑开了，一种迫不及待的心情支配着她。她觉得必须去告诉大伙儿！

“喂，小宝贝，爸爸就要回来啦！爸爸……！”

阿君摇晃着背上背着的孩子，在盛暑的烈日底下迅跑。

## テガミ

此<sup>こ</sup>処<sup>こ</sup>を<sup>で</sup>出<sup>い</sup>入<sup>い</sup>り<sup>す</sup>る<sup>も</sup>の、<sup>かなら</sup>必<sup>かなら</sup>ず<sup>こ</sup>の<sup>て</sup>手<sup>が</sup>紙<sup>み</sup>を<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>む<sup>べ</sup>し<sup>べ</sup>し。

君<sup>きみ</sup>チャンノオ父<sup>と</sup>ッチャ<sup>ハ</sup>、\*\*デヤスリヲトイ  
デイルウチニ、グルグルマワッテ居<sup>い</sup>ルト石<sup>いし</sup>ガカケ  
テトンデキテ、ソレガムネニアタッテ、タオレテ  
家<sup>うち</sup>ヘハコバレテキタノ。オイシ<sup>こお</sup>ハ氷<sup>こお</sup>デヒヤセト  
云<sup>い</sup>ウケレドモ、氷<sup>こお</sup>ガカエナイノ。オ母<sup>か</sup>ッチャハワ  
ザワザ<sup>さんちよう</sup>三<sup>さん</sup>町<sup>ちよう</sup>モアルイドニ、四<sup>よん</sup>ドモ五<sup>ご</sup>ドモ水<sup>みず</sup>ヲク  
ム<sup>みず</sup>ニユクノ。ソノイドノ水<sup>みず</sup>ガイチバンツメタイ  
ノ。君<sup>きみ</sup>チャンノオ母<sup>か</sup>ッチャハ、ナンデ今<sup>いま</sup>フユデナ  
イカト云<sup>い</sup>ッテ、泣<sup>な</sup>イテバカリ居<sup>い</sup>タノ。

オ父<sup>と</sup>ッチャモ泣<sup>な</sup>イテルノ。ムネイタイノ、ト君<sup>きみ</sup>  
チャンガキクト、イヤト頭<sup>わたくし</sup>ヲフルノ。アトニナッ  
テ、又<sup>また</sup>ムネイタイノ、トキクト、ダマッテ目<sup>め</sup>ヲツ  
ブッテ、ソレカラムネナンテ何<sup>な</sup>ンデモナイ、ト云<sup>い</sup>  
ッテ、君<sup>きみ</sup>チャンノカオヲ見<sup>み</sup>、何<sup>な</sup>ンペンモソツトナ  
ミダヲフイテルノ。

オ母<sup>か</sup>ッチャモヤセテ、目<sup>め</sup>ガヒッコンデ、カミノ

## 信

出入此地者，此信务必一谈。

小君的爸爸用\*\*磨锉刀的时候，转得飞快的砂轮飞出了一块，打在他的胸口上，把他打倒了，于是被工人们抬回家来。医生说伤口要用冰冰着。可是他们家买不起冰，小君的妈妈就一次又一次地到一里开外的井边去打水。那口井里的水是最清凉的。小君的妈妈一个劲地哭，还抱怨说，为什么现在不是冬天呢？

爸爸也哭了。小君问他：“是不是胸口痛？”他摇头说：“不是。”过了一会儿，她又问：“是不是胸口痛？”他不作声，闭上了眼睛；然后他说：“胸口算不了什么。”一边瞧着小君的脸，一次又一次偷偷地擦眼泪。

妈妈也瘦了，眼睛注了进去，还直掉头发。大

---

1.〔ベシ〕表示命令。△明朝八時，全員集合すべし。/明晨八时，全体集合。

2.〔オ父ッチャ〕等于“お父ちゃん”。

3.〔町〕距离单位，一町：约合一百〇九公尺。

4.〔クム〕从前后文看，该词应为“クミ”。

ケガヌケタノ。ミンナハラガヘッタノ。ウチノナ  
カガジトジトシテ、アルクト足<sup>あし</sup>ガタタミニネバル。  
工場<sup>こうじょう</sup>ノ人<sup>ひと</sup>ガクルト、クサイクサイト<sup>い</sup>云ウノ。ソレ  
モハジメノウチデ、工場<sup>こうじょう</sup>ノ人<sup>ひと</sup>モダンドンコナクナ  
ッテ、死<sup>し</sup>ンダトキニハ、ミンナハモウ君<sup>きみ</sup>チャンノ  
オ父<sup>と</sup>ッチャノコトヲワスレテシマッテイタノ。オ  
父<sup>と</sup>ッチャハ半<sup>はん</sup>トシモネテ、ウチノ中<sup>なか</sup>ニ何<sup>な</sup>ンニモナ  
クナッタトキニ死<sup>し</sup>ンダノ。

トコロガ、オ母<sup>か</sup>ッチャハソノツギノ日<sup>ひ</sup>カラネテ  
シマッタノ。死<sup>し</sup>ンダオ父<sup>と</sup>ッチャヨリモヤセテ、カ  
ミノケガヌケテ、ネテシマッタノ。工場<sup>こうじょう</sup>カラスコ  
シオ金<sup>かね</sup>ガキタケレドモ、足<sup>あし</sup>リナイノ。ソレデ、フ  
ルイ、マガッタ大<sup>おほ</sup>キナ家<sup>いえ</sup>ノ三<sup>さん</sup>ガイノ一<sup>いち</sup>バン上<sup>うへ</sup>ノ小<sup>ち</sup>  
ッチャイ<sup>い</sup>トコロヘ、ウツッタノ。ソコヘ上<sup>あが</sup>ルノ  
ニ、トチュウデ何<sup>な</sup>ンベンモヤスンデ、イキヨ入<sup>い</sup>レ<sup>れ</sup>  
ナケレバナラナイノ。ソノウチニハ何<sup>なんじゅうにん</sup>十<sup>じゅう</sup>人<sup>にん</sup>トイウ  
人<sup>ひと</sup>ガ、ゴジャゴジャ<sup>す</sup>住<sup>す</sup>ンデイテ、ヤカマシイノ。  
ヨナカニケンカガオコルト、ウチガユキユキトユ  
レルノ。

君<sup>きみ</sup>チャンノオ母<sup>か</sup>ッチャハネタキリ<sup>め</sup>デ、目<sup>め</sup>ア<sup>あ</sup>ナガ  
ウトヒッコンデ、ダマッテミテイルト、イキヨ  
スルタビニウゴイテイタフトンガ、ダンドン分<sup>わか</sup>ラ

家都饿啦。整个房子里都泛着潮气，一走动，脚底就跟铺席粘在一起。厂里的人到家来，都说“臭死啦，臭死啦”的；那也是开头的那几天，后来，厂里的人就逐渐不来了。小君爸爸临死的时候，大伙儿都把他忘得一干二净了。她爸爸躺了半年，临到家里已一无所有的时候，他也就死了。

可是，妈妈打第二天起也躺倒了。她比死去的小君爸爸还要瘦，头发也掉了，起不了床。工厂虽然给了一点钱，可是不够呀。因此，她们就搬到东歪西倒、又大又旧的房子的三楼尽上边的小屋里去住了。上一次楼，得在半途中歇上几次，喘喘气儿。那幢房子里乱哄哄住满了好几十口子，闹得厉害。有时候半夜里打起架来，房子就左右摇晃。

小君妈妈卧床不起，眼窝深陷；她的被子随着她的呼吸而起伏，可是看着看着，这种起伏也越来

1. (小っちゃイ) 等于“小さい”。
2. (イキラ入レ) 喘口气；歇口气。
3. (ゴジャゴジャ) 形容非常拥挤的样子。
4. (キリ) 接体言、活用词连体形后，表示限定，△相手を見詰めたきり動かない。/直映着对方(不动)。

ナイグライニナッテキタノ。アル日、オ母<sup>か</sup>ッチャ  
ガ、君<sup>きみ</sup>チャンニ、マイバン<sup>め</sup>目ヨサマシタラ、オ母<sup>か</sup>  
ッチャヨユリオコシテミテクレ、イツソノママ<sup>し</sup>死  
ンデルカ<sup>わか</sup>分ラナイカラ、ト云<sup>い</sup>ッタ。ソレカラ、君<sup>きみ</sup>  
チャンハヨナカニ<sup>め</sup>目ヨサマスト、ブルブルフルエ  
ナガラ、何<sup>な</sup>ンダカオ<sup>か</sup>ッカナクテ、オ母<sup>か</sup>ッチャトコ  
エモ<sup>だ</sup>出セズニ、ソート<sup>て</sup>手<sup>て</sup>ダケヨノバシテヤッテ、  
ユスルノ。クラヤミノナカデ、オ母<sup>か</sup>ッチャノコエ  
ガスルト、ヤットアンシンスルノ。シンデナカッ  
タ。君<sup>きみ</sup>チャンハホ<sup>ほ</sup>ッ<sup>ほ</sup>ッ<sup>ほ</sup>シテ、ネガエリヨウッテ、  
足<sup>あし</sup>ヨチヂメテ、ネルノ。ソレガマイ日<sup>にち</sup>ナノ。

トコロガ、君<sup>きみ</sup>チャンノオ母<sup>か</sup>ッチャハ、ナカナカ  
スグニヘン<sup>へん</sup>ジ<sup>じ</sup>ヨシナクナッタノ。マイバンユリオ  
コシテイルウチニ、君<sup>きみ</sup>チャンニハオ母<sup>か</sup>ッチャノカ  
ラダガダンダンホ<sup>ほ</sup>ネ<sup>ね</sup>バ<sup>ば</sup>ッ<sup>ば</sup>ッ<sup>ば</sup>テユクノガ<sup>わか</sup>分ルノ。ヨウ  
ヤク<sup>め</sup>目ヨサマスト、オ母<sup>か</sup>ッチャハ、ア<sup>あ</sup>ーア<sup>あ</sup>ーモウ  
長<sup>なが</sup>クナイヨ、ト云<sup>い</sup>ウノ。

アルバン、君<sup>きみ</sup>チャンガ何<sup>なに</sup>カニピ<sup>ひ</sup>ック<sup>く</sup>リサレタ<sup>た</sup>  
ヨウニ、フト<sup>め</sup>目ヨサマシタノ。イソイデ、オ母<sup>か</sup>ッ  
チャノ方<sup>ほう</sup>ニ手<sup>て</sup>ヨノバシテヤッテ、ヨナカニコエヨ  
出<sup>だ</sup>スノガオ<sup>か</sup>ッカ<sup>か</sup>ナイノデ、ハジメダマ<sup>ま</sup>ッ<sup>ま</sup>ッ<sup>ま</sup>テユスッ  
テイタガ、オ母<sup>か</sup>ッチャハナカナカ<sup>め</sup>目ヨサマサナイ  
ノ。ソレデモ、シバラクダマ<sup>ま</sup>ッ<sup>ま</sup>タママ、少<sup>すこ</sup>シズツ

越小了。有一天，妈妈对小君说，每天夜里要是醒了，就把妈妈推醒，因为，说不定妈妈睡着睡着就死了。从那以后，小君只要半夜一醒，就悄悄把手伸过去，推推妈妈；她浑身哆嗦，害怕得要命。等妈妈在黑暗里出了声，她这才放了心，知道没有死。于是小君就放心地翻个身，蹙着腿睡了。每天都是这样。

可是，一天天下去，小君的妈妈不那么马上就回答了；每夜每夜把妈妈摇醒来，小君觉得出妈妈的身子越来越瘦得皮包骨头了。好不容易把她摇醒，她长长地叹口气说，妈妈活不了几天了。

有一天夜里，小君不知为什么突然惊醒，她急忙把手伸到妈妈那边去，夜里不敢发出声音来，所以只是用手摇晃着妈妈；可是妈妈怎么也不醒过来。小君还是默不作声地用力摇了一会儿，越摇越厉害。

---

1. (ソート) 等于“そっと”。

2. (ビックリサレタ) 从前后文看，该词应为“ビックリサセラレタ”。

大<sup>おほ</sup>キクユスッテイタノ。君<sup>きみ</sup>チャンハ、シマイニオ  
母<sup>か</sup>ッチャ、オ母<sup>か</sup>ッチャトコエヲ出<sup>だ</sup>シテヨンダノ。  
コエダケガヨナカニヒビイテ、オ母<sup>か</sup>ッチャハウゴ  
カナイ。

君<sup>きみ</sup>チャンハ急<sup>きゆう</sup>ニ、キヤッ<sup>1</sup>トサケンデ、ハネオキ  
ルト、ソトヘトピ出<sup>だ</sup>シタ。ソシテ、ソノママ足<sup>あし</sup>ヲ  
フミハズシテ、ヒドイ音<sup>ね</sup>ヲタテナガラ、マヨナカ  
ノ高<sup>たか</sup>イカイダンヲコロゲオチテシマッタ。君<sup>きみ</sup>チャ  
ンノオ母<sup>か</sup>ッチャハ死<sup>し</sup>ンデイタノ。

ソレデ君<sup>きみ</sup>チャンヤ弟<sup>おとうといもうと</sup>ヤ妹<sup>いもうと</sup>バカリノコサレテシマ  
ッタ。ソレニ、カイダンヲオチテ、ウチドコロガ  
ワルクテ、君<sup>きみ</sup>チャンガネコンデシマッタノ。ソウ  
シキハソコノウチノ人<sup>ひと</sup>ガタクサンアツマッテ、ド  
ウニカヤッテクレルコトニナッタノ。ソコノウチ  
ノ人<sup>ひと</sup>ハドレモミンナピンボウナ人<sup>ひと</sup>バカリナノデ、  
ピンボウナモノハミンナヨリアツマラナケレバ、  
カワイソウナモノダ、ト云<sup>い</sup>ッテイタノ。

トコロガ、オツウヤ<sup>2</sup>ノバンニ、キテイタ人<sup>ひと</sup>ガオ  
ソクナッテカラ目<sup>め</sup>ヲサマシテミルト、ホトケサマ  
ノ前<sup>まえ</sup>ニソナエテイタモノガ、ドレモコレモ<sup>3</sup>一ツノ  
コラズナクナッテイタコトガ分<sup>わか</sup>リ、大<sup>おほ</sup>サワギニナ  
ッタノ。ネコヤネズミノシワザデハナイ。ドウシ  
タンダロウ。

最后小君就喊出声来：“妈妈，妈妈……”声音在黑夜里回荡，妈妈就是一动也不动。

小君突然“啊呀”地尖声一叫，跳起来就往外跑，踩错了地方，发出很大的声音，从深夜的高高的楼梯上滚下去了。原来，小君的妈妈已经死了。

这样就只剩下小君和她的弟弟妹妹了。她从楼梯上滚下去，碰伤了要害的地方，所以也起不来了。那幢房子里的人凑合在一起，要想法子替小君的妈妈办葬礼。那幢房子里住的都是穷人，他们说，穷苦人要是大伙儿不联合在一起，那才是可怜呢。

可是，守灵的那天夜里，守灵的人深夜醒来一看，本来供在灵前的东西一件也不剩，都不见了。这下子大家就闹开啦：看样子不象猫或老鼠干的事情——真不明白是怎么回事！

---

1. (キヤッ) 惊叫声。

2. (オツウヤ) 等于“お通夜(おつや)”。

3. (ドレモコレモ) 这个也好，那个也好；不管哪一个：全部。

ソノトキ、私<sup>わたし</sup>モオツウヤヲシテイタノデスガ、  
ナニゲナク君<sup>きみ</sup>チャンノネテイルトナリノヘヤニ入  
ッテイッタトキ、私<sup>わたし</sup>ハットシテ立<sup>た</sup>チドマッテシマ  
ッタノ。マア、コトモアロウニ<sup>1</sup>、ジブンタチノ  
死<sup>し</sup>ンダオ母<sup>か</sup>ッチャニアゲタモノヲ、君<sup>きみ</sup>チャンヤ弟<sup>おとうと</sup>  
ヤ妹<sup>いもうと</sup>ガ、ムチュウニナッテ、タベテイルデハナイ  
ノ<sup>2</sup>。私<sup>わたし</sup>ハオモワズ、コエヲ出<sup>だ</sup>シテシマッタノ。ソ  
レデ、ミンナガ入<sup>はい</sup>ッテキタノ。ドウシタ、ドウシ  
タッテ<sup>3</sup>。コノトキ、私<sup>わたし</sup>ニハドウシテモ、君<sup>きみ</sup>チャン  
タチハオソロシイ、ノドマデクチノサケタオニノ  
ヨウニオモワレタノ。

ミンナハ君<sup>きみ</sup>チャンニワケヲキイタノ。君<sup>きみ</sup>チャン  
ハ青<sup>あお</sup>イカオヲシテ、ダマッテイタノ。ソシテ、急<sup>きゆう</sup>  
ニワットナキ出<sup>だ</sup>シテシマッタノ。泣<sup>な</sup>キナガラ、君<sup>きみ</sup>  
チャンガ云<sup>い</sup>ッタワ。君<sup>きみ</sup>チャンタチハ、オ母<sup>か</sup>ッチャ  
ガ死<sup>し</sup>ヌ四五日<sup>しごにち</sup>モマエカラ、何<sup>なに</sup>ンニモタベルモノガ  
ナク、目<sup>め</sup>マイガシ、ムネガヒクヒクシ<sup>4</sup>、ペッタリ  
ネタキリダッタノ。長<sup>なが</sup>イアイダ、タベモノヲ見<sup>み</sup>タ  
コトモナカッタトコロへ、ハジメテソウシキノオ  
ソナエモノヲミルト、モウ矢<sup>や</sup>モタテモタマラズ<sup>5</sup>、  
目<sup>め</sup>ガクラクラッテシテ<sup>6</sup>、ソレニ小<sup>ちひ</sup>サイ弟<sup>おとうといもうと</sup>ヤ妹<sup>いもうと</sup>ナノ  
デ、死<sup>し</sup>ンダオ母<sup>か</sup>ッチャニワルイトオモイナガラ、  
スキヲネラッテ、ミンナデムチュウニナッテタベ

当时，我也在守灵。我无意中走进了隔壁小君睡的那间屋子，把我吓得在那里站住了。我的天呀，怎么干得出这种事！小君和她的弟弟妹妹正在狼吞虎咽地吃着给自己死了的妈妈上供的那些东西呢。我不由地惊叫起来，于是，大伙儿都跑进来了，问道：“出了什么事？怎么了？”那时，我不管怎样也觉得小君这群孩子，简直象一群张着血盆大口的可怕的魔鬼。

大家追问小君，这究竟是怎么回事？小君脸色发青，一声不吭，接着就突然放声大哭起来，一面哭着，小君说了真情。原来小君这些孩子们，自从妈妈死的四五天以前起，就什么也没有下肚，饿得头晕目眩，软弱无力，瘫软地躺着。很长时期没有看见吃的东西，忽然间看到了上供的那些东西，那简直是顾不得三七二十一了，两眼冒金星，再说，弟弟妹妹们也部小，所以虽然感到这样做对不起妈妈，但还是趁着没人瞧见，大伙儿什么也顾

---

1.〔コトモアロウニ〕 竟然；竟会有这种事。

2.〔デハナイノ〕 这里表示感叹。△彼は自動車がりっぱに運転できるのではないの。/他汽车不是开得很好嘛！

3.〔ツテ〕 相当于“と言って”。

4.〔ムネガヒクヒクシ〕 胸部微微抽动。形容饿得没有气力。

5.〔矢モチテモチマラス〕 忍耐不住；迫不及待；不管三七二十一。

6.〔目ガクラクラットシテ〕 头晕目眩；头脑发昏。

テシマッタンダッテ。

ナガヤノ<sup>ひと</sup>人<sup>ひとり</sup>たちハ、ソレヲキイテイルウチニ、  
一人一人<sup>ひとり</sup>ミンナモライ<sup>な</sup>泣キヲシテ<sup>1</sup>イタノ。

今<sup>いま</sup>デハ<sup>きみ</sup>君<sup>なほ</sup>チャンモモウ長<sup>なが</sup>イコトガナイ<sup>2</sup>ノ。ソレ  
デモトキド<sup>わたし</sup>キ私ニコンナコトヲイウノ。\*\*\*\*\*  
人<sup>ひと</sup>ッテ、ミンナコウヤッテ、オ<sup>と</sup>父<sup>と</sup>ッチャガ<sup>し</sup>死ニ、  
オ<sup>か</sup>母<sup>か</sup>ッチャモ<sup>し</sup>死ニ、ジブンモ<sup>し</sup>死ナサレテユクモノ  
ダナンテ、何<sup>な</sup>ントイウコトダロウ。カラダガナオ  
ッタラ、\*\*\*\*\*ニナッテ、\*ヲ\*\*  
テアルキタイナアッテ。

- 
1. (モライ泣キヲシテ) 流下了同情的眼泪。
  2. (長イコトガナイ) 长不了; 活不长。

不得就把上供的东西吃光了。

大杂院里的人们听了这番话，没有一个不同情得掉眼泪的。

现在，小君也活不了几天了；尽管如此，她还是常常对我这样说：咱们这些穷人，都是这样，爸爸死了，妈妈死了，自己也得跟着死，这是怎么回事呢！假如身体能复元，希望能成为\*\*\*\*，\*着\*\*，到处走。

## きず 疵

「モップル」(赤色 救援会)が「班」組織によつて、地域別に工場の中に直接に根を下し、大衆的基礎の上にその拡大強化をはかっている。

××地区の第××班では、その班会を開くたびに、一人二人とメンバーが殖えて行った。新しいメンバーがはいってくると、簡単な自己紹介があった。——ある時、四十位の女の人が新しくはいってきた。班の責任者が、

「中山のお母さんです。中山さんはとうとう今度市ヶ谷<sup>1</sup>に廻ってしまったんです。」

と、紹介した。

中山のお母さんは少しモジモジしていた。

私は自分の娘が監獄にはいったからといって、救援会にノコノコやってくるのが何だかずるいような気がしてならない<sup>2</sup>のですが……

娘は二三カ月も家にいないか<sup>3</sup>と、思っていると、よく所かつの警察から電話がかかってきました。

1. (市ヶ谷) 東京一地名、監獄所在地。

## 伤 痕

“赤色救援会”以“小组”的组织形式，分散在各个不同的地区，直接在工厂里扎根，打算在群众性的基础上，巩固和发展组织。

××地区的第××小组，每次开小组会的时候，组员总要增加一、二个人。新组员加入后，都要作简单的自我介绍。有一次，新加入了一位四十来岁的妇女。小组的负责人介绍说：

“这位是中山的母亲。中山这次终于被送进了市谷监狱了。”

中山的母亲显得有些难以启齿的样子。

“我总觉得，因为我的女儿进了监狱，就厚着脸皮到救援会来，这样做，似乎有点不象话……”

“常常是这个样子：女儿一失踪就是二三个月，然后我就接到我们那个地区的警察局打来的电话，

---

2. (気がしてならない) 总感到；总觉得。

3. (か) 表示不定。△一時間も歩いたかと思われるころ、後ろから車が一台やって来た。/约莫走了一小时光景，从后面来了一辆汽车。

お前の娘を引きとるのに<sup>1</sup>、どこそこ<sup>2</sup>の警察へ行  
けというのです。私はぎょう天して、もう半分泣  
きながらやっ<sup>い</sup>て行くのです。すると娘が下の留置  
場から連れて来られます。青い汚い顔をして、何  
日いたのか身体中ブーンと<sup>3</sup>いやなにおいをさせ  
ているのです。——娘の話によると、レポーター<sup>4</sup>  
とかいうものやっ<sup>い</sup>て、捕かまったそうです。

ところが娘は十日も家にいると、またひょっこ  
り居なくなるのでした。そして二三カ月もすると、  
警察から又呼びだしがきました。今度は別な警察  
です。私は何べんも頭をさげて、親としての監督  
の不行届を平あやまりにあやまって<sup>5</sup>連れてきま  
した。二度目かに娘は「お前はまだレポーターか」  
って、ケイサツでひやかされて口惜しかったとい  
っていました。私はそんなことを口惜しが<sup>6</sup>る必要  
はない。早く出て来てくれてよかったといいまし  
た。

娘が家に帰ってくると、自分たちのしている色  
んな仕事のことを話してきかせて、「お母さんはケ  
イサツであんなに頭なんか<sup>7</sup>下げなくたってい  
いんだ。」といいました。娘はどうしても運動をや

1. (に) 这里表示目的。

2. (どこそこ) 某处。

电话里说要我到什么地方的警察局去把她领回来，真把我吓了一跳，几乎是哭着跑到那儿去的。一到那儿，他们把女儿从下面的拘留房里带上来。她的脸又苍白又肮脏，不知道在里边呆了多少日子，弄得浑身一股难闻的臭味。据女儿说，她是当什么‘交通员’，正在进行联系时就被捕了。

“可是，女儿在家约莫住了十天左右，人又忽然不见了。过了两三个月，警察局又通知我去。这回是另一个警察局。我到那儿不知道赔了多少不是，一个劲儿地鞠躬，说都是我的错，是我这个作娘的没管教好孩子，才又把她领了出来。大概是在第二回吧，女儿说警察嘲弄她说：‘你还是个“交通员”哪？’她觉得很生气，我就对她说，这种事有什么可生气的，只要人能早点出来就好。

“女儿回到家里，就给我讲了许多她们干的那些事儿，她还说：‘妈妈，您用不着对警察那么一个劲儿地鞠躬。’女儿说什么也不肯放弃搞运动；我也

3.〔ブーンと〕等于“ふんと”，用片假名写是为了强调该词的意义。△ふうんと鼻をつく。/扑鼻而来。

4.〔レポーター〕 交通员。

5.〔平あやまりにあやまって〕 一个劲地道歉。

6.〔がる〕 接体言、形容词及形容动词词干后，表示显露出某种心理活动。△彼は非常に苦しがつた。/他显得非常痛苦。

7.〔なんか〕 接体言后，表示例示。△お前のお父さんなんか解放前はとても貧乏だったんだよ。/象你父亲哪，解放前可穷啦。

めようとはしません。私もあきらめてしまいました。  
それから直ぐ矢張り、又いなくなったのです。  
ところが、今度は半年以上も、消息はありません。  
そうすると、私は馬鹿で毎日毎日警察からの知らせを心待ちに待つ<sup>1</sup>ようになりました。(笑声)

スパイが時々訪ねてくると、私は一々家の中に  
上げて、お茶をすすめながら、それとなしに<sup>2</sup>娘の  
ことをきくのですが、少しも分りません。——す  
ると、八カ月目にです、娘がひょっこり戻っ  
てきました。何んだか、もとより<sup>3</sup>きつい顔になって  
いたように思われました。私はその間の娘の苦勞  
を思って、胸がつまりました。それでも機嫌よく  
話をしていました。

私たち親子はその晩久しぶりで——一年振りか  
も知れません——そろって銭湯に出かけて行しま  
した。「お母さんの背中を流して<sup>4</sup>あげるわ。」この  
娘がいつになく<sup>5</sup>そんなことをいいます。私は今ま  
での苦勞を忘れて、そんな言葉にうれしくなりま  
した。

ところがお湯に入<sup>6</sup>って何気なく娘の身体をみた  
とき、私はみるみる自分の顔からサーッと血の気  
の引いて行くのが分りました。私の様子に、娘も

毫无办法。不久，她果然又不见了。这一回足有半年多没消息。这么一来，我也真傻，竟开始一天天地盼望警察局来通知我。（笑声）

“特务时常来我家，我每次都把他们请到屋里，请他们喝茶，转弯抹角地探听女儿的消息，可是一点口风也套不出来。这样，大概到了第八个月吧，女儿突然回来了。不知怎地，她脸上的表情好象比以前更严肃了。想到女儿在这段时间里所受的苦，我觉得心口堵得慌。尽管如此，我还是高高兴兴地跟她说话。

“那天晚上，我们母女俩一起上澡堂去——很久没一起去了，也许有一年了吧。我那女儿难得地说：‘我来给妈妈擦背’。听了这话，我高兴得把以前所受的苦都忘光了。

“可是，当我泡在浴池里无意中看到女儿身体的时候，我感到自己的脸刷地一下变白了。女儿看到

- 1.〔心待ちに待つ〕一心等待着。
- 2.〔それとなしに〕转弯抹角地。
- 3.〔もとより〕比以前。
- 4.〔背中を流して〕擦背。
- 5.〔いつになく〕难得地。

おどろ  
驚いて、「どうしたの、お母さん？」<sup>かあ</sup>といいました。  
わたくし  
私は、どうしたの、<sup>どうしたの</sup>こうしたのじゃない<sup>1</sup>、まア、  
まア、お前の体は何んとした<sup>2</sup>ことだ<sup>3</sup>といいまし  
た。いいながら人前<sup>ひとまえ</sup>だったが、私は半分泣いてい  
た。身体中<sup>からだじゅう</sup>いたる所に紫<sup>むらさき</sup>色のキズがついてい  
る。

「ああ、これ？」<sup>むすめ</sup>娘は何んでもないことのように、  
「\*\*でやられたのよ」といった。

それから笑いながら、「こんな非道い目に会う  
ということが分<sup>わか</sup>ったら、お母さんはあいつらにお  
茶一杯のませ<sup>ちやいっぱい</sup>てやるなんて間違<sup>まちが</sup>いだということが  
分<sup>わか</sup>るでしょう！」——それは笑いながらいったので  
すが、然しこんなに私の胸<sup>むね</sup>にピンときた<sup>3</sup>ことがあ  
りませんでした。これは百の理窟<sup>ごやく</sup>以上です。

娘は次の日から又居なくなり、そして今度<sup>こんど</sup>とい  
う今度は<sup>こんど</sup>刑務所<sup>けいむしょ</sup>の方へ廻<sup>まわ</sup>ってしまったのでした。  
私は今でもあの娘の身体<sup>からだ</sup>のきず<sup>きず</sup>を忘<sup>わす</sup>れることが  
出来<sup>で</sup>ません。

中山<sup>なかやま</sup>のお母<sup>かあ</sup>さんはそういって、唇<sup>くちびる</sup>をかんだ。

1. (どうしたの、こうしたのじゃない) 什么怎么啦怎么啦的。

2. (何んとしたことだ) 怎么搞的。

我这样子，也吓了一跳，说：‘妈妈，您怎么啦？’我说：‘什么怎么啦怎么啦的，哎——，你身上是怎么搞的？’说着我也顾不得人前人后，就哭起来了。女儿浑身都是青一块紫一块的伤痕啊。

“‘噢，您说这个吗，’女儿象没事儿似地说，‘让他们用\* \*给拷打的。’

“接着她笑着说：‘要是知道我被毒打成这样，妈妈您就会明白，给那些家伙喝一杯茶也是不应该的！’虽然女儿是笑着说的，可是这话一直刺到我的心里，真是胜过一百个大道理。

“女儿从第二天起，又没影儿了。这回可真是被送进监狱去了。女儿身上的伤痕，我一直到现在也忘不了！”

中山的母亲这样说完，咬着嘴唇。

---

3. (胸にピンときた) 心里开了窍；心领神会。

4. (今度という今度は) 这一回。

## 母妹の途

誰よりも一番親孝行で、一番おとなしくて、何時でも学校のよく出来た<sup>1</sup>健吉が、この世の中で一番恐ろしいことをやると云う——

母親にはどうしても納得が行かなかった<sup>2</sup>。

見廻りの途中、時々寄っては話し込んで行く赫ら顔の人の好い駐在所の旦那が、——「世の中には恐ろしい人殺しという罪がある。強盗とか、強姦だとかいう罪もある。然し何が恐ろしいたって、この日本をひっくり返そうとする位おそろしい罪はないだろう」と云った。

矢張り東京へ出してやったのが悪かった、と母は思った。

どうしても村では親子がひもし<sup>3</sup>になるばかりだ。あっちへ行ったらウンと働いて皆を楽にしてやると、笑いながら出て行ったんだが……。

母親の何時でも眼やにの出る片方の眼は、何日も寝ないために、赤くただれて、何んでもなくても<sup>4</sup>独りで<sup>5</sup>涙がポロポロ<sup>6</sup>出るようになった。

1. (学校のよく出来た) 在学校里成绩很好。

## 母亲和妹妹的生活道路

听说，比谁都孝顺而且最老实的，学校里成绩一直优良的健吉，竟然干出世界上最可怕的事来了。

这对于母亲来说，怎么也想不通。

巡逻途中时常顺便来聊天的那位为人憨厚、脸色红润的派出所警察说：“世上有可怕的杀人罪，也有象抢劫啦、强奸啦那样的罪。但是要论什么罪可怕的话，那恐怕再没有比要颠覆日本这样的罪更可怕的了。”

母亲心里思忖：让儿子到东京去，还是不行。

“无论怎么样，在村子里，全家老小准会饿死。要是到了那边，我尽量多干些活，好让你们过得宽裕一点。”他就是这样笑着离开家里的，却不料……

母亲那只老是夹着眼屎的眼睛，由于好多天没有睡，已经肿得发红，即使没有什么外界的刺激，也不由得会扑簌扑簌地流下泪来。

- 2.〔納得が行かなかった〕 想不通。
- 3.〔ひもし〕 饿瘦，同“干ばし”。
- 4.〔何んでもなくても〕 即使没有什么也……。
- 5.〔独りで〕 自然而然地；自动地；单独地。
- 6.〔ポロポロ〕 扑簌扑簌地。

その辺<sup>へんいつたい</sup>一帯<sup>しぬし</sup>の地主<sup>いらものや</sup>で、荒物屋<sup>かく</sup>もやっている「角屋<sup>や</sup>」<sup>てつだ</sup>に手伝<sup>い</sup>いに行<sup>やす</sup>っていたお安<sup>あに</sup>が、兄<sup>あに</sup>のことから暇<sup>ひま</sup>が<sup>で</sup>出<sup>もど</sup>て<sup>戻</sup>ってきた。

「お安<sup>やす</sup>や<sup>けん</sup>、健<sup>なに</sup>は何<sup>なに</sup>したんだ？」

母親<sup>ははおや</sup>は片方<sup>かたほう</sup>の眼<sup>め</sup>からだけ涙<sup>なみだ</sup>をポロ<sup>だ</sup>出<sup>だ</sup>しながら、手荷物<sup>てにもの</sup>一つ<sup>もつ</sup>で帰<sup>かえ</sup>ってきた娘<sup>むすめ</sup>にきいた。

「キョウサントウだか<sup>か</sup>って……」

「なにキョ……キョ<sup>な</sup>何<sup>なに</sup>んだって<sup>か</sup>？」

「キョウ、サン、トウ」

「んか<sup>か</sup>……？」

然<sup>しか</sup>し母親<sup>ははおや</sup>はしばらくすると、その名<sup>な</sup>を忘<sup>わす</sup>れてしまった。

「兄<sup>あに</sup>のことがお前<sup>まえ</sup>にまでかかってくるなんて<sup>か</sup>、

……健<sup>けん</sup>は何<sup>なに</sup>したんだべ<sup>か</sup>？」

母親<sup>ははおや</sup>は独<sup>ひと</sup>り言<sup>こと</sup>のように、ブツブツ云<sup>い</sup>った。

小<sup>ちい</sup>さい時<sup>とき</sup>から仲<sup>なか</sup>の良<sup>よ</sup>かったお安<sup>やす</sup>は、この秋<sup>あき</sup>にはなんと<sup>か</sup>して<sup>か</sup>、東<sup>とう</sup>京<sup>きやう</sup>の監<sup>かん</sup>獄<sup>ごく</sup>に<sup>あに</sup>いる兄<sup>あに</sup>に面<sup>めん</sup>会<sup>かい</sup>に行<sup>い</sup>きたいと思<sup>おも</sup>った。

——お安<sup>やす</sup>は地<sup>じ</sup>主<sup>ぬし</sup>の角<sup>かく</sup>屋<sup>や</sup>に奉<sup>ほう</sup>公<sup>こう</sup>に行<sup>い</sup>っていたの

1. (角屋) 店名。
2. (暇が出て) 被解雇。
3. (や) 用于呼喚。△ばあさんや、ちょっと来てごらん。/我的老伴啊，你来一下。
4. (ポロ) 从前后文看，该词应为“ポロポロ”。

在本地的地主开设的“角记”杂货铺帮佣的阿安，由于哥哥的事情而被解雇回家了。

“阿安呀，健到底干了些什么啦？”母亲一只眼睛扑簌扑簌地流着眼泪，一边向挟了个小包裹回家的女儿打听。

“说是什么共产党……”

“什么，共……共什么？”

“共——产——党”。

“噢……？”

可是，过了一会儿，这个名称母亲就忘掉了。

“你哥哥的事怎么把你也连累了？真是……健究竟干了些什么呢？”

母亲好象自言自语地唠叨着。

从小跟健亲密无间的阿安，打算今年秋天无论如何要去探望一次关在东京监狱里的哥哥。

阿安由于在地主开的“角记”杂货铺里帮佣，因

---

5. (だか) 方言，相当于“だとか”。

6. (って) 这里表示反问。△転勤ですって？ずいぶん急な話ね。/你调动工作啦？怎么这样突然呢。

7. (んか) 方言，相当于“そうか”。

8. (なんて) 这里表示质问的语气。△さっき教えたばかりなのに、もう忘れてしまうなんて……/刚刚教过，这么快就忘啦！

9. (だべ) 方言，相当于“だろう”。

10. (なんとかして) 想办法。△なんとかしてやりたいんだが、どうにもならない。/爱莫能助！

で、自分たち百姓の暮らしがどんなに惨めで、角屋  
一家の毎日毎口の生活と比らべて、それがどんな  
に不公平であるかということが分っていた。それ  
で、兄の事件から急に母娘は村中に「肩身が狭く<sup>1</sup>」  
なったが、お安は母親ほどそんなではなかった。

お安はなんだか一日も早く兄に会いたかった。  
健吉からは<sup>2</sup>時々検印の押さった<sup>3</sup>封緘葉書<sup>4</sup>が  
来た。手紙は字の読めない母親のために、鄰りの  
人か妹に読んで貰えるように、平仮名か片仮名  
ばかりで、大きく書いてあった。

それが来ると、母親はお安に声を出して読ませ  
た。そして眼をつぶって聞いていた。

お安が知らず知らずにせきこんで早くなると、  
母親は「勿体ない」ような気がして、そこをゆっく  
り読み直さ<sup>5</sup>せた。

一つの手紙は次の手紙が来るまで、何べんも読  
みかえさ<sup>6</sup>れた。

とり入れの済んだ頃、母親とお安は面会に出て  
きた。

母親はそんなに長く汽車に乗ったことが今迄に  
無いので、なんでもめずらしがった。窓から顔を

1. (肩身が狭く) 不敢见人: 不好意思。  
2. (ほ) 从前后文看, 该词应为“は”。

此她懂得，咱们农民的生活是何等悲惨，与“角记”杂货铺全家一天天的生活相比，是多么的不公平。因此，虽然由于哥哥的事，而立刻使母女俩感到在村子里“见不得人”，但阿安并不象母亲那样感到丢脸。

阿安渴望能早日见到哥哥。

健吉时常有盖着查讫印章的书信寄来。为了那位不识字的母亲起见，他的信都是用平假名或片假名写得很大，以便请邻居或妹妹读给她听。

信一到，母亲就叫阿安大声念，她自己就闭着眼睛细听。

阿安不知不觉因焦急而读得快一些，母亲觉得太可惜，就要她慢慢地对那一段信重读一遍。

在下一封信寄来以前，这一封信总要反复读好几遍。

秋收结束后，母亲与阿安到东京探监去了。

母亲从来没有坐过那么长时间的火车，对什么都感到新奇。她一边探头窗外，眺望着一片片从眼

3. (押さった)等于“押された”。

4. (封緘葉書) 一种封口信件，类似国际邮筒。

5. (直さ) 五段动词“直す”的未然形，接动词连用形后，表示(有改进地)重作，△気に食わないので作り直した。/因为不称心，重做了一遍。

6. (かえさ) 五段动词“かえす”的未然形，接动词连用形后，表示重复、反复，△部屋を掃きかえす。/把房间重扫一遍。

出しながら、次々と眼の前を横切る田畑を見ながら「あ、ここはまだ刈っていない」とか、「この田はええ<sup>1</sup>実のりだのオ<sup>2</sup>」とか、しっきりなしに云った。

裁判所の構内で間違ついたり、階段を登りちがったり、ようやく予審判事から許可証を貰って、刑務所へやってきた。

刑務所は街はずれだった。

その途中二度ほど後から窓硝子に鉄棒のはまった自動車<sup>じどうしゃ</sup>が、母娘を追い越して行った。

母親は初め分らないような、あやふやな様子でそれを見ていたが急に身体をブルブルッと顫わせた。

「お安や、ありゃア<sup>3</sup>監獄の車だな？」

刑務所の前になると、母親は何を思ったのか、フィに道端にしゃがんで、顔を覆ってしまった。

お安は吃驚して、母親の身体をゆすぶった。

ワザワザ汽車に乗って、遙々と出てきたのだが、しかし、母親が考えていたよりも、以上に、監獄の、コンクリートの塀が、厚くて高かった。

それは母親の気持をテン倒させる<sup>4</sup>に充分だった<sup>5</sup>。

1.〔ええ〕 等于“良い”。

前飞驰而过的田野，一边接连不断地说：“啊，这里还没有收割！”“这儿的庄稼长得真不错！”

母女俩在法院的院子里慌慌张张地到处乱闯，甚至走错了楼梯，好不容易才从预审审判员那儿领到了探监许可证，便赶往监狱。

监狱在市郊。

前往监狱的路上，玻璃窗上装有铁栅的汽车有两次从母女俩身边开过。

母亲起初似乎并不知道，以疑惑不解的眼光瞧着那囚车，后来，她的身子突然抖抖索索地打起战来。

“阿安，那是监狱里的车子吧？”

到了监狱门前，母亲不知想到了什么，忽然蹲在路旁，双手捂住了脸。阿安吓得赶紧摇了摇母亲的身体。

母亲是特地乘了火车远道而来的，可是监狱的混凝土围墙比她原来所想象的更厚更高。这就足以使母亲吓得神魂颠倒。而且，一想到围墙里边那个

2.〔のオ〕等于“のう”。位于句末表示感叹。△暑いのお！/真热啊！

3.〔ちがっ〕五段动词“ちがう”的连用形（音便形），接动词连用形后，表示搞错。△汽車に乗りちがった。/乘错了火车。

4.〔ありゃア〕“あれは”的约音。

5.〔母親の気持をテン倒させる〕使母亲神魂颠倒。

6.〔…に充分だった〕接动词连体形或“动词连体形+の”后，表示足够。△馬を買うに充分な金を持って出かけた。/带上足够买马的钱，出门了。

しかもその中<sup>なか</sup>で、あの親孝行<sup>たまごころ</sup>もの<sup>けんきち</sup>の健吉<sup>あか</sup>が「赤<sup>あか</sup>い着物<sup>きもの</sup>」<sup>1</sup>をきて、高い<sup>たか</sup>小さい<sup>ちひ</sup>鉄棒<sup>てつぼう</sup>のはまった<sup>まど</sup>窓<sup>まど</sup>を見<sup>み</sup>上げて<sup>あ</sup>いるのか<sup>おも</sup>と思うと、急に<sup>きゆう</sup>何か<sup>なに</sup>が胸<sup>むね</sup>にムクムク<sup>むく</sup>ときた。そして眼<sup>か</sup>の前<sup>まへ</sup>がクラクラ<sup>くら</sup>した。——母親<sup>ははおや</sup>は貧血<sup>ひんけつ</sup>を起<sup>おこ</sup>していた。

仕方<sup>しかた</sup>なく、お安<sup>やす</sup>は母親<sup>ははおや</sup>を「差入屋<sup>さし入れや</sup>」<sup>2</sup>の台<sup>だい</sup>で待<sup>まち</sup>ていて貰<sup>もら</sup>うこと<sup>こと</sup>にして、独<sup>ひとり</sup>りで面会<sup>めんかい</sup>に行<sup>い</sup>かなければなら<sup>ら</sup>なかつた。

しばらくして、お安<sup>やす</sup>が涙<sup>なみだ</sup>でかたのついた<sup>きた</sup>汚<sup>きた</sup>ない顔<sup>かお</sup>をして、見<sup>み</sup>知ら<sup>し</sup>ない都<sup>と</sup>会<sup>かい</sup>風<sup>ふう</sup>の女<sup>おんな</sup>と一<sup>いつ</sup>緒<sup>しよ</sup>に帰<sup>かえ</sup>ってき<sup>き</sup>た。——お安<sup>やす</sup>はワキ<sup>わ</sup>を向<sup>む</sup>いてし<sup>し</sup>っきり<sup>き</sup>なし<sup>し</sup>に鼻<sup>はな</sup>をか<sup>か</sup>んだ。

その女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>は母<sup>ははおや</sup>親<sup>おん</sup>に自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>た<sup>た</sup>ちのし<sup>し</sup>てい<sup>い</sup>る仕<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>のこ<sup>こ</sup>とを話<sup>わ</sup>して、監<sup>かん</sup>獄<sup>ごく</sup>にい<sup>い</sup>る息<sup>むすこ</sup>子<sup>こ</sup>さん<sup>こと</sup>の事<sup>こと</sup>は少<sup>すこ</sup>しも心<sup>しんぱい</sup>配<sup>い</sup>は要<sup>い</sup>ら<sup>し</sup>な<sup>し</sup>いと云<sup>い</sup>った。然<sup>しか</sup>し母<sup>ははおや</sup>親<sup>おん</sup>は、駐<sup>ちゆうざい</sup>在<sup>ざい</sup>所<sup>しよ</sup>の且<sup>だんな</sup>那<sup>い</sup>が云<sup>い</sup>って<sup>おそ</sup>い<sup>い</sup>るよ<sup>よ</sup>うに<sup>い</sup>、あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>な恐<sup>おそ</sup>ろ<sup>ろ</sup>しいこ<sup>こ</sup>とを<sup>を</sup>し<sup>し</sup>た息<sup>むすこ</sup>子<sup>こ</sup>の面<sup>めん</sup>倒<sup>たう</sup>を見<sup>み</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>とい<sup>い</sup>う不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>な人<sup>ひと</sup>も世<sup>よ</sup>の中<sup>なか</sup>には居<sup>い</sup>るも<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>と思<sup>おも</sup>って、何<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>か訳<sup>わけ</sup>が分<sup>わか</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>かつた<sup>た</sup>。そ<sup>そ</sup>ば<sup>ば</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>お<sup>お</sup>安<sup>やす</sup>が鼻<sup>はな</sup>をぐ<sup>ぐ</sup>ず<sup>ず</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>せ<sup>せ</sup>ながら、その人<sup>ひと</sup>は「救<sup>きゆう</sup>援<sup>えん</sup>会<sup>かい</sup>」<sup>3</sup>とい<sup>い</sup>う処<sup>ところ</sup>で働<sup>はたら</sup>いてい<sup>い</sup>る人<sup>ひと</sup>で、勞<sup>ろう</sup>働<sup>どう</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>と</sup>か百<sup>ひゃく</sup>姓<sup>しやう</sup>と<sup>と</sup>か、そ<sup>そ</sup>う<sup>う</sup>い<sup>い</sup>う貧<sup>びん</sup>乏<sup>ぼう</sup>人<sup>にん</sup>のた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に働<sup>はたら</sup>いたた<sup>た</sup>め<sup>め</sup>に監<sup>かん</sup>獄<sup>ごく</sup>にい<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>れた人<sup>ひと</sup>達<sup>たち</sup>に差<sup>さ</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>たり、あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>残<sup>のこ</sup>さ<sup>さ</sup>れた家<sup>か</sup>族<sup>ぞく</sup>を元<sup>げん</sup>氣<sup>き</sup>づ<sup>づ</sup>け<sup>け</sup>たりす

孝顺的健吉穿着“红衣裳”，也许正在仰望那高的小铁窗时，心中就有一股说不出的滋味儿，接着眼前一片漆黑——母亲的贫血症又发了。

毫无办法，阿安只得让母亲到一家“商店”的柜台那边等着，自己一个人去见健吉了。

不久，阿安满面泪痕，跟一位陌生的城里女人一起回来了。阿安侧过脸去，不停地擤着鼻涕。

那位妇女向母亲讲述她们正在进行的工作，并且安慰母亲说：“你那监狱里的儿子丝毫不用担心。”但是，母亲想到世上竟然还有这样的怪人敢来照顾那个干了象派出所老爷所说的那种可怕事情的儿子，却感到不可理解。阿安在旁边一边抽泣，一边告诉母亲，听说这位大姐在“救援会”工作，她的任务是给那些为了工农劳苦大众的利益进行斗争而坐牢的人们送东西，或者为其家属做些鼓励工作。临走

---

1. (赤衣着物) 这里指囚服。

2. (差入屋) 专做给监狱里的犯人送东西之类生意的商店。

3. (かたのついた) 留下痕迹。

4. (駐在所の旦那が云っているように) 这一句整个修饰下面的“あんな恐ろしい”。

5. (面倒を見て) 照顾；照管。

6. (何んだか訳が分らなかった) 弄不明白是怎么回事。

7. (鼻をぐずつかせ) 酸着鼻子。

る仕事しごとをしているんだそうだはなと話はなしてくれた。  
——帰かえる時ときにその人ひとは健吉けんきちにハガキはがきを五枚ごまい差入され  
してくれた。

母親ははおやはワザワザで出てきて、とうとう自分じぶんの息子むすこ  
に会あわずに帰かえった。道々みちみち、その女おんなの人ひとは、お安やすに  
いろいろいろはなし話はなしをした。別わかれる時とき、お安やすは何なんべんもお  
れいれい礼れいを云いった。

「お安やすや、健けんはどうしてた<sup>1</sup>……？」

汽車きしやの中なかで、初はじめて母親ははおやは恐おそろしいものものに触ふれ  
るようようにビクビクとしながら訊といた。

「なんぼ働はたらいても、食くえない村むらより、あすこは、  
ウンとと気楽きらくだって笑わらっていたよ。——出でるときま  
で、お母かアにたっしゃでいてける<sup>2</sup>と……」

母親ははおやは一言ひとことも聞き洩きらさないようように聞きいてい  
た。

「あすこが気楽きらくだって? まア、あれはなんてこと  
云いうんだべ、なんてこと！」

母親ははおやは日本手拭にほんてぬぐいで顔かおを抑おさえた。

お安やすは昔むかしとちっとも変かわらない人ひとなつこい兄あにが編あみ  
笠がきをかぶり、番号ばんごうの片かたを襟えりにつけているのを見みる  
と、胸むねが一杯いっぱいになって<sup>3</sup>、沢山たくさんしゃべることことをよう意い  
して行いったのに、なんにも分わからなくなってしまっ  
たのだだった。

时，这位妇女送了五张明信片给健吉。

母亲特地为探望儿子才出来的，到头来却没有见到自己的儿子就回家了。路上，那位妇女跟阿安说了很多话。分别的时候，阿安再三向她道谢。

“阿安，健怎么样……？”上了火车，母亲才象涉及到一件可怕的事情似地、提心吊胆地问道。

“哥哥笑着对我说，比起劳动再卖力也吃不到饭的村子里来，那儿要快活得多。他还说，在他出狱之前，希望妈妈保重身体……”

母亲一字不漏地听着。

“那儿快活？我的天哪！他这是说什么话，什么话！”

母亲用手巾掩住自己的脸。

跟以往丝毫没有变样的、和蔼可亲的哥哥头戴斗笠，衣襟上缝着号码布，一看到这副神态，阿安就感到一阵心酸，本来准备要说的许多话，却不知道该怎么说了。

---

1.〔てた〕“ていた”的约音。

2.〔けろ〕方言，相当于“くれ”。

3.〔胸が一杯になって〕激动万分，心情悲凉。

「俺のしたことを外の人がどんな風に云ってる  
か知らないが、お前は自分の毎日毎日やっ  
ている生活からちゃアんと<sup>1</sup>判断しなければなら  
ないよ。分るかい<sup>2</sup>……！」

兄が編笠をいじりながらそう云った。

お安は救援会の人や兄の云ったことを何時まで  
も考えていた。

半年程して<sup>3</sup>、救援会の女の人は田舎から鉛筆書  
きの手紙を受取った。——それはお安が書いた手  
紙だった。

あなたさまのお話、いまヨク分りますよ、こっ  
ちミンナたっしゃです。あれからここでコサクそ  
うぎ<sup>4</sup>がおこりましたよ。私もやっています。あな  
たさまのお話やっぱりほんとうですネ。母はもう  
あきらめて、今では私ににぎりめしをにぎってく  
れます。そうぎのにぎりめしですよ。それでもま  
だキョウサントウといえません。

これからなかの兄さんにテガミかきます。兄さ  
んをいちばんよろこばせるてがみが、このそうぎ  
のことをかいたてがみだということが、ようやく  
分りましたよ。じゃ、げんきでいて下さい。私も  
ウンとげんきでいますよ……。云云。

1. (ちゃアんと) 等于“ちゃんど”。

“虽然我不知道别人会如何议论我的事情，但你应该根据自己每天所接触的生活，好好加以判断。懂吗……？”

哥哥摆弄着斗笠，这么说。

阿安一直思考着救援会的人和哥哥说的话。

大约过了半年之后，救援会的那位妇女接到了一封来自农村的、用铅笔书写的信——这信是阿安写的：

大姐说的话，现在我完全明白了。我们这儿大家身体都很好。从那以后，我们这里进行了减租斗争，我也参加了。大姐的话果然不错。母亲已经想开了。如今她给我做饭团子，这是为减租斗争做的饭团呢！不过，她仍然不会说“共产党”这三个字。

写完这封信，我就给在“里边”的哥哥写信。我这才懂得，最能使哥哥高兴的，就是写这种斗争情况的信。好吧，祝您健康。我也要好好加把劲……。

---

2. (い) 接疑问句后，表示强调。△たいへんだなあ、また出張かい？/又要出差啦？真够辛苦的啊。

3. (半年程して) 大约过了半年左右。

4. (コサクそうぎ) 佃农和地主之间，围绕减租等问题而展开的斗争。

## しつぎょう かしゃ 失業貨車

からだ うご へら へ しか きむ  
身体を動かすと腹が減る。——然し、寒いので、  
ジッとしていられない。みんなは未だ戸の開かな  
い「職業紹介所」の前で、しきりなしに足踏みを  
している。

あと あと はんてん ごと しつぎょうしゃ あつ  
後から後からと、半纏<sup>1</sup>着の失業者が集まって  
きた。

「やア！ 今日はどうかな？」

まいにちき かわみ し でき  
毎日来ているので、もう顔見知りが出来ていた。

せんそう はじ いいき だ だ い  
「戦争が始まったら、景気が出る出る<sup>2</sup>と云って  
いたが——フン、うまく担がれてしまったよ！」

いま だ  
「今に出るべ<sup>3</sup>ヨ……。」

さむ くらびる い なん  
寒いので唇がこわばり、ものを云うのが何だか  
たいぎ  
大儀だった。

みんなは足踏みをやめずに、ブツブツ云った。

くじ まえ さんびやくにん あつ  
九時になる前に、三百人ぐらゐも集まってき

た。

せんそう い せんそう はじ し やくしょ  
「戦争<sup>4</sup>って云えば、戦争が始まってから、市役所  
でも俺等ばすっかり見かぎってしまったな！」

# 失业货车

## 一

身子一动，肚子就饿。可是，天气冷，就不能不动。大家在尚未开门的“职业介绍所”门前不停地跺着脚。

身穿工作服的失业者，接连不断地聚集到这里来。

“哎！今天怎么样？”由于每天都来这里，人们已经混熟了。

“说什么战争开始后，情况一定会好起来。哼，上了它的大当了！”

“可能就会好起来……”

由于天冷，嘴唇也僵硬了，说起话来总有点吃力。大家不停地跺着脚，唧唧啾啾在发牢骚。不到九点，竟然聚集了三百来人。

“提起战争的话，自从开战以来，连市政府也撒手不管咱们啦！是不是？”有人啐了口唾沫说。

1. (半纏) (工人、匠人穿的)领上和背后染出姓名、店名的一种衣服。“半纏着”指穿这种衣服的人。

2. (景気が出る出る) 经济情况一定会好转。“出る”重迭表示强调。

3. (べ) 方言，相当于“だろう”。

誰かが、ペッと唾をはいた<sup>1</sup>。

「んだ<sup>2</sup>……な！」

「んだな、じゃないど<sup>3</sup>！何か云えば、戦争さ<sup>4</sup>。  
——この頃じゃ、俺等からまで金ばふんだくろう  
ってんだから——なア<sup>5</sup>！」

別なところに蹲んでいた髯面の出面取が、  
「俺ら今日、この洋服野郎の顎ばタタキ割って  
やるよ……」

と、嘯鳴った。すると、その直ぐ横にいた相棒  
が、肩を揺すりあげて、

「表じゃ、ヨク殴り殺してやるとか、タタキ割っ  
てやるとか言うが、一度も洋服さんが殴り殺され  
たことも、タタキ割られたことも聞かないよ！」  
と、笑った。

「茶化すな<sup>6</sup>い！あの野郎こんな事言いやがる<sup>7</sup>  
んだ。そうそうしつこく来たって仕事があるか<sup>8</sup>、  
満洲に出ている兵士の苦勞を考えてみる、二日三  
日飯を食わないなア<sup>9</sup>当り前だってよ！」

1. (ペッと唾をはいた) 啐了一口唾沫。

2. (んだ) 方言，相当于“そうだ”。

3. (んだな、じゃないど) 方言，相当于“そうだな、じゃないぞ(什么对不对的!)”

4. (何か云えば、戦争さ) 该句意思是：我们一提什么意见，他们就用战争来加以解释。

5. (この頃じゃ……なア!) 等于“この頃では俺等からまで

“是……啊！”

“什么是啊不是的！我们一提什么要求，他们就拿战争来搪塞。近来，他们竟想从咱们身上榨钱呐！”

蹲在另一个地方的满脸络腮胡子的临时工大声喊道：

“俺今天要把那穿西服小子的下巴打个稀巴烂！”

于是，他身旁的一个伙伴耸了耸肩膀笑道：“外面常有人说要打死他啦，砸烂他的头啦，可一次也没听说那穿西服的人被打死或被砸烂过呢。”

“别打岔！那小子竟说什么‘你老是到这儿来纠缠不休，难道就有工作了吗？想一想在满洲的那些士兵多辛苦！你们就是两、三天不吃饭，也是理所当然的呀！’”络腮胡子说话的声音越来越高，最后几

---

金をふんだくろうっていうんだからな！”。ってん：等于“っていうの”。

6. (な) 这里表示禁止。△百姓の辛苦を思つて穀類を粗末にするな。/应该体会农民的辛苦，不要糟蹋粮食。

7. (やがる) 接尾词，接动词连用形后，表示憎恨、嘲弄、轻蔑。△あいつ，俺を殴りやがった。/那家伙，打了我。

8. (か) 表示反问。△彼が，そんなことを簡単に引き受けるかい。/他怎么会轻易接受这种事呢？

9. (なア) “のは”的约音。

髯ひげづら面しりあげが尻おお上こゑりに大だきな声しまを出だして、終しまいをドナ  
るいように云いった。

「世間せけんさま様おなでも同いじこと云いってるよ……」

胸むねのひっこんだ、ヒョロヒョロの半纏はんてんぎ着たんが痰たんを  
のどにからませた。

「お蔭かげさま様おなで、ここっちアこゝろ愈々こゝろひぼした。」

「俺おれ、これこゝろで九日ここのか目めだよ！」

「まだええ方ほうだ……」

「馬鹿ばか野郎やろう、九日ここのかも食くわないで居おれるか、人間にんげん  
が！」

「俺おれア思おもうんだがな——」

髯ひげづら面こんどが今度みなは皆みまを見渡みわたすように背せのびして、大おお  
声こゑで云いった。

「毎日まいにちこんな処ところへお百ひやく度ど踏ふんだって、始はじまらな  
いよ！ 一ひとつ市役所しやくしよへ出で掛かけて行いって、しっかりし  
た腹はらを聞きいてきた方ほうがええと思おもうんだ！ 馬鹿ばかにし  
てる！」

三さん百ひやく人位にんぐらいの労働者ろうどうしやが急きゆうにガヤガヤし出した。

「行くべやア？」

何なん度も市役所しやくしよへは出で掛かけて行いっているのので、み  
んなは慣なれていた。

1. (世間様) 社会上的人们。

乎是喊起来了。

“人家也这么说……”

身穿工作服、胸膛瘪塌、个子瘦长的人一口痰壅塞在喉咙里。

“托福，我们饿得越来越瘦了！”

“我这已经是第九天了！”

“这还算好的……”

“浑蛋，还能九天不吃东西？到底是人呀！”

“我有一个想法——”

络腮胡子这回踮起了脚，向大家扫视一周，大声说：

“咱们即使天天到这种地方来百般央求也不中用！俺认为不如到市政府去打听一下他们的真实意图，这样太欺负人了！”

三百来个工人立刻起哄了。

“走吧！”

到市政府已经去过好几次，大家都习以为常了。

---

2.〔ア〕 等于“は”。

3.〔お百度踏んだって〕 该句原意为：在寺院内，选定一段距离，往返一百次，每次叩一个头，以求神拜佛。这里比喻多次上门求人。

4.〔始まらない〕 没用。△いくら心配しても始まらない。  
/再担心也没用。

5.〔腹〕 这里为“想法”、“打算”的意思。

6.〔馬鹿にしてる〕 太欺负人了。

7.〔行くべやア〕 方言，相当于“行こうぜ”。

「今度こそ、硝子の一枚でも\*\*\*\*\*してくるぞ！」

二

市役所では何時ものことなので、そんなに驚かなかった。

労働者たちはその隙をねらった。そしてドヤドヤと階段を登って、二階の市長室へ雪崩れ込んでしまった。不意を喰らって<sup>1</sup>市長はいきなりフカフカした椅子から飛び上がった。だが市長は直ぐベルを押して給仕を呼び、警察に電話をかけさせた。それから、皆の方を向いた。

「こんなに入り込まれては話は出来ん<sup>2</sup>！代表を三人選んで会おう！」

皆は「このままでええじゃないか」と頑張った。

最前列のものは後から後からと押されて、ガタガタ室のものをコワしながら、一杯につめ込んでしまった。皆は大きい広いテーブルを一つ隔てて、市長と向い合った。市長は周章で、顔の色を無くした——

「不謹慎だろう！……」

市長が云いかけたが、後を云わせない<sup>3</sup>。

1. (不意を喰らって) 遭到突然袭击。

“这次，哪怕是一块玻璃也要把它\*\*\*\*\*回来！”

## 二

市政府对于这类情况，早已司空见惯，所以并不那么吃惊。

工人们伺机“噤噤噤”地从楼梯上去，涌进二楼的市长办公室。看到这批“不速之客”，市长冷不防从柔软的椅子上蹿了起来。但他随即揿电铃呼唤工友，嘱他打电话给警察，然后对大家说：

“你们进来这么多人，不好讲话！选派三个代表来谈吧！”

大家坚持说：“就这样不是很好么！”

最前面的人不断地被朝前挤，只听得屋子里的东西“咯嗒咯嗒”都被挤坏了，到处挤满了人。大家隔着一张又长又宽的桌子，与市长正面相对。市长惊恐万状，脸无人色。

“太放肆了吧！……”市长开了腔，可大家你一言我一语的，不让他讲下去。

---

2. (ん) 表示否定，等于助动词“ぬ”。

3. (後を云わせない) 等于“皆は市長に後を云わせない(大伙儿不让市长讲下去)”。这里省略了“皆”和“市长”两个词，这种现象在日语里很多，翻译时应加以注意。

なん  
「何だって<sup>1</sup>?」

はらへ  
「腹が減ってるんだよ!」

いちど おれ うち き  
「——一度、俺の家へ来てみろ!」

みな いま にっぽん くに あ たたか  
「皆さん! 今わが日本は国を挙げて、戦っている  
とき  
時です! ……」

しちよう こと い した ほう  
市長がそんな事を云っているうちに、下の方が  
きゆう きわ ざうす こわ おと つづ  
急に騒がしくなった。硝子の壊れる音がそれに続  
いた。——「ケイサツだ!」誰か叫んだ。

なに けいさつ  
「何? 警察!」

ろくじゆうしや きゆう きつき  
カッ! となった労働者たちは急に殺気だった。  
しちよう つくえ かたむ おも でんわ き おと た  
市長の机が傾いたかと思うと、電話機が音を立て  
て<sup>2</sup>、土間に落ちた。

オーし みなとまち はまにんそく じ ゆうろうどうしや  
O市は港町だったので、浜人足<sup>3</sup>や自由労働者が  
おお 多かった。(その市では自由労働者のことを出面  
とり い し そくしよ らんとうじ けん  
取と云っている)——市役所の乱闘事件があつて  
し は と ば いつたい なん まつき だ じゆう  
から、市の波止場一帯は何となく殺気立った。十  
び まんだ まち しつぎようろうどうしや び せん ちか  
五万足らずの街で、失業労働者が五千に近かっ  
た。家族を入れる<sup>4</sup>と、一万以上の人たちが食えな  
かったのだ。

まえまえ もんだい し がん しか せん  
前々からこの問題は市の「癌」だった。然し「戦  
そう はじ いろいろ みな き せん  
争」が始まってから、色々なことが皆「\*\*」気分

1. (何だって) 你说什么? 注意: 这句话是大伙儿说的。

“你说什么?”

“我们饿着肚子呢!”

“到我家来看一看吧!”

“各位! 眼下正是我们日本举国进行战争的时刻……”

市长正在作这样的讲话时, 下面的群众突然骚动起来, 紧接着就是打碎玻璃的声音。“警察来啦!” 有人喊了一声。

“什么? 警察?”

工人们勃然大怒, 一时气氛十分紧张。刹那间, 市长的桌子被掀翻了, 上面的电话机哗啦一声落到地上。

O市是座海港城市。码头工人和日工很多。(该市把日工叫作“临时工”) 自从市政府的殴斗事件发生以后, 该市的码头一带, 气氛总感到十分紧张。这个不满十五万人的城市, 失业工人倒有五千。包括家属在内, 就有一万以上的人没饭吃。

这个问题很早以来就成了这个城市的“恶性肿瘤”。然而, 自从战争开始以后, 各方面的情况都被

---

2. (音を立てて) 哗啦一声。

3. (浜人足) 码头工人的旧称。

4. (入れる) 包括; 计算在内。△子供を入れると、全部で十人だ。/连孩子一起, 共十个人。

の方に持って行かれたので、市役所もホッと一息  
をついていたところだった。然し今となると、それ<sup>1</sup>が前よりモットひどくなって——突きかえっ  
てきた。それに警察からの報告によると、検束さ  
れているもののなかに「全国協議会<sup>2</sup>系」が居た。  
「全協系」と聞くと、市役所は今度は本当に周章て  
出した。警察と市役所の間に自動車が頻ばんに往  
き来を始めた。それと一緒に波止場や港町の警戒  
が急に厳しくなった。四五人労働者が話し合っ  
ていると、どんな事<sup>3</sup>にでも警官が駆けつけて行った。  
然し「職業紹介所」には前よりも沢山の失業  
者が集まってきた。暮が迫っているし<sup>4</sup>、どうして  
年を越していいか分からない！ それに金を解禁した  
とかしないとかで、急に物価が上った、それも  
「米の野郎<sup>5</sup>」から一番先きに上り出した、これで  
黙っていたら「くたぼる」ばかりだ！ それにもって  
きて<sup>6</sup>、戦争が始まってからは、市役所がすっかり  
そっぽ向いてる！  
警官がつくようになっても「職業紹介所」で、  
皆がワイワイ<sup>7</sup>した。誰か一人大声で、そんなことを  
しゃべると、直ぐ検束された。誰か検束されると、

1.〔それ〕指“色々なこと”。

2.〔全国協議会〕“日本労働組合全国協議会(1928—1937)”

带到了“\* \*”的气氛中去。因此，市政府也稍稍松了口气。可是如今，这类情况比以前更糟了。而且，根据警察局的报告，被拘留的人中有参加“全国协议会系统”的。市政府听说有“全协系”的，这回当真慌了手脚。汽车开始频繁地来往于警察局和市政府之间。与此同时，码头及港口一带也戒备森严。只要有工人三、五成群在一起谈话，不管你谈些什么，警察都会前来干涉。

但是，来到“职业介绍所”门前的失业者比以前更多了。年底就在眼前，还不知道如何过这个年呢！而且，由于黄金解冻不解冻的问题，闹得物价飞涨，这也首先是从“米”这个玩意儿开始上涨的。要是对此情况表示沉默，那只能是“死路一条”！更何况自从战争爆发以来，市政府对失业者已经丝毫不关心了！

市政府即使派了警察，人们照样在“职业介绍所”门前大吵大嚷。但只要有哪一个人大声谈论这类事情，就立刻会被逮捕。谁要是被捕，大家就会

---

的简称，亦称“全協”。

3.〔し〕接活用词终止形后，表示顺态连接。△あやまっているのだし，許してやりなさい。/他既然道歉了，你就原谅他吧。

4.〔米の野郎〕米这个玩艺儿。

5.〔それにもってきて〕况且；再说。

6.〔ワイワイ〕形容起哄时吵吵嚷嚷的情景。

7.〔そん〕从前后文看，该词应为“そんな”。

みな 皆はそれを羨ましそうに見送った。——何より第一に三度三度の飯が食えるし、今まで軒の下や公園の隅々にゴロ寝をしていたものは、ちっとした室に毛布に包まって寝れる。

こんな心理になっている失業者たちに、又若し「全協系」の魔手が延びられたら、今度こそは市役所が\*\*\*でもされるかも知れない。こうなると「戦争」戦争では、モウどうにもならなく<sup>3</sup>なってきた。

「失業貨車」が出来たのは、その結果である。

### 三

波止場の「石炭置場」に、網の目のように敷かれている入換線の所々には、事業不振から送貨の減少で、沢山の貨車が遊んでいる。それを一箇所を集めて、この冬をどうしても過ぎせないような「紹介所」襲撃や「市役所」押掛けの常連をそれらの貨車に三百人ほど住み込ませて、一日一回だけ「粥」の支給を始めたのである。——ところが、それは思い掛けない程の歓迎をうけた。ジメジメした長屋よりガッシリしているし、暖かかったし、それよりも何よりも「お粥」の支給がある！ みんなは別人になった<sup>3</sup>ように温なしくなってしまった。

以艳羡的眼光目送他离去。因为进去以后，无论如何一天三顿饭不用愁了；而且以前在屋檐下、公园角落里和衣而睡的人，现在也可以在正规的房间里裹着毛毯睡大觉了。

还有，如果“全协系”的魔掌伸进到具有这种心理状态的失业者中间去，那么，这次市政府可能会被\*\*\*了。那么，“战争”之类的话，也就不顶事了。

失业货车就是在这样的情况下出现的。

### 三

在码头的“堆煤场”里，蛛网似的调车线路上，由于业务不振，货运量减少，不少地方闲置着许多货车。市里就把这些货车集中起来，让那些实在无法过冬的、袭击“介绍所”和蜂拥闯进“市政府”的三百来个常客住进这些货车，并开始每天供应他们一次粥。然而即便如此，却也受到了意想不到的欢迎。货车比潮湿的大杂院牢固、暖和，最重要的是有“粥”供应！于是，大伙儿好象换了人似地变得温顺了。

1. (し) 这里表示并列。△うちの子は、勉強はしないし、お手伝いもしないの。/咱家的孩子，学习不用功又不肯帮家里做事。

2. (どうにもならなく) 无法收拾；不能解决问题。△私の力ではもうどうにもならない。/我已无能为力了。

3. (別人になった) (好象)换了个人。

警察からは交代に巡査がやってきて、その辺を見廻って歩いた。

毎日の新聞がそのことを書き立てた。それからO市では「失業貨車」という言葉が大流行になった。市の色々な名士が見学にやってきましたりした。

或る夜——暗い、雪の降っていた夜、石炭現場の黒い山の陰から、駅員<sup>1</sup>風の男が「失業貨車」に近寄ってきた。男は途中でしばらく立ち止まっていた。それからソロソロと歩き出した。男はそして、一番端の貨車にソッと寄り添った。——黒い貨車の色のなかに、そのままに吸われたように男の姿が消えてしまった。と、男は懐からピラを一枚取り出して、金具のついている扉のあいだから、それを差入れてやった。男は同じ動作を三度位くりかえした。——雪の降る夜は、物音一つ立たない。

男は次に、その隣の貨車に移って来た。貨車と貨車の切れ目のところだけ、男の姿が見えた。足元が暗いので、枕木から足を踏み外すと、カタッ<sup>2</sup>とかすかに音を立てた。丁度、三輛目に男が移ったときである。突然、向う端からあわただしい足音が起った。男は突嗟に、幾条ものレールを越し越し、もと来た石炭の山の方へ一散に馳出した。

警察局派巡警轮流在周围进行巡逻。

每天的报纸大肆渲染这件事。从此，“失业货车”这个词在O市就流行起来，市里各界知名人士也来这儿参观了。

一天夜里——这是一个大雪天的黑夜，一个车站工作人员模样的男子从堆煤场黑乌乌的煤山后面，向“失业货车”走来。他在中途停了一会儿，后来又慢慢地走来。接着他悄悄地贴近最后一节货车。他的身影就象被吸进去似地消失在货车的黑影里。于是，他从怀里掏出一张传单，塞进装有金属零件的门缝里。同样的动作，他重复了三次。——下雪天的夜晚，万籁俱寂。

接着，他移向隔壁一节车厢。只有在货车与货车之间的隙缝处，才能看见他的身影。脚底下很黑，从枕木上一失足，就会咔嚓咔嚓发出轻微的声音。当他刚要移到第三节车厢时，突然从那一头传来杂乱的脚步声。那人急忙越过一条条铁路，一溜烟奔向原来那堆煤山。

1. (駅員) 车站上的工作人员；站务员。

2. (カタッ) 喀嚓。

「あっちだ! あっちだ!」飛び出してきたのは、  
二人の警官だった。剣<sup>1</sup>を片手に抑えながら、男の  
後を追いかけた。十分位すると、二人の巡査は手  
ぶらで戻ってきた。そして、しきりに汗を拭いた。

「畜生め! とうとう逃がしてしまった!」

それから警官は各「失業貨車」の中を調べた。左  
の方の三つの貨車から、ピラが二三十枚出た。

「矢張り、全国協議会だ!」懐中電燈をピラの  
上に当てながら、一人の巡査はいまいましたように  
唇を噛んだ。

「フン! わざわざ網にひっかかりに今日来るか、  
明日来るかと待っていたのに! 馬鹿野郎め!」

「なんだい<sup>2</sup>——」と云って、相手の巡査はピラの  
上に懐中電燈を突きつけながら、「支、配、階、  
級の手に、乗る、な——だって<sup>3</sup>! オヤオヤ——お  
粥一杯、で、君イ<sup>4</sup>、たち、は、去、勢されてるん  
だ——我々は、君イたちを、待っ、てる……オイ  
ッ!」と云って、片手でピラをたたいた。

「貨車を即刻出ろ!」と書いてる。驚いた連中だ<sup>5</sup>」

ピラには、その次に、

——君達を「失業貨車」に粥一杯をエサに押し  
込んだのは、何ものをも犠牲にして君たちの先頭

1. (剣) (挂在腰間的)洋刀。

“在那边！在那边！”两个警察奔了过来。

他们一只手按着剑，去追赶那个男子。约莫过了十分钟，这两个警察空着手回来了，不停地擦着汗。

“他妈的，到底让他逃掉了！”

后来，警察就到每节“失业货车”里去搜查。从左边的三节车厢里，搜出了二、三十张传单。

“还是那全国协议会！”一个警察用手电筒照着传单，感到可恨地咬了咬嘴唇。

“哼！我们还是特地设下罗网，天天候着他的呢！这个混蛋！”

“什么玩意儿？”另一个警察用手电筒照着传单说。“什么‘不一要一上一统一治一阶一级一的一当！’暖呀呀！‘一碗粥一已一使一你一们一丧一失一斗一志一啦。我们等待着你们……’暖呀！”说着，警察用一只手敲了敲传单。

“他们写着：‘立刻从货车里出来！’真是一群怪人！”

传单上还写着：“他们之所以以一碗粥为诱饵，把你们塞进‘失业货车’，乃是出于他们那些家伙的

2. (なんだい) なんだ+い。

3. (だって) 表示重复别人说过的话，等于“…とっている”。

4. (君イ) 等于“君”。

5. (驚いた連中だ) 真是一群怪人。驚いた：想法、做法与众不同。

に立たって闖たたかかっている我々との間われわれを完全まいだに断かんち切ぜんろたうとする彼奴等あいつらの憎にくむべき意図いとから出でているのだ!

と、書かかれていた。

#### 四

ところが、二三日にして、一斉さんに「失業いっせい貨車しつぎようか」の不時点検ふじてんけんをやると、どの貨車かの中しやからも、前なかと同まえじピラおなが沢山たくさんに出でた。——それから夜よる、外そとから帰かえると、一人一人ひとりひとりに嚴重げんじゆうな身体検査しんたいけんさをすることになつた。

然しかしそれでもピラしつぎようかは「失業しや貨車も」に持こち込まれた。ゴム底足袋ぞこたびの中なかに入まれたり、それが見付みつかると、ゲートルなかの中まに巻まきこんだりした。ピラもを持もち込んだものは、警察けいさつに廻まわされた。失業しつぎようか貨車しやが出で来きてから、一時いちじはワザワザ留置場りゆうちじょうに入はいってくるものが無なくなったのに、又々またまた満員まんいんになり出だした。

それに加くわえて、北海道ほっかいどうの奥地おくちは殆ほとんど収獲しゆうかく皆無かいむという凶作きようさくなので、冬ふゆの間あいだの仕し事ごとを見付みつけるためみやくしやうに、百姓ひやくしやうたちがドンドンオーしの市でに出でてきた。それが殆ほとんど有ありもしないし仕し事ごとを奪うばい合あった。そういう連中れんちゆうが「失業しつぎようか貨車しや」の空あきに入いれてくれいと、市役しやく

可恶意图：他们想完全割断我们这些牺牲一切、站在斗争前列的人跟你们之间的联系！”

#### 四

可是，过了两、三天，对整个“失业货车”进行突击检查时，却不管从哪一节车厢里，都搜出了大量内容相同的传单。从此以后，警察就决定对从外面回来的每一个人逐个进行严格的抄身。

尽管如此，传单照样带进了“失业货车”。他们把传单塞进分趾胶底鞋里，要是被发觉了，那么就卷到绑腿里带进来，办法多种多样。带传单进来的人要被送进警察局去。自从产生了“失业货车”以后，一度不再有人故意要进拘留所去，可现在拘留所里却又人满为患了。

再加上北海道内地遇到了几乎颗粒无收的大灾年。农民们为了找点冬天的活儿干，相继来到了O市。他们互相争夺少得可怜的活儿。这些伙伴闯到市政府去，要求把他们安排到“失业货车”的空额中

- 
1. (ゴム底足袋) 分趾胶底鞋。
  2. (ありもしない) 根本没有。
  3. (入れてくれ) 要求摆进。

所に押しかけて行った。——市長と警察署長が腕をこまぬいてしまった。「失業貨車」にお粥の寄附をしていた市の金持ちが、ちっともその効果がないので、とうとう断ってきたのである。市でもどうしていいか、ホトホト持てあましてしまった。

お粥が出なくなると、貨車の中が騒ぎ出した。そのことがあって、始めて皆は、市が本当に自分たちを救済してくれるために「失業貨車」を仕立ててくれたのではなくて、ジッとさせて置くためのゴマ化しだったことが分った——それも、お粥たった一杯で!

一つ一つの貨車が、毎日ヒソヒソ相談が持たれた。失業貨車には夫婦者はいない。みんな係累がないので、相談ごとがあると、よく纏まった。——お粥の支給を継続させて貰うために、大挙して「市役所」へもう一度押しかけて行こうということが決まった。

「明日はなるべく眼につかないように、バラバラになっているんだ。」

口々に外の貨車のものに伝わってゆく。

「きっちり三時半だ。××呉服店横の空地に、分らないように一人一人が集まってくるんだ。」

「分ったか？」

去，市长和警察局长束手无策。城里那些原来给“失业货车”施粥的财主们，见此举毫无效果，终于停止了供应。市里感到问题非常棘手，不知怎么办才好。

一旦停止施粥，货车里的人就骚动起来了。这件事发生以后，大家才明白，市里并不是真正为了救济大家而设立“失业货车”的，而是要束缚住大家的手足所要的一个骗局。而它所利用的仅仅是一碗粥！

一节节的货车里，每天都在私下商量。“失业货车”里的人，都是没有老婆孩子牵累的，商量起问题来，容易取得一致意见。为了要求继续施粥，他们决定大队人马再次冲击市政府。

“明天大家要分散一点，尽量不要惹人注意。”人们相继传告其他货车里的人。

“三点半整一个个地集中到××布庄旁边的空地上，免得被人发觉。”

“明白了吗？”

---

1. (腕をとまぬいて) 束手无策。

わか  
「分ったよ!」  
さんじ はん はや おそ だめ けち  
「三時半は早くても遅くても駄目だぞ。蹴散らさ  
れないように、直ぐ集まって、直ぐ押しかけるん  
だ。」

わか  
「分った!」  
かくか しゃ う あわ わわ  
各貨車とも、すっかり打ち合せが終った。

## 五

ご よくてん しょうめん と つ おおど けい はり  
××呉服店の正面に取り付いている大時計の針  
が、思い出したようにギクッ、ギクッと<sup>1</sup>動きなが  
ら——三時半になった。

ちようど とき よこ あきう きゆう かんせい  
丁度その時、横の空地から急にワッ! と喚声が  
あが  
挙った。

あつ よ し ぎ しつぎようか しゃ  
集まってきたのは、不思議にも「失業貨車」の  
れんちゆう しょくぎようしょうかいじょ まいにち  
連中ばかりではなかった。「職業紹介所」に毎日  
つ か に さんびやくにん いつしよ  
詰め掛けているものが二三百人も一緒になっ  
ていた。——皆が集まった丁度その時、誰かが頭の  
うえ かな あ に ど さんど  
上にいきなりピラを撒き上げた。二度——三度!  
その度に、ワッ! と叫んだ。皆はピラを拾うため  
に、子供のように真剣に地べたの上を匍い廻った。

しつぎようか しゃ あか か しゃ  
☆「失業貨車」を「赤い貨車」にするんだ!

しつぎようか しゃ し しゆ われわれしつぎようしゃ  
☆——「失業貨車」を死守せよ! 我々失業者の

“明白啦！”

“三点半，过迟过早都不行哪！要马上集合，马上冲过去，免得被他们驱散。”

“知道了！”

各节货车里的人都商量好了。

## 五

挂在××布庄正面的大钟的时针，象想起了什么似地走走停停，终于走到了三点半。

正当这个时候，突然从旁边的空地上发出了“哇”的一声呼叫。

说也奇怪，集合的人不光有“失业货车”里的伙伴，连每天挤在“职业介绍所”门前的两、三百人也一起来了。正当大家集合完毕，突然有人向上面散发传单。一次，两次，三次！每次人们都“哇”地叫了起来，象孩子一样认真地趴在地上拾传单。

☆ 让“失业货车”成为“红色货车”！

☆ 誓死保卫“失业货车”！我们失业者的生

---

1. (ギクッギクッと) 走走停停。

せいかつ とうぜんあいつら ふたん ぜんし しつぎようしや くら  
生活は当然彼奴等の負担だ。全市の失業者に空

か しや めし あた  
貨車と飯を与えさせる!

こうふん しつぎようしや  
興奮した失業者たちは、ワッショ、ワッショ<sup>1</sup>  
……と表へ押し出した。

じ けん あと し じよやく だん しんぶん で  
この事件のあった後、市助役<sup>2</sup>の談が新聞に出  
た。それには——失業者が「赤く」なることを防  
ぐために、窮余の策として「失業貨車」を案出し  
たのだが、これらの連中はまるで錬金術師のよ  
うに、どんなものでも結局それを「赤く」させるた  
めのものとしてしまう。全く失業者の問題は「癌」  
だ! ところが、「癌」はそれを除去することが同時  
に母体をも殺すことになるそうだが、何だか問題  
がそっくりのような気がする……云々とあった。  
——昨年<sup>さくわん</sup>の暮<sup>くれ</sup>のことである。

- 
1. (ワッショワッショ) 游行时为了调整步伐喊出的声音。
  2. (市助役) 相当于副市长。

活，当然要由他们这批家伙负担。给全市失业者以空货车和饭食！

心情激动的失业者们“嗨哟嗨哟”地吆喝着向街上涌去。

这一事件发生以后，报纸上刊登了副市长的讲话。其中谈到：“为了防止失业者的赤化，我们无可奈何想出了‘失业货车’这个策略。而这伙人简直象炼金术士一样，不管什么措施，最后都能使它变成‘赤化’的工具。失业者的问题，完全是个‘恶性肿瘤’！可是，‘恶性肿瘤’这玩意儿，听说把它切除的话，那就同时连母体也杀死啦。我总觉得问题完全是这样……”

这是发生在去年年底的事。

## けんぼう さくぶん 健坊<sup>1</sup>の作文

ほつかいどう ムゆ たいへん さむい  
北海道の冬はたいへん寒いのです。しかし、あ  
ったかい着物きものを持っていない「貧乏人びんぼうにん」には、北海  
道どうの冬はモットモットも寒いのです。——みなさん  
も知っているように、暑いとか、寒いとか、地震  
とか、洪水こうずいとかいうものでさえ、金持かねもちと貧乏人びんぼうにんと  
ではやはりそのあたりぐあい<sup>2</sup>がちがっているの  
です。

とうきょう はらす か このさま ほつかいどう なんぜん  
東京にいる蜂須賀の殿様は、この北海道に何千  
町歩ちやうぶもの田たを持っていて、小作人こさくにんをいれてはた  
らかしていますが、昨年さくねんひどい不作ふさくにもかかわら  
ず<sup>3</sup>、ちっとも小作料こさくりようをへらしてもくれず、かえっ  
て小作人こさくにんの家いえの中なかにドカドカとおしこんできて、  
手てあたりしだいなんでもかんでも<sup>4</sup>さしおさえて  
しまいました。——かわいそうに、みなさんとお  
なじ年としごろのだれもかもブルブルふるえていな  
ければなりませんでした。

1. (坊) 一般接在小孩名字的第一个汉字(或该汉字的第一个假名加长音)后面, 表示亲昵。若名字就一个汉字, 而该汉字又

## 小健的作文

北海道的冬天是十分寒冷的。但是，对于没有御寒衣服的穷苦人来说，北海道的冬天就显得格外寒冷。正如大家所知道的，就连寒暑、地震、洪水等现象，对有钱人和穷苦人来说，其影响也还是有所不同的。

住在东京的蜂须贺老爷，在北海道拥有几千町步的土地，全叫佃农给他耕种。去年尽管大歉收，他却丝毫不减租，反而派了一批人粗暴地闯进佃户家里，看到什么就封什么，把佃户们的东西全都查封起来。可怜啊！所有那些跟大家年龄差不多的孩子们都冻得直打哆嗦。

---

有三个假名，则要接在该汉字的前两个假名（或其第一个假名加长音）后面。例如：中村・正夫（なかむら・まさお）→正坊（まさぼう）；豊田・穰（とよだ・みのる）→みの坊（ほう）。

2.（あたりぐあい）作用于…而得到的反映。

3.（町步）土地面积单位。一町步：约合我国的十五市亩。

4.（にもかかわらず）尽管；不管；虽然。△御多忙中にもにかかわらず、わざわざおいでくださいましてどうもありがとうございます。/百忙中特地光临，深为感谢。

5.（なんでもかんでも）不管什么（都）。△なんでもかんでもある。/什么都有。

はらす か のうじよう そうぎ お  
蜂須賀農場の争議はこうして起こったのです。

## 二

に がつじゆういちにち あさ (げんぼう) な  
二月十一日の朝でした。健坊はとつぜん泣きべ  
そをかきはじめました<sup>1</sup>。二月十一日といえは、紀  
げんせつ (げんぼう) ひ  
元節<sup>2</sup>でした。健坊たちはどのくらいその日「はか  
ま<sup>3</sup>」をはいて学校がっこうの式しきに出でかけて行くいのを楽しみ  
にしていたか知れません。しかしタンスの中なかのは  
かまはさしおさえられているのです。手てひとつつ  
けることができませんでした。

ひ (はらす か のうじようしやうがくせい) ぜんよ  
つぎの日から、蜂須賀農場の小学生たちは全部  
がっこう い  
学校へ行くことをやめてしまいました。そして  
そうぎ だん しょうがっこう てら か  
「争議団<sup>4</sup>の小学校」をお寺を借りてはじめました。

(げんぼう) (げんき) そうぎ  
健坊は元気なやつでした。そのにいさんも争議  
だん  
団ではいちばん元気がよかったために、とうとう  
ケイサツにひっぱられて行ってしまいました。  
てら がっこう (げんぼう) たいしやう  
——お寺の学校でも、健坊はいちばん大将だった  
わけです。

## 三

ひ (げんぼう) えんびつ  
ある日健坊たちはみんなで、鉛筆をなめなめ  
まくぶん つく  
「作文」を作っていました。

はらす か とのさま そうぎ  
蜂須賀の殿様がガンコで、争議はのびのびにな

蜂须贺农场的地租纠纷就是这样引起的。

## 二

这是二月十一日清晨，小健突然伤心得要哭起来。原来二月十一日这一天是纪元节。小健他们是多么高兴地盼望那天能穿上“裙裤”去参加学校的庆祝典礼啊！可是，衣柜里的“裙裤”被查封了，连碰都不能碰。

第二天起，蜂须贺农场的小学生全都不去上学了。佃农们借用寺庙，开办了自己的“争议团小学”。

小健是个很活跃的孩子。他的哥哥由于在争议团里活动得最积极，终于被警察抓去了。小健在寺庙的学校里也是个首屈一指的“大将”。

## 三

有一天，小健他们都在舔着铅笔做作文。

由于蜂须贺老爷非常顽固，减租斗争一直拖延

- 
- 1.〔泣きべそをかきはじめました〕 哭丧着脸。
  - 2.〔紀元節〕 传说中神武天皇即位的日子，现称作“建国記念の日”。
  - 3.〔はかま〕 类似我国蒙古族人穿的裙裤。
  - 4.〔爭議団〕 佃农为了同地主进行减租斗争而组织的团体。

っていたのです。それで、同盟休校している小学  
生の作文を発表して、社会の人たちの同情や、関  
心を高めようとするのでした。争議が長びくとど  
こでもよくこんなことをするものです。

できあがったものは、争議団の人たちがひとま  
とめにして持って行きました。——健坊は鼻をピ  
クピクさせていました。得意で得意でたまらなか  
ったのです。というのは、元気のいいにいさんが  
ケイサツにひっぱられて行く前にいつでもいって  
いたとおりのことを書いてやったからです<sup>1</sup>。「お  
らあ一番だに<sup>2</sup>！」

#### 四

次の日「北海タイムス」と「小樽新聞」をみると、  
かれんな児童のうったえを聞け！  
蜂須賀小作争議はますます悪化  
という見出しで、「争議団の小学校」の作文が三つ  
のっていました。それは仲間のうちでも一番いく  
じのない、いつでもメソメソしているお芳や直吉  
たちのものでした。しかしどうしたものか<sup>3</sup>、あの  
健坊のがのっていませんでした。

「……私たちがお寺へくる途中、町の学校へ通う  
お友だちとあうことがあります。そんな時はほん

不决。因此，佃农们打算发表正在罢课的小学生的作文，以争取社会的同情和关心。减租斗争一延长，不管什么地方也就经常采用这种办法。

孩子们写好的作文，由争议团的人收集起来带走了。小健翕动着鼻子，得意得不得了。因为他的作文是按照他那个干劲十足的哥哥被警察抓去之前常说的那些话写的。小健暗自思忖：“俺可得第一名啦！”

#### 四

第二天，看到《北海时报》和《小樽新闻》上以“听听可怜的儿童们的控诉吧——蜂须贺地租纠纷日趋恶化”为标题，刊登了“争议团小学”的三篇作文。那是小朋友中最懦弱、老是哭哭啼啼的阿芳和直吉他们写的。但不知怎的，小健写的却没有登出来。

“……我们到寺庙去的路上，有时碰到去镇上的学校念书的同学们，那时就真正感到寂寞、孤单，

- 
1. (というのは……からです) ……是因为…(的缘故)。
  2. (に) 方言，相当于“ぞ”。
  3. (どうしたものか) 不知怎么搞的。

とうにさびしくて、一日でも早くこの争議が終つて……」とか、

「お寺ハ寒クテ、ホントウニイヤデス。蜂須賀ノ殿サマニオ願イシ、ソレカラオトウサンヤニイサンニモ頼ンデ、一日も早く学校デ勉強シタイト思ッテイマス……」とか、そんなことばかりでした。

健坊はちっちゃいげんこをにぎって、思わず新聞をたたきつけました。——健坊はそんな泣きごとを書くくらいなら、ケイサツに在るにいさんの前で首をくびってみせると思いました、

## 五

では、健坊の「作文」はどんなものであるか？——健坊はなかなかのキカン坊だ。こんなことをかいているのです。みんなで読んでやってください。

「オ寺デ組合<sup>3</sup>ノ人カラベンキョウヲ学ウト、学校<sup>1</sup>デキイテイタ修身<sup>4</sup>モ国語モミンナウソデアッタコトガワカリトテモユカイダ。蜂須賀ノ殿様ハドロボーノ親玉<sup>2</sup>ダソウダ。ボクたちハ小サイケレ

1. (くらいなら)表示在前后项中选择后项。△降伏するくらいなら、死んだほうがました。/与其投降，还不如死了倒好。

希望这场地租纠纷能早一天结束……”

“寺庙太冷了，我真不愿意去。我想求求蜂须贺老爷，求求爸爸和哥哥，让我们早日到学校去读书……”

他们在作文中净写这些内容。

小健不由得握紧了小拳头猛击报纸。他心里想：与其写这种苦苦哀求的文章，还不如到关押在警察局里的哥哥面前去上吊自杀的好。

## 五

那么，小健的作文到底是怎样写的呢？小健是个很顽强的孩子，他是这么写的，请大家读一读吧：

“寺庙里，听了工会里的人给我们讲课后，我才明白了以前学校里教的修身课和国语课，全是胡说八道。懂得了这个道理，我感到非常愉快。据说蜂须贺老爷是盗贼的头目。我们虽然年纪还小，但我

---

2. (キカン坊) 倔强的孩子；顽强的孩子。

3. (組合) 工会。

4. (修身) 类似于我国解放前学校里的公民课。日本现改称为“道德”。

ドモ、トウサンヤニイサンニ<sup>ま</sup>負ケズニ、ミンナト  
一<sup>いっ</sup>ショニ死<sup>し</sup>ヌマデカ<sup>ちから</sup>ヲ合<sup>あ</sup>フセテ、アイツラヲヤ  
ツツケルコトニシヨウ。

ボクノニイサンハケイサツニ<sup>ひ</sup>引ッパ<sup>ひ</sup>ラレテイ  
ル。ケイサツハ良<sup>よ</sup>イ人<sup>ひと</sup>ノミカタデナクテ、<sup>かねもち</sup>金持ダ  
ケニペコペコスルケモノダ。コレモ<sup>がっこう</sup>学校デハウソ  
ヲオシエテイタンダ。ボクたちノミカタハボクた  
ちバカリサ……。」

どうです! ——みなさんも<sup>けんぼう</sup>健坊<sup>ま</sup>に負けないよう  
にしようではありませんか。

们决不落在父兄后头，誓死跟大家团结一致，同心协力，把那些家伙打翻在地。

我的哥哥被警察抓去了。警察不是好人的朋友，而是只会对有钱人点头哈腰的野兽。这一点，过去学校里教的也是骗人的鬼话。我们的朋友，只有我们自己……”

怎么样，我们大家也不要落在小健的后头吧！